

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 15 号 (2009年度)

KPMNH Yearbook

No. 15

2009. 4 - 2010. 3

Web版



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN

Jan. 2011

館長あいさつ

1995年に開館した当博物館は、いよいよ15年を数え、これまで430万人を越える来館者をお迎えすることができました。ライブラリーの利用者や講座あるいは観察会などへの参加者もふくめると、当館はもっと多くの方々に活用していただいております。景気の動向を反映した事業費の落込みや老朽化した施設設備の更新ができないこともあって、皆様のご希望にそえないこともあります。来館される皆さんが新たな発見と驚きを体験できるようにと願いながら、私たちは豊富な資料を揃える努力を続けております。

当館の基本的な活動である自然史研究、その成果は特別展や企画展として公開されてきております。常設展示では、地球誕生から地球生命史、生物多様性の不思議、神奈川と周辺の自然、および自然と人間の共生などについて、基本的に大事なことを紹介しています。展示には、最新の学術上の発展を反映させる必要がありますが、大がかりな展示更新ができないため、ジャンボブック展示やライブラリーのミニ企画展示コーナーにおいて、ほんの一部を手作りで紹介するだけというのが現状です。

激しく変化してきた地球環境、進化と絶滅を繰り返してきた地球生命、眼にはみえなくても刻一刻と変化し続ける現在の自然、そこで繰り広げられる多様な生物の活動、博物館はこうした変化を探りながら、資料収集を行っています。これらは科学的な知的財産として次の世代さらに次の世代へと引き継がれ、そして大事なことや面白いことが未来の子どもたちへと伝えられていきます。このような役割を果たすことができるのは、博物館だけといってよいでしょう。そして博物館の活動を支えているのは、来館者の皆さんをはじめ、ボランティアや友の会、そして県当局の皆さんです。

博物館活動の概略を年報としてここに記録し、博物館という襷に託して神奈川県立生命の星・地球博物館の科学的文化を未来へ繋いでいくために、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2010年12月24日

神奈川県立生命の星・地球博物館

館長 齋藤 靖二

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源 (DNA) を表すスパイラル (らせん) をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として地

球の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

館長あいさつ	1		
神奈川県立生命の星・地球博物館の使命	2		
シンボルマーク・ロゴタイプ	2		
I 沿革	4		
1. 沿革	4		
2. 2009 年度の主な出来事	5		
II 機能	6		
1. 運営管理機能	6		
1.1. 事業体系	6		
1.2. 組織	7		
1.3. 職員名簿	8		
1.4. 入館者	9		
1.5. 歳入歳出決算	9		
2. 情報発信機能	10		
2.1. 常設展示	10		
2.2. 特別展示	13		
2.3. 活動報告展およびその他の展示	14		
2.4. ミュージアムシアター	15		
2.5. ビデオライブラリー	17		
2.6. ミューズ・フェスタ 2010	17		
3. シンクタンク機能	19		
3.1. 調査研究事業	19		
3.2. 研究発表会	19		
3.3. 研究助成金による研究	19		
3.4. 著作活動・学会発表等	20		
3.5. レファレンス件数	29		
3.6. 各種委員・役員・非常勤講師・その他	29		
3.7. 講師依頼等	32		
3.8. 学術交流	34		
3.9. 他施設・団体への協力	34		
3.10. 外部研究者の受け入れ	34		
3.11. 名誉館員	34		
4. データバンク機能	35		
4.1. 資料概況	35		
4.2. 図書資料収集状況	44		
4.3. 資料利用状況	44		
4.4. 資料燻蒸	45		
5. 学習支援機能	46		
5.1. 生涯学習への対応	46		
5.2. 学校教育への対応	51		
5.3. 博物館実習	53		
5.4. 各種研修	54		
5.5. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動	55		
5.6. 学習指導員による学習支援活動	55		
5.7. 博物館のボランティア活動	59		
5.8. 友の会	62		
5.9. 広報	63		
6. 刊行物	65		
6.1. 定期刊行物	65		
6.2. 刊行物販売状況	67		
7. 情報システム	68		
7.1. システムの概要	68		
7.2. サブシステムの紹介	69		
7.3. インターネットの利用	70		
7.4. 情報提供	70		
8. 連携機能	71		
8.1. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	71		
8.2. サロン・ド・小田原	71		
8.3. 館内施設等の状況	72		
III 資料	73		
1. 条例・規則	73		
1.1. 神奈川県立の博物館条例	73		
1.2. 神奈川県立の博物館組織規則	74		
1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則	74		
2. 館年表	76		
2.1. 再編整備決定から開館まで	76		
2.2. 開館から 2009 年度末まで	76		
3. 統計資料	80		
3.1. 利用者状況	80		
3.2. 入館者実績	82		
3.3. 特別展・企画展開催実績	84		
3.4. 資料登録実績	86		
3.5. ホームページアクセス実績	87		
4. 調査研究関連資料	88		
4.1. 研究成果	88		
4.2. 研究成果（外部資金助成・共同研究等）	96		
5. 施設概要	98		
5.1. 土地・建物	98		
5.2. 設備	99		
5.3. 面積表	101		
5.4. 平面図	102		
ご利用案内	104		

I 沿革

1. 沿革

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応大学名誉教授））から提言
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990 年	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10 月	建築基本設計着手
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10 月	第一期造成工事着手
1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994 年	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
	3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3 月 8 日	平成 6 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3 月 20 日	開館記念式典実施
	3 月 21 日	一般公開開始
	5 月 7 日	入館者 10 万人到達（41 日目）
	9 月 24 日	入館者 30 万人到達（158 日目）
1996 年	4 月	シンボルマーク製作
	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（321 日目）
1997 年	7 月 23 日	入館者 100 万人到達（705 日目）
1998 年	3 月 30 日	天皇陛下・皇后陛下行幸啓
	11 月 3 日	入館者 150 万人到達（1,090 日目）
2000 年	3 月 31 日	濱田隆士館長退任
	4 月 1 日	青木淳一館長就任
	8 月 6 日	入館者 200 万人到達（1,613 日目）
2001 年	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会協議会を廃止
2002 年	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（2,206 日目）
2004 年	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（2,770 日目）
2006 年	3 月 31 日	青木淳一館長退任
	4 月 1 日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる。 斎藤靖二館長就任
	7 月 8 日	入館者 350 万人到達（3,409 日目）
2008 年	8 月 12 日	入館者 400 万人到達（4,062 日目）

2. 2009 年度の主な出来事

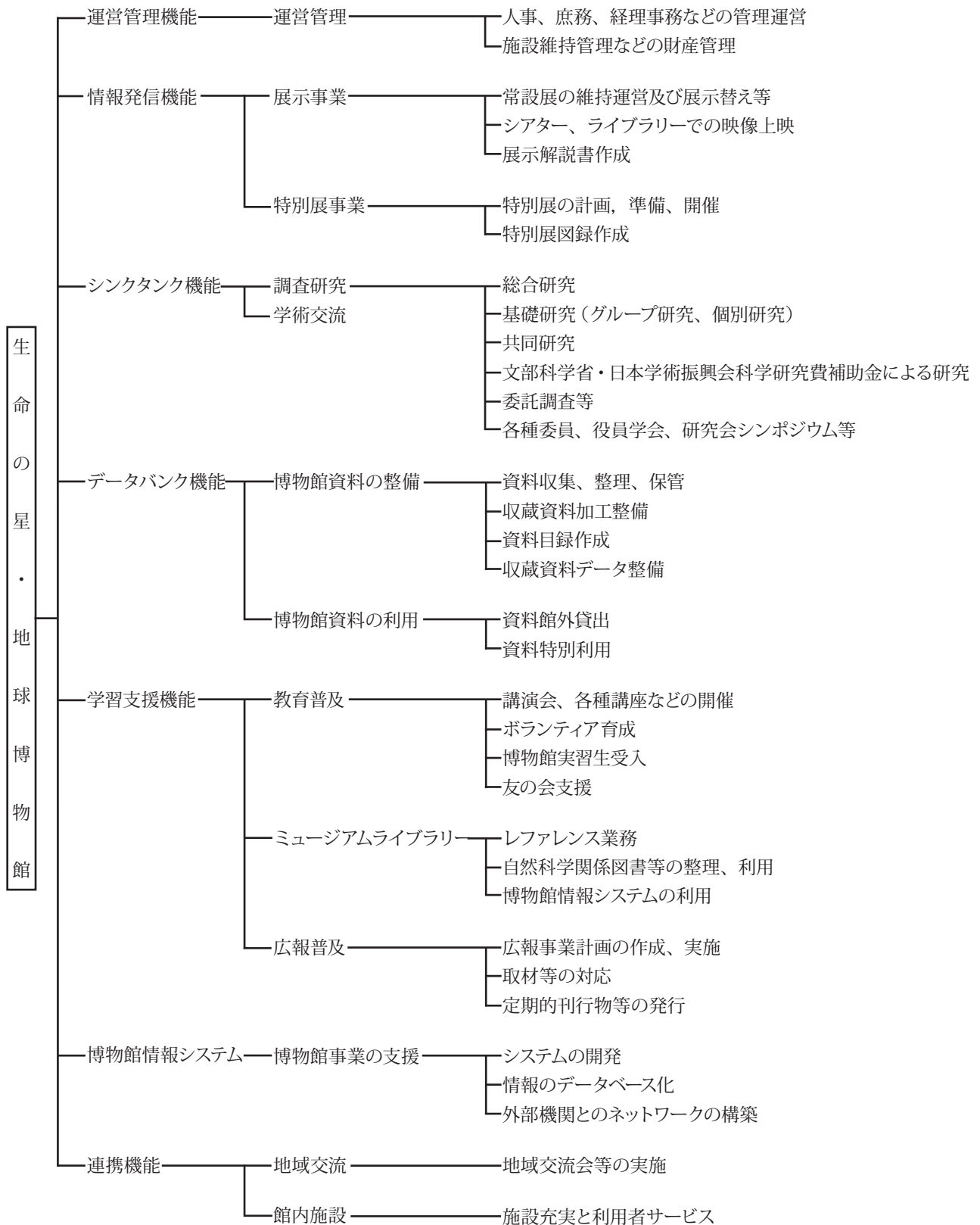
2009 年	4 月 1 日	定期人事異動
	4 月 18 日～ 5 月 31 日	活動報告展「学芸員の活動報告」
	4 月 15 日～ 16 日	定期監査
	5 月 22 日	サロン・ド・小田原「神奈川県植物誌の魅力」
	5 月 12 日	防災訓練
	6 月 11 日	全国科学博物館協議会総会
	6 月 14 日～ 18 日	燻蒸
	7 月 18 日～ 11 月 8 日	特別展「木の洞をのぞいてみたら～樹洞の生きものたち～」
	7 月 20 日～ 8 月 31 日	夏休み中無休開館期間
	7 月 24 日	サロン・ド・小田原 in 小田原ラスカ「地球 46 億年の歴史を訪ねて」
	8 月 2 日	自然科学講演会「洞の生きものから人々の歴史が見える」
	9 月 12 日	サロン・ド・小田原「樹洞さがしの旅から」
	11 月 11 日	防災訓練
	12 月 5 日～ 2 月 21 日	企画展「押し葉～古瀬 義 植物標本コレクション～」
2010 年	1 月 9 日	サロン・ド・小田原「プラントハンター フォーリーの生涯」
	2 月 25 日	全国科学博物館協議会総会
	3 月 13 日	ミューズ・フェスタ 2010
	3 月 20 日	サロン・ド・小田原「しんかい 6500 潜航記」
	3 月 20 日～ 4 月 4 日	子ども自然科学作品展

博物館の再編整備の決定以降、2009 年度までの出来事の詳細
に関しては、資料の項（76 ～ 78 ページ）に掲載した。

II 機能

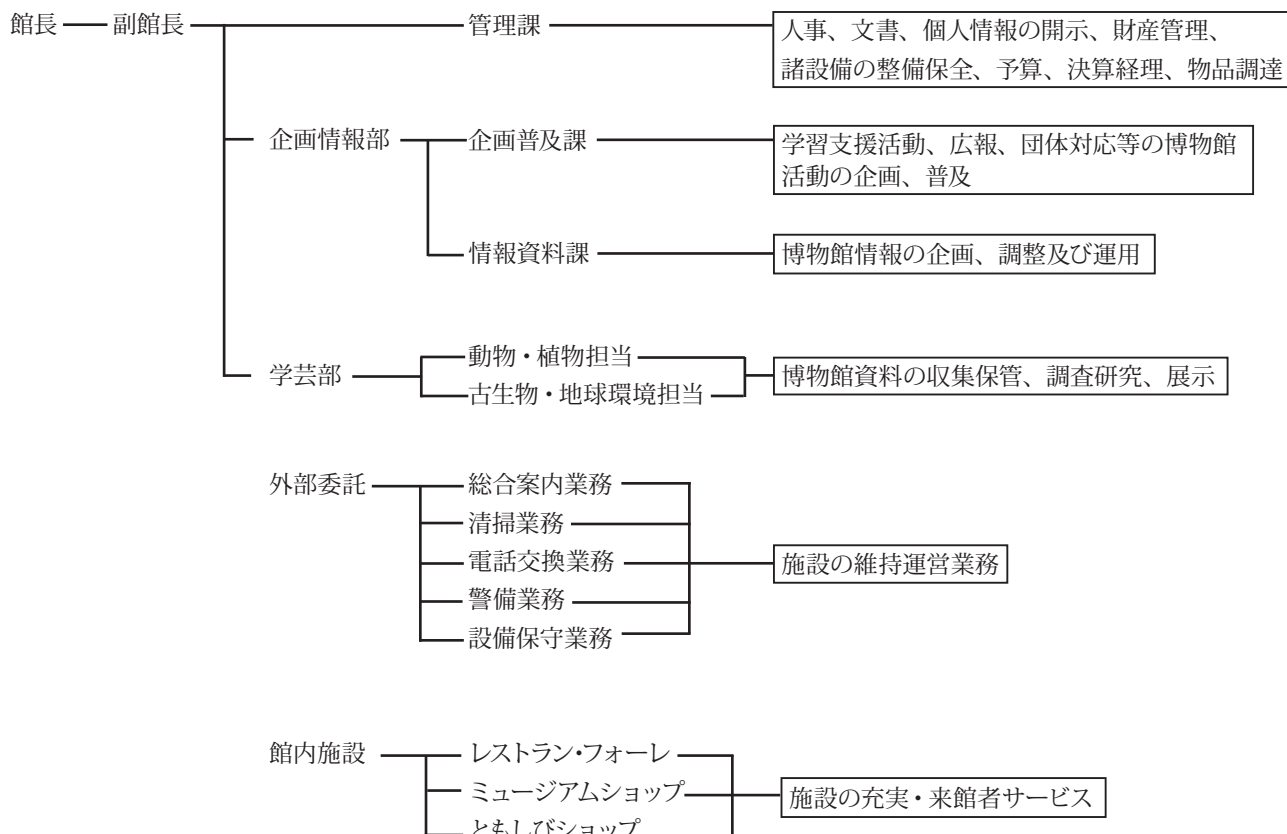
1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

[平成 22 年 3 月 31 日現在]											
区分		常勤				非常勤				合計	
		事務職	技術職	学芸員	司書	館長	事務職	技術職	学芸員	司書	指導員
館長						1					1
副館長		1									1
管理課		9					1	1			11
企画情報部	部長	1									1
	企画普及課	4		4			1				5
	情報資料課	1		1					1		3
小計		6		5			1			1	5
学芸部	部長			1							1
	動物・植物			7				1			8
	古生物・地球環境			4							4
	小計			12				1			13
合計		16		17		1	2	2		1	5
		33								11	
指導員＝博物館学習指導員 再任用職員は常勤に含む											

[平成 22 年 4 月 1 日現在]											
区分		常勤				非常勤					合計
		事務職	技術職	学芸員	司書	館長	事務職	技術職	学芸員	司書	指導員
館長						1					1
副館長		1									1
管理課		9					1	1			11
企 画 情報部	部長	1									1
	企画普及課	4		4			1		1		5
	情報資料課	1		2	1					1	5
学芸部	小計	6		6	1		1		1	1	5
	部長			1							1
	動物・植物			7				1			8
	古生物・ 地球環境			4							4
小計				12				1			13
合計		16		18	1	1	2	2	1	1	5
		35				12					47
指導員＝博物館学習指導員 再任用職員は常勤に含む											

1.3. 職員名簿

掲載省略

1.4. 入館者

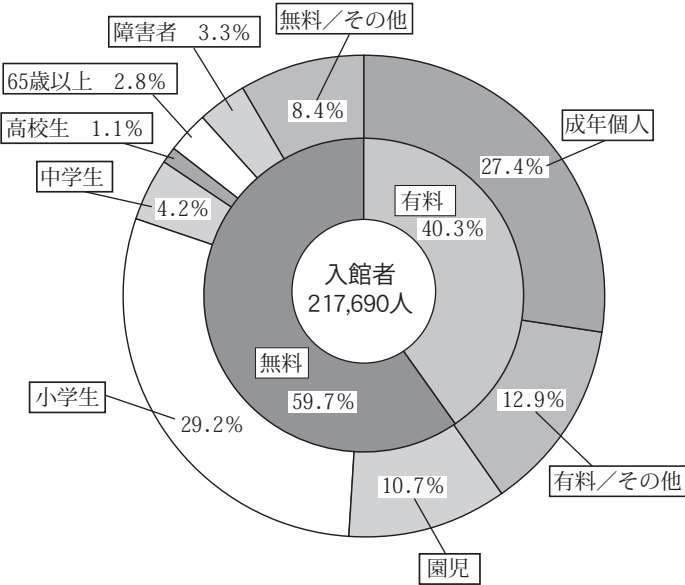
2009 年度の入館者数は 217,690 人であった。開館日数は 306 日であったため、1 日平均入館者数は 711.4 人であった。入館者数の内訳は、有料入館者 87,628 人（全体比 40.3%）、無料入館者 130,062 人（全体比 59.7%）であった。内訳に関しては、表およびグラフのとおりである。

なお、詳細な入館者統計に関しては、資料の項（2009 年度の利用者状況は 80 ～ 81 ページ・開館以来の入館者実績は 82 ～ 83 ページ）に掲載した。

入館者状況

	入館者数 (人)	1日平均 (人)	全体比 (%)
有料 入館者	成年個人	59,699	27.4
	同上特展のみ	766	0.4
	未成年・学生個人	2,341	1.1
	同上特展のみ	56	0.0
	高校生	1,371	0.6
	同上特展のみ	20	0.0
	65 歳以上	15,618	7.2
	同上特展のみ	214	0.1
	成年団体	2,819	1.3
	未成年・学生団体	182	0.1
	成年割引	4,052	1.9
	未成年・学生割引	490	0.2
	小計	87,628	40.3
無料 入館者	園児	23,337	10.7
	小学生	63,672	29.2
	中学生	9,235	4.2
	高校生 (減免対象者含む)	2,290	1.1
	65 歳以上 (減免対象者含む)	6,124	2.8
	障害者	7,205	3.3
	その他	18,199	8.4
	小計	130,062	59.7
	合計	217,690	100.0

入館者の内訳



1.5. 歳入歳出決算

平成 21 年度歳入

科目	金額 (千円)	内訳
教育財産使用料	2,413	レストランほか 建物等使用料
博物館使用料	39,102	観覧料収入
		常設展 35,731
		特別展 3,371
受託事業収入	4,000	森林総合研究所からの 受託研究費
受講料収入	100	県立機関活用講座受講料
立替収入	1,320	レストランほか 電気・ガス・水道
雑入	1,506	展示解説書等販売収入 ライブラリー複写代
合計	48,441	

平成 21 年度歳出（人件費を含まず）

科目	金額 (千円)	内訳
維持運営費	178,720	館の維持管理及び事業運営
展示事業費	17,820	総合案内業務 特別展の開催
調査研究事業費	6,499	総合研究・基礎研究 調査研究報告書の作成
資料整備費	5,100	博物館資料収集 収蔵展示資料修繕・加工
学習支援事業費	2,442	各種講座・講演会等の開催・図書等資料 整備・広報資料作成
県立機関活用講座 開催事業費	151	講座「フィールドワーク入門」 開催
情報システム整備費	1,893	データ入力等
合計	212,625	

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46 億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の営みの神秘性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもって分かりやすく展示している。

具体的には、4 つのサブテーマ及びジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映するミュージアムシアター、ミュージアムライブラリーに設けられているビデオライブラリーなどで来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールでは、地球の陸、海、空という地球の環境に生物を代表して、陸：恐竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラとトウプクスアエラ）を展示した。

また、「記念写真コーナー」としてエントランスホール・

シアター入口付近にアラスカヒグマの本剥製を 2005 年 11 月 3 日より展示している。この標本の背景には現地の風景写真が大きく飾られ、脇には写真撮影用にステージを設置している。ウェルカムベアとして人気を博している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の 4 つのサブテーマに分けて展示を行っている。

展示室 1「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

展示室 2「生命を考える」では、約 4 億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

展示室 3「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製、植物模型などで展示している。

展示室 4「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつづけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響をうけ変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

「地球との共生を考える」展示室

「CPU ルーム前展示コーナー」展示更新

〔展示期間〕 2009 年 10 月 8 日～

〔展示概要〕 地球観測衛星 Terra/ASTER VNIR の観測した立体視用の画像について、観測軌道の異なるものを連結処理を行って一枚にまとめ、壁面に掲出した。

〔展示資料〕 余色立体図「関東から中部」

〔担当〕 新井田秀一

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。

2009 年度の展示更新

第 17 巻 神奈川の植物『四季のいどり（春の植物）』

〔展示期間〕 2009 年 3 月 7 日～ 5 月 14 日

〔展示内容〕 春の野山の花々

原色標本：オニグルミ・コブシ・ハハコグサ・ミツバツチグリ・フジ・ツクバネソウほか

模型：カタクリ・イチリンソウほか
〔担当〕 勝山輝男・田中徳久
〔協力〕 植物ボランティア

第 17 巻 神奈川の植物『四季のいろいろ（夏の植物）』

〔展示期間〕 2009 年 5 月 15 日～ 8 月 7 日
〔展示内容〕 ウツギの名を持つ植物・カエデとシデの仲間
原色標本：ウツギ・バイカウツギ・コゴメウツギ・イロハ
モミジ・ハウチワカエデ・サワシバほか
模型：ニシキウツギ・ベニバナツクバネウツギ
写真：イワシデ
〔担当〕 勝山輝男・田中徳久
〔協力〕 植物ボランティア

第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ（夏から秋の植物）』

〔展示期間〕 2009 年 8 月 8 日～ 12 月 18 日
〔展示内容〕 夏から秋の野山の草花・カエデとシデの仲間
原色標本：テンニソウ・ヤマハギ・ウメバチソウ・リンドウ・
イロハモミジ・ハウチワカエデ・サワシバほか
写真：イワシデ
〔担当〕 勝山輝男・田中徳久
〔協力〕 植物ボランティア

第 17 巻 神奈川の植物『四季のいろいろ（冬の植物）』

〔展示期間〕 2009 年 12 月 19 日～ 2010 年 2 月 19 日
〔展示内容〕 冬枯れの植物と木の実

原色標本：テイカカズラ・ガガイモほか
実：サルトリイバラ・マユミほか
〔担当〕 勝山輝男・田中徳久
〔協力〕 植物ボランティア

第 17 巻 神奈川の植物『四季のいろいろ（春の植物）』

〔展示期間〕 2010 年 2 月 20 日～
〔展示内容〕 春の野山の花々
原色標本：ミミガタテンナンショウ、ミヤマキケマン、ウ
リハダカエデ、ザイフリボク、ほか
模型：イチリンソウほか
〔担当〕 勝山輝男・田中徳久
〔協力〕 植物ボランティア

第 27 巻 トピックス『新しい箱根火山の形成史』

〔展示期間〕 2009 年 10 月 2 日～
〔展示内容〕 近年考えられている箱根火山の新しい形成
史について、グラフィックと岩石で紹介するとともに、立
体箱根火山模型に投影した最新の地質図で紹介した。
なお、本展示は昨年度開催された特別展示「箱根火山」
の展示を一部含む。
〔展示資料〕 箱根火山の噴出物（溶岩類 9 点、軽石 1 点）、
立体箱根火山地質模型、展示解説パネル 3 点、軽石人形
（多数）
〔担当〕 山下浩之・笠間友博
〔協力〕 地学ボランティア

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館 2 階「ミュージアムライブラリー」前にある情報
コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連する
タイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供すること
を目的として設置されている。このコーナーには主に紙面
による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料
による情報を提供するウォールケースが設置されている。

情報展示パネル

〔展示内容〕 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介
〔展示更新〕 随時
〔担当〕 新井一政・博物館友の会広報部

ウォールケース

最長 3 か月を目安に、最新の情報を提供することを目的
として展示替えを行った。

広報誌「自然科学のとびら」56 号とその関連資料

〔展示内容〕 広報誌「自然科学のとびら」を拡大印刷し
て展示し、あわせて本文中で紹介した資料、関連資料
を展示した。
〔展示期間〕 2009 年 3 月 29 日～ 4 月 30 日

〔展示資料〕『高桑正敏の解体虫書』、白尾元理氏著書『世
界のおもしろ地形』『写真で見る火山の自然史』『月のき
ほん』、種子島沖で採集された捕食痕のあるオオシラス
ナガイとタマガイの標本、アナサングモドキ（ミレポラ）
化石及びショウガサング化石と、現生種のカンボクアナサ
ングモドキ及びショウガサング、白尾元理氏撮影の写真
4 点と関連資料 4 点（パホイホイ溶岩・チョーク・スエバ
イト・シェルサンド）
〔担当〕 平田大二・佐藤武宏・門田真人・石浜佐栄子

地質の日関連展示

〔展示内容〕 5 月 10 日の「地質の日」を記念して、神奈
川県内の地質図を紹介した。
〔展示期間〕 2009 年 5 月 1 日～ 6 月 11 日
〔展示資料〕「地質の日」ポスター 1 点、解説パネル 3 点、
20 万分の 1「神奈川県地質図（神奈川県，1978）」、20
万分の 1 地質図幅「東京（地質調査所，1987）」、5 万
分の 1 地質図幅「藤沢（地質調査所，1979）」「横浜（地
質調査所，1982）」、土地分類基本調査「横須賀・三崎」
および 5 万分の 1 表層地質図（神奈川県，1984）、神奈
川県史および 2 万 5 千分の 1「丹沢東部地質図」（神奈

川県, 1978)、地質図に関連した展示物等写真 11 点、地質ニュース(2009 年 2 月号「地質の日」特集)、地質図カタログ、5 万分の 1 地質図幅解説書 6 点、展示物ラベル 6 点
[担当] 田口公則、平田大二

広報誌「自然科学のとびら」57 号とその関連資料

[展示内容] 広報誌「自然科学のとびら」を拡大印刷して展示し、あわせて本文中で紹介した資料、関連資料を展示した。
[展示期間] 2009 年 6 月 12 日～7 月 5 日
[展示資料] 大英博物館に関する書籍についてのパネル 1 枚、フクロウの剥製 1 点、砂の性質を利用したおもちゃ 6 点(玉砂舞楼 5 点、箱砂舞楼 1 点)、特別展「木の洞をのぞいてみたら」のポスター原画(菊谷詩子画)
[担当] 大澤澄子・加藤ゆき・石浜佐栄子・広谷浩子

写真で見る神奈川県内の希少なチョウ類

[展示内容] 神奈川県内の絶滅危惧種等の希少なチョウ類を、菅井忠雄氏撮影による写真で紹介した。
[展示期間] 2009 年 7 月 7 日～8 月 6 日
[展示資料] 神奈川県内の希少なチョウ類の写真 30 点
[担当] 高桑正敏

横浜開港 150 周年記念「横浜開港と神奈川の自然」

[展示内容] 横浜開港によって西洋に輸出されたヤマユリや、お雇い外国人技術者ジョイネルが収集した魚類の標本、開港後の開発で使われたブラフ積み石垣の石材について、紹介した。
[展示期間] 2009 年 8 月 7 日～9 月 29 日
[展示資料] ヤマユリと横浜開港に関するパネル 4 点、ヤマユリの模型、カーチスのボタニカル・マガジン 88 巻(西洋で初めて栽培されたヤマユリが描かれた)、日本の園芸商による輸出用のユリのカタログ 3 点
お雇い外国人技術者ジョイネルに関するパネル 1 点、ジョイネルが収集した魚類に関するパネル 2 点・収集した魚類と同種の標本 3 点
ブラフ積み石垣の石材に関するポスター 1 枚・パネル 1 枚、佐島石の標本 1 点
[担当] 勝山輝男・瀬能宏・笠間友博・2009 年度学芸員実習生

「海ゴミ GO ME !」

[展示内容] 海に放置されたゴミと、ゴミによって傷つけられた野生生物について紹介した。
[展示期間] 2009 年 10 月 1 日～11 月 8 日
[展示資料] オオセグロカモメの剥製 1 点、釣り針にかかったコアホウドリの死骸 1 点、ゴイサギの剥製 2 点、クロアシアホウドリのヒナの吐瀉物、海で拾ったゴミと解説パネル一式
[担当] 神奈川県野生動物救護連絡会・加藤ゆき

広報誌「自然科学のとびら」58 号とその関連資料

[展示内容] 広報誌「自然科学のとびら」を拡大印刷して展示し、あわせて本文中で紹介した資料、関連資料を展示した。
[展示期間] 2009 年 11 月 11 日～11 月 29 日
[展示資料] 『ぞうきばやし』『おみやにいったらむしがいる』パネル 3 枚、貝殻みがきに使う材料と道具一式、「しんかい 6500」で採集された岩石(かんらん岩、玄武岩、軽石)、しんかい 6500 潜航記念証、深海に沈めたカップラーメンの容器 3 点、特別展「木の洞をのぞいてみたら」子どものための体験的スペースで使用された展示関連物(体験展示に使われた映像(フォトフレーム)、ぬりえコーナー解説、ムササビの座布団 2 点)
[担当] 尾越佐緒里・田口公則・山下浩之・大島光春・石浜佐栄子

天皇陛下御在位二十年記念展示:天皇陛下とハゼのご研究

[展示内容] 天皇陛下のハゼに関する研究業績を、論文・著書の別刷りや標本、写真などとともに展示した。
[展示期間] 2009 年 12 月 5 日～2010 年 1 月 24 日
[展示資料] 天皇陛下の執筆論文(別刷り) および著書、ハゼの液浸標本 40 点、日本魚類学会に参加された際の写真ほか
[担当] 瀬能 宏

広報誌「自然科学のとびら」59 号とその関連資料

[展示内容] 広報誌「自然科学のとびら」を拡大印刷して展示し、あわせて本文中で紹介した資料、関連資料を展示した。
[展示期間] 2010 年 1 月 26 日～2 月 16 日
[展示資料] 『チリメンモンスター』パネル、ホトケドジョウの液浸標本 7 点(東海ナガレ他)、軽石流堆積物 1 点 センサーカメラと動物剥製(アカネズミ、ヤマネ、ムササビ) 古瀬義氏植物標本コレクションの標本 2 点(モンパノキ、フクギ)
[担当] 大澤澄子・瀬能宏・笠間友博・広谷浩子・田中徳久・石浜佐栄子

友の会活動報告展

[展示内容] 博物館友の会が 2009 年度に行った活動を、パネル、写真、講座のレジュメや成果品で紹介した。
[展示期間] 2010 年 3 月 10 日～3 月 23 日
[展示資料] 行事一覧パネル 2 点、講座風景の写真 19 点、『フィールドワークの達人』、講座テキスト 2 種、講座の成果品等(製本講座で製本された本 1 冊、葉脈スタンプ 2 点、葉脈標本 8 点、変形菌模型フィギュア 1 点)
[担当] 博物館友の会

広報誌「自然科学のとびら」60 号とその関連資料

[展示内容] 広報誌「自然科学のとびら」を拡大印刷して展示し、あわせて本文中で紹介した資料、関連資料

を展示した。

〔展示期間〕 2010 年 3 月 25 日～ 4 月 23 日

〔展示資料〕 ライブラリー内の蜘蛛の本の場所と図書の並べ方に関するパネル、パンニング皿、丹沢産の砂金 9 点、パンニング前・最中・終了後の砂、人類進化講座で参加者が作った作品（紙粘土で作ったサル 4 点、縄文式

土器 2 点、貝ビーズのネックレス 1 点）と講座風景写真

ヨロイボウズハゼの液浸標本 2 点

台湾大学との間で取り交わされた“協議合作備忘録”

〔担当〕 尾越佐緒里・石浜佐栄子・広谷浩子・瀬能宏・田中徳久

2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2009 年度は特別展を 1 回、企画展を 1 回開催なお、開館以来の開催実績に関しては、資料の項（84～85 ページ）に掲載した。

2.2.1. 特別展

木の洞をのぞいてみたら ～樹洞の生きものたち～

〔開催期間〕 2009 年 7 月 18 日（土）～ 11 月 8 日（日）

〔会場〕 特別展示室

〔協力〕 小田急グループ・JR 東日本横浜支社小田原地区

〔展示担当〕 広谷浩子・勝山輝男・荻部治紀・高桑正敏・

加藤ゆき・丸野内淳介・大島光春・田口公則・石浜佐栄子

〔展示協力〕 愛媛県立とべ動物園・九州大学附属図書館・

京都大学附属図書館・（財）東京動物園協会・静岡市立

日本平動物園・丹沢湖ビジターセンター・青木雄司・天

羽眞吾・東 信行・荒谷邦雄・飯嶋一浩・石原龍雄・稲垣

政志・海野範幸・蛭沢博行・大西 拓・岡田 純・岡野美

佐夫・尾園 暁・北垣憲仁・金井幸子・木村知美・木村洋子・

栗本篤臣・小島仁志・佐藤寛之・重永明生・高橋里恵・

高橋律子・土屋利行・内藤 明・中村浩志・長縄今日子・

永幡嘉之・橋屋 誠・平田寛重・中田一治・半場良一・藤

田 宏・増永 元・森 英章・山口佳秀・山口喜盛・六波羅 聡・

若代彰路・学芸ボランティア

〔内容〕 樹洞をメインテーマに、そこにすみくらす生きものたちについて、剥製や写真などで紹介する。

〔ポスター・チラシ〕 菊谷詩子（原画）・井上久美子（撮影）・広谷浩子・木村恭子

〔展示項目〕

館長あいさつ

樹洞とはどんなものか（樹洞のでき方・実物のトチノキの樹洞をのぞいてみよう・いろいろな樹洞紹介）

樹洞の生きものたち（ほ乳類や鳥類、両生類、爬虫類、両生類、昆虫、菌類など樹洞にくらす生きものを剥製や写真で紹介）

樹洞と私たちの暮らし（樹洞を利用したハチの飼養・樹洞

と外来生物の関係を紹介）

樹洞で遊ぼう（ムササビ変身体験コーナー・ぬり絵コーナー・クイズコーナー）

〔展示点数〕

標本 350 点、樹洞 41 点、写真パネル 115 点、解説パネル 70 点、体験装置 2 点、そのほか（ぬいぐるみ・着ぐるみなど）28 点

〔入場者数〕 103,527 人

〔関連行事〕

講演会「洞の生き物から人々の歴史が見える」

実施日時：8 月 2 日（日）13 時 30 分～ 14 時 30 分

講演者：山形大学 永幡 嘉之 氏（昆虫写真家）

シンポジウム「樹洞を語ろう」

実施日時：8 月 2 日（日）14 時 30 分～ 16 時 30 分

パネリスト：財団法人自然環境センター 森 英章 氏／東京都環境局 小林 明 氏

講座「樹洞探検隊 (1) 昆虫を探せ！」

実施日時：7 月 25 日（土）10 時～ 15 時

講座「樹洞探検隊 (2) 動物を探せ！」

実施日時：8 月 29 日（土）16 時～ 19 時

講座「昆虫探検隊 (3) 樹洞を探せ！」

実施日時：10 月 18 日（日）10 時～ 15 時

講座「樹洞にすむ動物の生活と体」

実施日時：10 月 31 日（土）・11 月 1 日（日）両日とも 10 時～ 16 時

サロン・ド・小田原「樹洞さがしの旅から」

実施日時：9 月 12 日（土）17 時 30 分～ 20 時

講演者：広谷浩子

2.2.2. 企画展

企画展「押し葉—古瀬 義 植物標本コレクション—」

〔開催期間〕 2009年 12月 5日(土) ～ 2010年 2月 21日(日) 60 日間

〔会場〕 特別展示室

〔協力〕 小田急グループ・JR 東日本横浜支社小田原地区

〔展示担当〕 田中徳久・勝山輝男

〔展示協力〕 学芸ボランティア

〔内容〕 当館収蔵の古瀬義氏採集の植物標本を中心に、大場達之、高橋秀男、澤田武太郎、正宗巖敬・福山伯明らの採集標本、神奈川県植物誌のための証拠標本などを紹介した。

〔展示項目〕

館長あいさつ

古瀬 義氏の人となり(略歴・古瀬コレクションの概要ほか)

古瀬 義氏が発見した植物(命名した植物・献名された植物ほか)

日本列島押し葉紀行(北海道・東日本・西日本・琉球・小笠原の地域ごとの採集標本)

生命の星・地球博物館の植物標本(大場達之、高橋秀男、澤田武太郎、正宗巖敬・福山伯明らの採集標本、神奈川県植物誌のための証拠標本)

生命の星・地球博物館の古瀬コレクション(古瀬コレクションの採集地地図、採集地一覧ほか)

〔資料点数〕 標本 165 点(古瀬氏採集押し葉 106 点、古瀬氏以外の採集押し葉 57 点、その他 2 点)

書籍など 13 点

写真・図など 47 点

〔入場者数〕 9,553 人

2.3. 活動報告展およびその他の展示

特定の調査研究や資料収集に限らず、広く博物館活動を紹介し、また地域との連携協力の結果としての展示を、当館特別展示室を中心として行うことがある。

2.3.1. 活動報告展

博物館業務は、調査研究、資料収集、教育普及、展示など、多岐にわたっているが、展示を除いて、その内容を紹介する機会は少ない。そこで、年間の活動を報告する機会を設け、博物館活動、特に学芸員の業務への理解を深めてもらうことを目的として、活動報告展を実施している。

活動報告展(2009 年度の活動報告)

〔開催期間〕 2009 年 4 月 18 日(土) ～ 5 月 11 日(日)

開催日数は 37 日

〔会場〕 特別展示室

〔入場者数〕 16,352 人

〔企画担当〕 樽 創

〔展示担当〕 新井一政・石浜佐栄子・大島光春・笠間友博・加藤ゆき・勝山輝男・菊部治紀・木場英久・斎藤靖二・佐藤武宏・瀬能 宏・高桑正敏・田口公則・田中徳久・樽 創・新井田秀一・平田大二・広谷浩子・山下浩之(五十音順)、外来研究員

〔内容〕

各学芸員が特に 1 つの事業を選んで紹介し、全体として、博物館活動、学芸員の業務への理解を深めてもらうことを目的として展示を行った。

ただし、個別研究の最終年度にあっている学芸員については、その成果を発表することを必須とした。

また、博物館教育普及事業に関連して、子ども自然科

学ひろばの活動報告、神奈川県立生命の星・地球博物館友の会の活動報告を紹介する展示を行った。

1. 調査研究事業の紹介

「2009 年度の活動を振り返って」「博物館周辺の哺乳類生息状況について(その2):過去の分布状況」「キサゴ類にみられる対捕食戦略の進化」「キサゴ類の対捕食戦略」「カナダガン捕獲大作戦～外来種の生態情報の収集をめざして」「北アルプス高瀬渓谷におけるコブヤハズカミキリ属 2 種の分布」「ネパール、ムスタンのカヤツリグサ科植物」「神奈川県の植物相の特徴と変遷に関する研究―一次の神奈川県植物誌に向けて―」「ボランティア参加型入生田菌類誌の編纂」「葉山―嶺岡構造帯の地球科学的研究～神奈川最古の岩石を探る」「伊豆・小笠原弧北端部(伊豆箱根地域)の地殻物質と基盤地質構造」「古海洋環境の変化を表すチャート層型取標本」「日本の地形 ～いろいろなスケールの傾斜量図で見る～」「箱根二子山は複成火山だった!―複数回の噴火で形成された箱根二子山溶岩ドーム―」「サイの化石 ―大磯層の哺乳類―」「三浦半島北部における化学合成群集化石～鎌倉天園シロウリガイ化石～」「海洋調査船を使った地球の歴史の調査研究について」「南フィリピン海パレスベラ海盆の深成岩類の岩石学的研究～YK09-05 航海の成果」外来研究員「丹沢の森林・溪流生態系における哺乳類の研究」「神奈川県におけるコウモリ類の生息状況」「ニホンザル骨形態における地理的変異の検討」

2. 資料収集事業の紹介

「ティラノサウルスもやってきた! ～恐竜の歯コレクション～」

3. 教育普及事業の紹介

「身近な自然発見講座」「船を使った海洋地質の調査研究」「特別展「木の洞をのぞいてみたら」における子どものための体験的展示」

2.3.2. その他の展示

子ども自然科学作品展

〔開催期間〕2010年3月20日(土)～4月4日(日)

2009年度内の開催日数は11日間(開催期間全体では15日間)

〔会場〕特別展示室

〔企画担当〕笹尾 賢二

〔展示担当〕高桑 正敏 博物館学習指導員

〔内容〕児童・生徒の自然科学への関心を高め、その取り組みへの支援、奨励を目的に自然科学分野における研究作品を当館に集め、作品展を開催した。一昨年より対象を小田原市内の小中学校から県西地区の小中学校へ

と拡大した。全作品に学芸員からのコメントを作成添付し、終了後は作品、記念品とともに返却した。また期間中に作品を出品した児童・生徒と学芸員との交流会を実施し多くの出品者が参加した。

〔作品〕県西地区27校106点を展示(内訳:小田原市内小学校15校56点、小田原市内中学校9校44点、その他の中学校3校7点)

〔作品分野〕動物14点・昆虫17点・植物27点・菌類7点・地学19点・環境14点・その他8点

〔入場者数〕2009年度内の入場者数は3,489人(開催期間全体では4,536人)

2.4. ミュージアムシアター

展示の理解をより深めるために、200インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像(番組)と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像(番組選びとクイズの回答をボタンで選ぶ)を上映している。また、学会や講演会開催時においてはメインの会場としても利用されている。

2.4.1. シアターの概要

座席は308席。車椅子用のスペースは5席。中央部にある115席(車椅子用5席を含む)に、インタラクティブ・クイズ回答用の5選択押しボタンスイッチを設置してある。

照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などを照らし出すためのスポット照明を用意している。

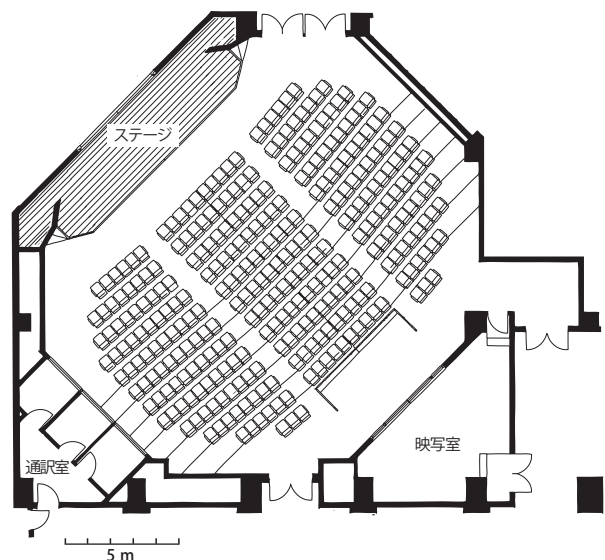
上映設備は、200インチ・リアプロジェクション方式を採用したハイビジョンシステムを中心に、35mmスライド映写機、16mmフィルム映写機を備えている。ハイビジョン映像の送出は、フル規格やMUSE規格レーザーディスクプレーヤーから行う。また、テレビやビデオ、レーザーディスクなどはハイビジョンに変換してから上映する仕組みとなっている。学会・講演会用に、実物投影機やフラットベッドスキャナー、電子白板を備え、映像を投影可能である。これらの操作は、ステージ上や映写室の操作卓にある簡単なコントロールパネルで行う。

同時通訳用ブースを用意しており、国際的な催し物にも対応できる。同時通訳された内容は、ワイヤレス方式のレシーバーによって入場者に伝えられる。通常上映しているハイビジョン番組「奇跡の旅立ち」と「生命の輪舞」はこ

のレシーバーを用いて、英語訳とハングル訳のナレーションを聞くことができる。

学会・講演会などを記録するためのテレビカメラが、固定式2台、移動式1台用意され、カット編集ができるように編集機が設置されている。

シアター見取り図



2.4.2. シアターの上映番組

ミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を2本（各15分）と、インタラクティブ・クイズ映像を1本（20分）の計3本を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」である。「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくといったストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」の5種類である。

インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行い、ハイビジョン映像は、プログラム制御による自動上映を行っている。



インタラクティブクイズのコース別利用状況

コース番号	テーマ	選択した人数	選択テーマの割合	テーマ別上映回数	正答率		
					第1問	第2問	第3問
1	地球は生きている	4588	4.50%	24	20.60%	39.62%	49.45%
2	植物は変身の天才だ!	3252	2.30%	12	11.43%	40.22%	26.37%
3	魚のサバイバル	9121	46.60%	246	71.71%	63.93%	39.37%
4	動物の足跡捜査隊	7637	28.00%	148	33.87%	59.28%	33.52%
5	ヒトの謎を科学する	7069	18.60%	98	46.39%	51.13%	33.37%

2008年3月16日はフェスタ時の特別上映とし、選択テーマはあらかじめ決定した。

インタラクティブクイズ観覧者と参加者の関係

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総入館者数	14992	25150	12473	22329	33642	14443	21500	19578	8265	10946	13532	20840
実施回数	34	49	32	48	93	36	40	41	31	40	38	46
観覧者	2406	4964	2300	3776	8510	2407	3098	2949	1299	2379	2382	3691
観覧率	16.05%	19.74%	18.44%	16.91%	25.30%	16.67%	14.41%	15.06%	15.71%	21.73%	17.60%	17.71%
クイズ参加者	2235	3721	1889	3241	7173	2142	2600	2690	1227	2181	2135	3074
参加率	92.89%	74.96%	82.13%	85.83%	84.29%	88.9% 9	83.93%	91.21%	94.4% 6	91.67%	89.63%	83.28%

観覧率=インタラクティブ観覧者数/総入館者数

参加率=クイズ参加者数/インタラクティブ観覧者数

2.4.3. シアターの上映回数

通常期は、午前・午後にハイビジョン映像「奇跡の旅立ち」、ハイビジョン映像「生命の輪舞」、インタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」をそれぞれ1回ずつ、計6回上映を行っている。

学校休業期と重なるつぎの多客期（4月1日～5日、4月29日～5月6日、7月18日～8月31日、3月26日～31日）については、インタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計7回の上映を行った。

シアター上映プログラム

	上映回	時間	タイトル
通常	1	9:30～9:45	奇跡の旅立ち
	2	10:30～10:45	生命の輪舞
	3	11:30～11:50	インタラクティブ
	4	13:00～13:20	インタラクティブ
	5	14:00～14:15	奇跡の旅立ち
	6	15:00～15:15	生命の輪舞
多客期	1	9:30～9:45	奇跡の旅立ち
	2	10:30～10:45	生命の輪舞
	3	11:30～11:50	インタラクティブ
	4	12:30～12:50	インタラクティブ
	5	13:30～13:50	インタラクティブ
	6	14:30～14:45	奇跡の旅立ち
	7	15:30～15:45	生命の輪舞

2.4.4. その他の利用

講演会に使用し、学会などに会場を提供している。シアターを講演会場などに使用している時は、ハイビジョン映像をエントランスホールに置いたテレビジョンにて上映する。

なお、2009 年度については、機器故障により 7 月 15 日～7 月 22 日の間、ミュージアムシアター上映を休止している。

2.5. ビデオライブラリー

ミュージアムライブラリーに設置されている 2 つのビデオブースで、ハイエイトビデオのビデオライブラリーを公開している。来館者は、室内に設置されているプログラム一覧より、選択した上映番組を閲覧することができる。上映番組は NHK「地球大紀行」をはじめとする自然科学番組と投稿ビデオ番組であり、併せて 384 本の番組のビデオライブラリーとなっている。

ビデオライブラリーは、SONY ワークステーション (NWS-1750) のプログラムにより、Hi8 ビデオライブラリーシステムを管理している。従来、ワークステーションにて上映回数等の情報記録を行っていたが、機器故障により 2009 年度の上映記録を消失している。

2.6. ミューズ・フェスタ 2010

「開かれた博物館」としての活動の充実と一層の発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を 2002 年度から実施している。

2.6.1. 開催概要

〔日時〕

2009 年 3 月 13 日 (土)、14 日 (日) の 2 日間

〔場所〕

当博物館 エントランスホール、ミュージアムシアター、特別展示室、講義室、他

〔運営体制〕

参加団体：小田原市入生田自治会、小田原市教育委員会、生命の星・地球博物館友の会、当博物館

〔関連会議〕

・開館記念日事業懇話会

平成 20 年 7 月 3 日 (金)

・開館記念日事業実行委員会

第 1 回 平成 21 年 9 月 4 日 (金)・開催中止

第 2 回 平成 21 年 10 月 22 日 (木)・第 1 回の議事も併せて討議

第 3 回 平成 21 年 12 月 11 日 (金)

第 4 回 平成 22 年 2 月 25 日 (木)

2.6.2. 催し物等の概要

1. オープニングセレモニー 入生田祭囃子

(博物館・小田原市入生田自治会共催)

〔日時〕 2010 年 3 月 13 日 (土) 9 時 30 分～

〔場所〕 博物館エントランスホール

〔内容〕 フェスタ 2010 の開催を祝って、地元の入生田山神神社子供祭囃子のメンバーがお囃子を演奏

参加者：90 人

2. シンポジウム「本当はこわいアメリカザリガニ」(博物館主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 13 日 (土) 13 時 30 分～ 16 時 40 分

〔場所〕 ミュージアムシアター

〔内容〕 アメリカザリガニが、在来の生物に与える影響と希少生物をアメリカザリガニから守るための実践例を学ぶ。

「アメリカザリガニの在来生態系被害の概論」

「アメリカザリガニが希少水生昆虫に与える影響とその対策」

「中池見湿地におけるアメリカザリガニ被害」

「磐田市桶ヶ谷におけるアメリカザリガニの大発生とその影響」

「珠洲市における緊急雇用創出事業を活用したザリガニ駆除」

「川崎市麻生区はるひ野・黒川地域における駆除事例」

「川崎市多摩区生田における駆除事例」

「小田原市桑原における駆除事例」

〔参加者〕 180 人

3. すてきな折り紙～恐竜もつくれるよ～

(小田原市青少年課主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 13 日(土) 10 時～ 15 時

〔場所〕 講義室

〔内容〕 折り紙作家の坂田英昭氏の指導による、恐竜や花などの折り紙作り。

〔参加者〕 160 人

4. オカリナコンサート(博物館主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 13 日(土) 10 時 10 分～ 11 時 10 分

〔場所〕 エントランスホール

〔内容〕 土の笛・オカリナとキーボード、ギターとで春にふさわしい曲を演奏

〔参加者〕 130 人

5. 童謡合唱(博物館主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 13 日(土) 11 時 30 分～ 12 時

〔場所〕 ミュージアムシアター

〔内容〕 クレヨンの森保育園の園児による童謡の合唱

〔参加者〕 174 人(当日参加)

6. 学芸員と親しむ石垣山の歴史と自然

(小田原市郷土文化館主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 14 日(日) 9 時 30 分～ 14 時

〔場所〕 博物館～石垣山・一夜城

〔内容〕 学芸員の解説を交え、石垣山・一夜城の歴史と自然を楽しみながら散策する

〔参加者〕 22 人(事前申込)

7. 「怪人ネイチャーランドの挑戦」特別上映(博物館主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 14 日(日) 10 時～ 11 時 20 分

〔場所〕 当館ミュージアムシアター

〔内容〕 大人気のインタラクティブクイズ映像、「地球は生きている」、「動物の足跡捜査隊」、「植物は変身の天才だ!」、「どうぶつの親子全員集合」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」の 3 タイトルを上映した。

〔参加者〕 のべ 230 人(入場無料)

8. 室内アンサンブル(博物館主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 14 日(日) 10 時 30 分～ 11 時 30 分

〔場所〕 エントランスホール

〔内容〕 県内で活動する「ライトハウス・アンサンブル」と「大井室内合奏団」のジョイントコンサート

〔参加者〕 110 人

9. お昼休みミニ・コンサート(入生田自治会主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 14 日(日) 12 時～ 13 時

〔場所〕 当館ミュージアムシアター

〔内容〕 地元のコーラスグループ「エーデルワイス」による合唱

〔参加者〕 80 人

10. マジックバルーンで遊ぼう(小田原市青少年課主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 14 日(日) 13 時～ 15 時

〔場所〕 エントランスホール

〔内容〕 高校生ボランティアのジュニアリーダーによるバルーンアート作り

〔参加者〕 130 人(当日参加)

11. 子ども自然科学ひろば

(博物館、博物館友の会、入生田自治会主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 13 日(土)・14 日(日) 10 時～ 15 時

〔場所〕 特別展示室、講義室、実習実験室、前庭

〔内容〕 随時参加して、体験ができる 9 本のプログラムを実施した

・「折り紙ひろば」

・「翼竜を飛ばそう」

・「森の動物たちと遊ぼう」

・「箱根木工製作実演」

・「のぞいてみよう!ちっちゃな世界」

・「ミクロな世界を記念撮影」

・「にじ色キラキラ～貝ガラをみがこう!」

・「宝石をさがそう! パンニング体験」

・「シュロの葉で昆虫を作ろう」

〔参加者〕 2,400 人(入場無料)

12. パネル展示・昔の紋様は何で描いた?

(小田原市郷土文化館主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 13 日(土)・14 日(日) 10 時～ 15 時

〔場所〕 特別展示室

〔内容〕 原始・古代の土器などにつけられたさまざまな文様を、写真パネルや実物で紹介。体験コーナーを併設

〔参加者〕 250 人(当日参加)

13. 手作り民芸品コーナー(入生田自治会主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 13 日(土)・14 日(日) 10 時～ 15 時

〔場所〕 当館講義室

〔内容〕 手作り玩具などの民芸品の展示即売

14. 地元入生田物産コーナー(入生田自治会主催)

〔日時〕 2010 年 3 月 13 日(土)・14 日(日) 10 時～ 15 時

〔場所〕 当館講義室

〔内容〕 地元で採れたミカンや農作物の販売

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館を支える学芸員は、県内はもとより、国内外のシンクタンクとしてさまざまな活動を行っている。ここでは、それらの活動を各項目ごとに取りまとめた。基本的には当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。しかし、記録の困難性から取り上げなかった活動も多い。特に各種資料の同定依頼や市民、マスコミなどからの各種問い合わせなどのレファレンス業務に関しては、ここでは紹介されていないが相当な時間が費やされている。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要項に基づき、総合研究 2 テーマ、グループ研究 1 テーマ、個別研究 20 テーマに関する研究を行った。以下「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

平田大二・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子・高橋直樹・河尻清和・谷口英嗣・蛭子貞二・川手新一・小田原啓・柴田健一郎：葉山ー嶺岡構造帯の地球科学的研究～神奈川最古の岩石を探る～

グループ研究

田中徳久・勝山輝男：神奈川県内の維管束植物相の特徴と変遷に関する研究一次の「神奈川県植物誌」へ向けてー

個別研究

瀬能 宏：神奈川県産メダカの保全生物学的研究（2）
広谷浩子：博物館周辺の哺乳類生息状況について（その2）ー過去の分布状況との対比を中心にー
荻部治紀：トンボ類における地球温暖化に伴う南方種の分布拡大について
佐藤武宏：キサゴ類にみられる対捕食戦略の進化
加藤ゆき：神奈川県におけるシジュウカラガンの分布と生息環境について

勝山輝男：伊豆諸島青ヶ島の植物相

田中徳久：神奈川県植物群落データベースー詳細データベースの整備ー

樽 創：神奈川県内の第四系産微化石資料の研究

大島光春：日本産イノシシ類化石に関する研究（2）

田口公則：三浦半島北部における化学合成群集化石～鎌倉天園シロウリガイ化石～

平田大二：伊豆・小笠原弧北端部（伊豆箱根地域）の地殻物質と基盤地質構造

笠間友博：石材として利用された箱根起源溶結凝灰岩の研究

新井田秀一：デジタル標高モデル（DEM）を用いた神奈川の地形解析

山下浩之：南フィリピン海パレスベラ海盆の深成岩類の岩石学的研究

石浜佐栄子：大磯丘陵に分布する新第三系の堆積場の再検討

高桑正敏：神奈川県内のカミキリムシ科甲虫調査

新井一政：博物館周辺の両生・爬虫類生息状況調査（石垣山地区を中心に）

3.2. 研究発表会

前項（3.1.）の調査研究事業に関して、その研究計画発表会を 2009 年 4 月 23 日（木）に博物館講義室で開催した。

また、2009 年の研究成果については 2010 年 4 月 17 日（土）から 5 月 30 日（日）まで特別展示室で開催された「学芸員の活動報告展」の中で研究成果の展示を行い、これに代えた。研究成果の報告は資料の項（88 ～ 91 ページ）に掲載した。

3.3. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費補助金をはじめ外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者（研究代表者を除く当館の分担者、連携研究者*または研究協力者**）：研究テーマ」の順に掲載した。研究組織、研究内容と成果の詳細については、資料の項（96 ～ 97 ページ）に掲載した。

3.3.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究 (A)

松浦啓一ほか(瀬能 宏*)：黒潮と日本の魚類相：ベルトコンベヤーか障壁か

小川義和ほか(平田大二*)：科学リテラシーの涵養に資する科学系博物館の教育事業の開発・体系化と理論構築

基盤研究 (B)

下野 洋ほか(田口公則*)：子どもの科学的表現を高める環境学習プログラム作成－自然のパターン把握を通して

基盤研究 (B) 海外学術調査

折橋裕二ほか(平田大二*)：超背弧地域に産する玄武岩質マグマの成因解明：第4のマグマ生成場として

基盤研究 (C)

笠間友博(平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子)：開発で失われた地質情報の収集・公開・教材化

斎藤靖二(平田大二・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子)：自然と歴史の融合プログラム開発と新しい博物館教育－火山と築城を例に－

田口公則(大島光春)：博学連携による小中学校における地域地学資料展示の取組と子どもの変容

出川洋介(勝山輝男・田中徳久)：博物館を介したボランティア参加型菌類相調査

大島光春(広谷浩子・田口公則・石浜佐栄子)：子どものための展示開発－自然史博物館にふさわしい展示と展示プラン－

星野卓司ほか(勝山輝男)：カヤツリグサ科スゲ属植物の分子系統解析と分類学的再検討

3.3.2. 各種助成金による研究

財団法人新技術開発財団 植物研究助成

田中徳久(勝山輝男)：『伊豆半島植物誌』のためのデータベース構築と地球温暖化の影響評価

東京地学協会研究・調査助成金

平田大二(笠間友博・山下浩之)：箱根芦ノ湖湖底の微地形および地質構造の高精度解析

3.3.3. 共同研究・共同施設利用研究

脆弱な海洋島をモデルとした外来種の生物多様性への影響とその緩和に関する研究(独立行政法人森林総合研究所)

荻部治紀：(4) 侵略的外来種グリーンアノールの食害により破壊された昆虫相の回復に関する研究

東京大学地震研究所一般共同研究

平田大二：南関東付加体中の凝灰岩ジルコン年代学と火山活動の時空的変遷

3.4. 著作活動・学会発表等

斎藤靖二(さいとう やすじ) 地学(地質学)

[著作・報告書等]

斎藤靖二(分担執筆)，2009. 写真と図でみる日本の地質．特定非営利活動法人地質情報整備・活用機構・独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター編，162pp. オーム社．

斎藤靖二，2010. 日本の自然を支えている地質．日本列島ジオサイト地質百選Ⅱ(全国地質調査業協会連合会・特定非営利活動法人地質情報整備・活用機構 編)，iii－vii. オーム社．

斎藤靖二(分担執筆)，2010. 博物館倫理規定に関する調査研究報告書．財団法人日本博物館協会(平成21年度文部科学省委託事業図書館・博物館における地域の知の拠点推進事業)，116pp.

[学会発表等]

平田大二・斎藤靖二・高橋正樹，2009年5月17日，箱根火山を中心とする小田原・箱根ジオパーク構想．日本地球惑星科学連合大会2009年大会．幕張メッセ国際会議場．

広谷浩子(ひろたに ひろこ) 動物学(哺乳類)

[論文]

広谷浩子，2009. 霊長類学と博物館の接点は？研究者と市民をつなぐかけ橋としての活動．霊長類研究，24(4)：413-420.

広谷浩子，2010. 博物館で人類進化を学ぶ－博物館の特性をいかした子ども向け学習プログラムの作成・実践について－．神奈川県立博物館研究報告(自然科学)，

39: 39-44.

広谷浩子・長縄今日子, 2010. 神奈川県丹沢産ツキノワグマの胃内容について. 神奈川県自然誌資料, (31): 89-94.

[普及的著作等]

広谷浩子, 2009. 樹洞探しの旅—特別展「木の洞をのぞいてみたら」に寄せて. 自然科学のとりら, 15 (2): 12-13.

広谷浩子・加藤ゆき, 2009. 森のアパート「樹洞荘」. 特別展図録「樹洞」, pp.5-8, 神奈川県立生命の星・地球博物館; 樹洞と哺乳類. 同書, pp.9-25, 小田原.

広谷浩子, 2010. サブ活動が支える子ども講座—人類進化講座 11 年のまとめから—. 自然科学のとりら, 16 (1): 2-3.

広谷浩子, 2010. もしもクマやヘビに出会ってしまったら. 神奈川県立生命の星・地球博物館 編, 神奈川県立生命の星・地球博物館叢書—1 フィールドワークの達人. p.22; 山で歩かない調査もある. 同書. p.51; 野生動物の動きを知る工夫. 同書. p.52; 野生動物には名札も背番号もない. 同書. pp.53-54; 哺乳類調査のスタイル. 同書. pp.62-63; こだわり「双眼鏡」. 同書. pp.64; 高地での動物観察はハード. 同書. pp.65; 人間の行動観察好きが高じて. 同書. pp.108, 東海大学出版会, 秦野.

[学会発表等]

広谷浩子, 2009 年 7 月 20 日. 母になること、母でいること—ニホンザルとヒトの母子関係比較. 第 25 回日本霊長類学会大会 公開シンポジウム, 中部学院大学, 各務ヶ原.

瀬能 宏 (せのう ひろし) 動物学 (魚類)

[論文]

Motomura, H. & H. Senou, 2009. New records of the dwarf scorpionfish, *Sebastapistes fowleri* (Actinopterygii: Scorpaeniformes: Scorpaenidae), from East Asia, and notes on Australian records of the species. Species Diversity, 14 (1): 1-8.

Motomura, H., Y. Sakurai, H. Senou & H.-C. Ho, 2009. Morphological comparisons of the Indo-West Pacific scorpionfish, *Parascorpaena aurita*, with a closely related species, *P. picta*, with first records of *P. aurita* from East Asia (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). ZOOTAXA, (2191): 41-57.

村瀬敦宣・内野啓道・森田康弘・瀬能 宏, 2009. 小笠原諸島から得られた日本初記録のイソギンポ科シマイギンポ (新称) *Cirrissalarias bunares*. 日本生物地理学会報, 64: 47-55.

崎山直夫・瀬能 宏・樽 創, 2010. 相模湾におけるウバザメ (ネズミザメ目, ウバザメ科) の出現状況. 神奈川自然誌資料, (31): 55-58.

Shibukawa, K., T. Suzuki & H. Senou, 2010.

Phoxacromion kaneharai, a new genus and species of gobiid fish (Teleostei: Perciformes: Gobiidae) from the Ryukyu Islands, Japan. Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), Supplement 4, pp.107-117.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

瀬能 宏, 2010. タイワンキンギョ. 野生生物保護学会編, 野生動物保護の事典, pp. 9-651. 朝倉書店, 東京.

瀬能 宏・鈴木寿之, 2010. ヨコシマイサキ属, ウラウチフエダイ, ナガレフウライボラ. 野生生物保護学会編, 野生動物保護の事典, pp.648-649, 651-654. 朝倉書店, 東京.

瀬能 宏・高桑正敏, 2010. 海外産メタリフェルホソアカワガタの神奈川県での野外発見例. 神奈川虫報, (169): 16.

Motomura, H., K. Kuriwa, E. Katayama, H. Senou, G. Ogihara, M. Meguro, M. Matsunuma, Y. Takata, T. Yoshida, M. Yamashita, S. Kimura, H. Endo, A. Murase, Y. Iwatsuki, Y. Sakurai, S. Harazaki, K. Hidaka, H. Izumi & K. Matsuura, 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yakushima Island, Kagoshima, southern Japan. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.), Fishes of Yakushima Island: A world heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan, pp. 65-247. National Museum of Nature and Science, Tokyo.

瀬能 宏, 2010. コゲウツボ. 環境省自然環境局野生生物課編, 改訂レッドリスト付属説明資料: 汽水・淡水魚類, p.2. 環境省自然環境局野生生物課, 東京; ナミダカワウツボ, 同上, p. 3; ホシイッセンヨウジ, 同上, p. 8; タニヨウジ, 同上, p. 9; ヒメテングヨウジ, 同上, p. 9; カワボラ, 同上, p. 10; ヒゲソリオコゼ, 同上, p. 11; ヨコシマイサキ, 同上, p. 12; ニセシマイサキ, 同上, p. 13; シミズシマイサキ, 同上, p. 13; ヒルギギンポ, 同上, p. 14; カワギンポ, 同上, p. 15; ドロクイ, 同上, p. 20; アミメカワヨウジ, 同上, p. 28; ナガレフウライボラ, 同上, p. 28; アカメ, 同上, p. 30; トゲナガユゴイ, 同上, p. 31; メダカ北日本集団, 同上, p. 41; メダカ南日本集団, 同上, p. 42; ナンヨウタカサゴイシモチ, 同上, p. 43; コモチサヨリ, 同上, p. 52; クルメサヨリ, 同上, p. 52; ナンヨウチヌ, 同上, p. 53; アンピンボラ, 同上, p. 56; オニボラ, 同上, p. 56; カマヒレボラ, 同上, p. 57; モンナシボラ, 同上, p. 57; ハナダカタカサゴイシモチ, 同上, p. 57; テッポウウオ, 同上, p. 58; ゴマクモギンポ, 同上, p. 58; ナリタイトヒキヌメリ, 同上, p. 59; シラヌイハゼ, 同上, p. 61; 太平洋側湖沼系群のニシン, 同上, p. 65; 琵琶湖のコイ野生型, 同上, p. 65; 有明海のスズキ, 同上, p. 69; 沖縄島のクサフグ, 同上, p. 71.

[普及的著作等]

瀬能 宏, 2009. オオカズナギ. マリンダイビング, 41

- (8) : 179.
- 瀬能 宏, 2009. 神奈川のメダカはいま. かもめ広場 (神奈川県行政ネット: <http://ss1106/www1106/kamome/cat2/2009/column200908.html>) .
- 瀬能 宏, 2009. 生物多様性の基本単位である地域個体群の保全を企業に求む! 自然保護, (511) : 34.
- 瀬能 宏, 2009. ヤットゲテンジクダイ. マリンダイビング, 41 (10) : 138.
- 瀬能 宏, 2009. イレズミハゼ属の1種. マリンダイビング, 41 (12) : 157.
- 瀬能 宏, 2010. イナズマヒカリイシモチ. マリンダイビング, 42 (2) : 149.
- 瀬能 宏, 2010. 海で安全に活動するために. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, フィールドワークの達人, p. 17. 東海大学出版会, 秦野; 魚類調査のスタイル, 同上, pp. 68-73; 人との出会いからエンドレスなワークが始まる, 同上, p. 109.
- 瀬能 宏, 2010. クサウオ属の1種. マリンダイビング, 42 (4) : 133.
- 荒尾一樹・山本裕泰・瀬能 宏, 2010. 悩ましいボウズハゼ類の色. 自然科学のとびら, 16 (1) : 4-5.
- [学会発表等]
- 瀬能 宏, 2009 年 4 月 26 日. メダカからみた北川の湿地の重要性. 第 24 回相模湾海洋生物研究会研究発表会, 横須賀市自然・人文博物館.
- 瀬能 宏・馬淵浩司・西田 睦, 2009 年 10 月 10 日. シーボルトとビュルゲル収集の日本産コイの標本. 2009 年度日本魚類学会年会, 東京海洋大学品川キャンパス.
- 波戸岡清峰・瀬能 宏, 2009 年 10 月 10-11 日. 小笠原諸島から採集されたウツボ科ウツボ属魚類の1未記載種. 2009 年度日本魚類学会年会, 東京海洋大学品川キャンパス.
- 渡井幹雄・森田康弘・瀬能 宏, 2009 年 10 月 10-11 日. *Stegastes insularis* (スズメダイ科クロソラスズメダイ属) の分布に関する新知見. 2009 年度日本魚類学会年会, 東京海洋大学品川キャンパス.
- 瀬能 宏, 2009 年 10 月 12 日. 国内外来種とは何か? 日本魚類学会市民公開シンポジウム: 国内外来魚問題の現状と課題, 東京海洋大学品川キャンパス.
- 瀬能 宏, 2009 年 11 月 15 日. 標準和名に求められるものとは何か? 日本鞘翅学会第 22 回大会・日本昆虫学会関東支部第 46 回大会合同大会公開シンポジウム: 昆虫の和名について考える, 東京農業大学厚木キャンパス.
- 瀬能 宏, 2009 年 12 月 8 日. 市民参加による画像データベースの構築と学術研究への応用, そして課題. 東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム: 水族館における水生生物研究と教育, 現状と展望, 東京大学海洋研究所.
- 瀬能 宏, 2009 年 12 月 14 日. 市民参加による魚類画像データベースの構築と学術研究への応用, そして課題. ワークショップ 21 世紀の生物多様性研究 (通算第 4 回), 生物分布情報から探る生物多様性—観察情報の集積とその利用—, 国立科学博物館日本館 2F 講堂.
- 苅部治紀 (かるべ はるき) 動物学 (昆虫類)
- [論文]
- Clausnitzer, V., V. J. Kalkman, M. Ram, B. Collen, J. E.M. Baillie, Matjaž Bedjanič, W. R.T. Darwall, K. B. Dijkstra, R. Dow, J. Hawking, H. Karube, E. Malikova, D. Paulson, K. Schütte, F. Suhling, R. J. Villanueva, N. von Ellenrieder, & K. Wilson, 2009. Odonata enter the biodiversity crisis debate: The first global assessment of an insect group. Biological Conservation, 142 (8) : 1864-1869.
- Karube, H., 2010. Endemic insects in the Ogasawara islands: Negative impacts of alien species and a potential mitigation strategy. Restoring the oceanic island ecosystem. Impact and management of invasive alien species in the Bonin islands, 133-137. Springer.
- 苅部治紀, 2009. 小笠原諸島のトンボ目の現状、特に固有種の保全に向けた取り組みについて. 陸水学雑誌, 70: 239-245.
- 苅部治紀・守屋博文・林文男, 神奈川県を中心としたカワトンボ属の分布. 神奈川県立博物館研究報告, 39: 25-34.
- [著作・著書・報告書・資料集等]
- 苅部治紀・小山茂樹, 2010. 茅ヶ崎市でヤマトオサムシダマシを再発見. 神奈川虫報, (170) : 10.
- 秋山秀雄・苅部治紀, 2010. 衝突版トラップ調査により採集された西丹沢主稜部のカミキリモドキ科甲虫. 神奈川虫報, (170) : 37-39.
- 苅部治紀・高桑正敏編, 2010. 川崎市麻生区産を中心とした中山周平コレクション目録, 神奈川虫報, (170) : 43-71.
- 苅部治紀, 2009. 総論: 昆虫の現状と保全への取り組み. 特集「小笠原の昆虫の現状と保護」. 昆虫と自然, (581) : 2-5.
- 西原昇吾・苅部治紀, 2009. 池や田んぼの虫が消えた南関東. 昆虫と自然, (576) : 13 - 20.
- 苅部治紀, 2009. 福岡県の水生昆虫の生息地保全や種の保護. 福岡県の水生昆虫, pp.160-176.
- 西原昇吾・苅部治紀, 2010. 水辺の侵略的外来種の排除手法, 保全生態学の技法, pp.179-200. 東京大学出版会.
- [普及的著作]
- 苅部治紀, 2009. 森のアパート樹洞の生き物たち 4 珍品昆虫のすみか. しんぶん赤旗 8 月 20 日.
- 苅部治紀, 2009. 森のアパート樹洞の生き物たち 6 樹洞を動物を守ろう. しんぶん赤旗 9 月 3 日.

苅部治紀・高桑正敏, 2009. 樹洞と昆虫たち. 特別展図録「樹洞」, p. 58; オオチャイロハナムグリ. 同書, pp.65-66; オニホソコバネカミキリ. 同著, pp.74-78; ベニボシカミキリ類. 同書, pp. 79; キイロハラビロトンボ. 同書, pp.80-81; 埋められる樹洞. 同書, p.94; 原生林と樹洞. 同書, p. 100, 小田原.

苅部治紀, 2009. 油断が命にかかわる池や湿地. フィールドワークの達人, p.18.

[学会発表等]

苅部治紀, 2009 年 8 月 30 日. 神奈川県および山梨県におけるホソミイトンボの急速な分布拡大について. 日本蜻蛉学会大会, 東北大学農学部.

Yamaki, A., M. Shimomura, H. Karube & T. Kikuchi, Sept.20-24.2009. *Asellote isopod* (Crustacea: Isopoda) from soil habitats. The Crustacean Society Summer Meeting, Tokyo, Japan. (Poster session).

苅部治紀・北野忠・永幡嘉之・西原昇吾, 2009 年 11 月 14 日. 侵略的外来種の侵入が希少ゲンゴロウ類の生息に及ぼす影響. 日本鞘翅学会・日本昆虫学会関東支部合同大会, 東京農業大学 (ポスター発表).

苅部治紀・北野忠・永幡嘉之・西原昇吾, 2009 年 11 月 14 日. ミズスマシの危機的な生息状況. 日本鞘翅学会大会・日本昆虫学会関東支部合同大会. 東京農業大学.

苅部治紀・戸田光彦, 2009 年 12 月 18 日. グリーンアノールの昆虫群集への影響と個体群管理. 国際シンポジウム「南の島のエイリアン〜小笠原・沖縄の外来種管理〜」. 東京大学弥生講堂.

苅部治紀・北野忠・田島文忠・永幡嘉之・西原昇吾, 2010 年 3 月 16 日. 絶滅危惧種マルコガタノゲンゴロウの生息現状と絶滅原因—とくに水質から見た環境条件—. 日本生態学会第 57 回全国大会. 東京大学理学部. 戸田光彦・苅部治紀, 2010 年 3 月 17 日. 小笠原諸島における外来生物ウシガエルの根絶達成. 日本生態学会第 57 回全国大会. 東京大学理学部.

佐藤武宏 (さとう たけひろ) 動物学 (無脊椎動物)

[その他学術的著作] 佐藤武宏, 2010. 書評「太古の光景—先史世界の初期絵画表現—」. 化石, (87): 105-106.

[普及的著作]

佐藤武宏, 2009. 密航する海の生きもの. かもめ広場, (2009.10). <http://fs1167/www1167/kamome/backnumber/2009/200910.html>

佐藤武宏, 2010. フィールドへの旅を楽しむスケジュールを. 神奈川県立生命の星・地球博物館 編, 神奈川県立生命の星・地球博物館叢書—1 フィールドワークの達人, p.6; 出かける前にもう一度確認しておきたいこと, 同書, p.7; 穴が空いてた!, 同書, p.8; 干潟では潮に注意, 同書, p.16; 海辺の危険な生きもの, 同書, pp.23-24; 日焼けにご用心, 同書, p.26; パソコンを

使ったデータ管理の工夫, 同書, pp.36-37; これも一つのセレンディピティ?, 同書, p.37; 後片づけ, 同書, p.38; 枠を区切って詳しく調べる, 同書, p.57; 海岸線は変化する, 同書, pp.58-59; 夜のフィールド, 同書, p.59; 目をならすと見えてくる, 水の生きもの, 同書, p.60; 底生生物調査のスタイル, 同書, pp.74-77; こだわり「耐水紙」, 同書, p.78; こだわり「ザルとボウル」, 同書, p.79; こだわり「レジ袋」, 同書, p.80-81; 角度を測って線を引く, 同書, p.106; 本の虫, フィールドへ出る, 同書, p.110. 東海大学出版会, 秦野.

佐藤武宏, 2010. なぜカニは横歩きしかできないの? ……脚の関節の動き方と生活で決まる. 子供の科学, 73 (3): 46.

加藤ゆき (かとう ゆき) 動物学 (鳥類)

[普及的著作]

加藤ゆき, 2009. 「かもめ」のはなし. かもめ広場, 神奈川県庁内報 (イントラネット).

広谷浩子・加藤ゆき, 2009. 森のアパート「樹洞荘」. 特別展図録 樹洞, pp.5-8. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

加藤ゆき, 2009. フクロウのすむ樹洞. 自然科学のとびら, 15 (2): 9.

加藤ゆき, 2009. 外来種も樹洞で子育て ワカケホンセイインコ. 特別展図録 樹洞, p.52; 意外! 樹洞で卵を温めるカモ オンドリ. 同書, pp.32-33; 炎の鳥 アカショウビン. 同書, pp.45-46; 樹洞で子育て フクロウ. 同書, pp.38-41; 樹洞で子育てをする小鳥. 同書, pp.47-50; 樹洞の宝石 ブッポウソウ. 同書, pp.42-44; 樹洞の代わりにみつけたもの. 同書, pp.95-96; 樹洞の作り手 キツツキ アオゲラ. 同書, pp.34-37; 樹洞を使う鳥たち. 同書, p.31; 子育ては樹洞をふさいで安全に オオサイチョウ. 同書, p.51 小田原.

加藤ゆき, 2009. 樹洞を作る鳥 使う動物. しんぶん赤旗 (2009 年 8 月 27 日付).

加藤ゆき, 2009. . 神奈川県立生命の星・地球博物館.

加藤ゆき, 2009. 小鳥の混群はどこで何をしている?. はばたき, (452): 4.

加藤ゆき, 2009. ナベヅルのお食事メニューは多彩!. Birder, 23 (11): 41.

加藤ゆき, 2010. 安全確保・応急処置・通報. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館叢書1 フィールドワークの達人, pp.27-28; 鳥類調査のスタイル. 同書, pp.66-67. 東海大出版会, 秦野.

[学会発表]

加藤ゆき, 2009 年 9 月 20 日. 博物館資料としての有害鳥獣駆除個体の活用. 日本鳥学会 2009 年度大会, 北海道大学水産学部.

勝山輝男(かつやま てるお) 植物学(維管束植物)

[論文]

勝山輝男・織田二郎, 2009. コウヤハリスゲの屋久島産新変種, コケハリガネスゲ. 植物研究雑誌, 84: 191-193.

勝山輝男, 2010. 北海道に帰化した日本新産帰化植物コツブアメリカヤガミスゲ. 莎草研究, (15): 1-6.

[著書・調査報告・資料等]

勝山輝男, 2009. セリ科の新帰化植物ホシケチドメグサ. Flora Kanagawa, (69): 836.

勝山輝男, 2009. ヤンバルハコベとオムナグサ. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.341-344. 横浜植物会高桑正敏・勝山輝男・加藤ゆき, 2010. 秦野市渋沢丘陵 2009 年のアカボシゴマダラ. 神奈川虫報, (169): 65-66.

勝山輝男, 2010. 伊豆諸島青ヶ島のスゲ属植物. 莎草研究, (15): 7-9.

矢野興一・正木智美・勝山輝男・星野卓二, 2010. 大隅諸島黒島(鹿児島県)のスゲ属植物. 莎草研究, (15): 11-19.

正木智美・矢野興一・勝山輝男・林 佳貴・星野卓二, 2010. 対馬(長崎県)で採集したスゲ属植物. 莎草研究, (15): 29-40.

[普及的著作等]

勝山輝男, 2009. 木の立場から樹洞を考える. 自然科学のとびら, 15 (2): 14.

勝山輝男, 2009. 樹洞ができるしくみ. 特別展図録 樹洞, pp.1-2.; 樹洞のいろいろ. 同書, pp.98-99. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 小田原.

勝山輝男, 2010. 気候と気象の見方を身につける. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館叢書—1 フィールドワークの達人, p.4; 山での歩き方. 同書, p.11; 山で道に迷わない方法. 同書, p.13; もし道に迷ったら. 同書, p.14; 天気の変化を予測する「観天望気」. 同書, p.19; ツタウルシにはご用心. 同書, p.25; まずは樹木から憶えよう. 同書, p.47; 植物図鑑を使いこなす. 同書, p.48; 自分のフィールドをもってみよう. 同書, p.49; 植物調査のスタイル. 同書, pp.86-88; コラム「森のデザート」. 同書, p.89; もともと山が好きだった. 同書, p.112. 東海大出版会, 秦野.

[学会発表等]

勝山輝男, 2009 年 5 月 30 日. 南西諸島のオキナワヒメナキリとアマミナキリスゲ. 第 20 回すげの会全国大会(福島大会), 福島県白河市ホテル&コテージ白河関の里.

鈴木宗典・下村昌也・伊藤隆・田中徳久・勝山輝男・関光・村中俊哉, 2009 年 9 月 17 日(木)~20 日(日). 伊豆・三浦半島固有キク植物におけるテルペノイドの解析. 日本植物学会第 73 回大会, 山形大学.

田中徳久(たなか のりひさ) 植物学(植物生態)

[著書・調査報告・資料等]

田中徳久, 2009. 台湾の植生景観の一端. 横浜植物会年報, (38): 48-50. 横浜植物会, 横浜.

鈴木照夫・飯野瑞子・田中徳久, 2009. こども植物園 2008 年の標本登録状況. 横浜植物会年報, (38): 134-137.

渡邊重彦・田中徳久, 2009. 植物研究雑誌にみる横浜植物会. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.75-83.

渡邊重彦・田中徳久, 2009. 横浜植物会年報総目次(創刊号~第 38 号). 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.153-173.

田中京子・渡邊重彦・田中徳久, 2009. 会の例会の記録(2)(1971〔昭和 46〕年から 2009〔平成 21〕年). 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.193-200.

田中徳久, 2009. 植物の学名に名を遺す横浜植物会会員. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.215-227.

渡邊重彦・田中徳久, 2009. 横浜植物会とその会員が携わった著作. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.228-232.

渡邊重彦・田中徳久, 2009. 横浜植物会の顧問と運営委員、会員の伝記と記録、追悼文. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.240-242.

高橋秀男・田中徳久, 2009. 宮代コレクションのレッドデータ植物と海外の標本. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.298-319.

田中徳久, 2009. 横浜の植物相の特徴. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.345-350.

田中徳久, 2009. 丹沢山地と箱根山地の植物相の相違. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.362-366.

田中徳久, 2010. 茅ヶ崎市でコバナヤマモモソウ. Flora Kanagawa, (69): 843. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.

[普及的著作等]

佐々木あや子・田中徳久, 2009. 丹沢谷太郎林道の春植物(当日観察した主な植物)—平成 20 年度例会報告—. 横浜植物会年報, (38): 81-82. 横浜植物会, 横浜.

飯野瑞子・田中徳久, 2009. 伊豆天城山のアマギシヤクナゲ観察会(当日観察した主な植物)—平成 20 年度

例会報告一. 横浜植物会年報, (38) : 85-87. 横浜植物会, 横浜.

佐々木あや子・田中徳久, 2009. 箱根芦ノ湖西岸を歩く植物観察会(当日観察した主な植物) —平成 20 年度例会報告— 横浜植物会年報, (38) : 99-100. 横浜植物会, 横浜.

田中徳久, 2009. 横浜植物会の 100 周年に寄せて. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. pp.278-280.

田中徳久, 2009. 古瀬義氏植物標本コレクション. 自然科学のとびら, (15) 4: 31-32. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

田中徳久, 2009. 台湾大学での“協議合作備忘録簽約儀式”報告. 自然科学のとびら, (16) 1: 6. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

田中徳久, 2010. 体のスケールと心の物差し. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館叢書—1 フィールドワークの達人, p.50; 植生調査のスタイル. 同書, p.85. 東海大出版会, 秦野.

[学会発表等]

鈴木宗典・下村昌也・伊藤隆・田中徳久・勝山輝男・關光・村中俊哉, 2009 年 9 月 17 日(木) ~ 20 日(日). 伊豆・三浦半島固有キク植物におけるテルペノイドの解析. 日本植物学会第 73 回大会, 山形大学.

田中徳久, 2010 年 3 月 25 日(金) ~ 28 日(日). 『伊豆半島植物誌』のためのデータベース構築. 日本植物分類学会第 9 回大会, 愛知教育大学.

田中徳久, 2010 年 3 月 28 日(日). 『伊豆半島植物誌』のためのデータベース構築. 日本植物分類学会第 9 回大会公開シンポジウム「生物多様性保全における拠点機関の役割—COP10 を契機として」, 名古屋科学館サイエンスホール.

樽 創(たる はじめ) 古生物学(哺乳類)

[論文]

Endo, H., H. Kobayashi, D. Koyabu, A. Hayashida, T. Jogahara, H. Taru, M. Oishi, T. Itou, H. Koie and T. Sakai, 2009. The Morphological Basis of the Armor-Like Folded Skin of the Greater Indian Rhinoceros as a Thermoregulator. *Mammal Study*. 34 (4) : 195-200.

Zin-Maung-Maung-Thein, Taru H., Takai M. & Fukuchi A., 2009. Rhinocerotid (Mammalia, Perissodactyla) from the Late Miocene Oiso Formation, Kanagawa Prefecture, Japan. *Paleontological Research*, 13 (2): 207-210.

崎山直夫・瀬能 宏・樽 創, 2010. 相模湾におけるウバザメ(ネズミザメ目, ウバザメ科)の出現状況. 神奈川県自然誌資料, (31) : 55-58.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

山内健生・樽 創, 2009. 神奈川県初記録となるイノシ

シジラミの採集例. 神奈川虫報, (166) : 50-51.

[学会発表]

清水優衣・大石和恵・鈴木倫太郎・田島木綿子・角田恒雄・山田格・坂東武治・藤瀬良弘・樽 創・村山司・丸山正, 2009 年 5 月 30 日・31 日. 鯨類における SLAM 分子のモービリウイルス結合部位の解析. マリンバイオテクノロジー学会 第 12 回大会, 東京都・早稲田大学.

Ohishi, K., Y., Shimizu, R. Suzuki, Y., Tajima, T. Kakuda, T. Yamada, T. Bando, Y. Fujise, H. Taru, T. Murayama & T. Maruyama, October 8-10, 2009. Signaling lymphocyte activation molecule (SLAM) , a morbillivirus receptor, in cetaceans: variations of the interface to the morbillivirus. 9th International Marine Biotechnology Conference (IMBC2010) . Quebec City Convention Centre, Quebec, Canada.

大島光春(おおしま みつはる) 古生物学(哺乳類)

[著書・調査報告・資料等]

石浜佐栄子・大島光春・広谷浩子・田口公則, 2010. 塗り絵をコミュニケーションツールに使った子どものための展示について—2009 年度特別展における「ぬりえ de おめん」コーナーの実施報告—. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (39) : 45-52.

大島光春・一寸木肇・飯島俊幸・斎藤有紀雄・露木和男・田口公則, 2010. 小・中学校で学校ミュージアムを展開する. 2007 ~ 2009 年度科学研究補助金基盤研究(C) 研究報告書 博学連携による小中学校における地域地学資料展示の取組と子どもの変容, pp.4-5.

大島光春, 2010. 学校で行う展示—簡単で見栄えの良い展示の小技. 2007 ~ 2009 年度科学研究補助金基盤研究(C) 研究報告書 博学連携による小中学校における地域地学資料展示の取組と子どもの変容, pp.22-24.

[普及的著作等]

大島光春, 2009. 子どものための展示を考える. 自然科学のとびら, 15 (3) : 23-24.

大島光春, 2009. フィールドノート(野帳)のつけかた. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館叢書—1 フィールドワークの達人, p.30; スケッチの効果. 同書, p.33; 化石発掘のスタイル. 同書, pp.90-93; フィールドは博物館. 同書, p.113. 東海大出版会, 秦野.

[学会発表等]

笠間友博・山下浩之・平田大二・新井田秀一・石浜佐栄子・大島光春・田口公則, 2009 年 5 月 17 日. 2520 人でつくった箱根火山. 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

田口公則・大島光春・一寸木肇・飯島俊幸・斎藤有紀雄・露木和男, 2009 年 8 月 23 日. 学校ミュージアムの可能性—地域地学資料の蓄積と活用. 日本地学教育学会第 63 回全国大会, 三重大学.

田口公則・大島光春, 2009 年 2 月 26 日. 学校にミュージアム文化を広げよう 博物館の活動プロセスの共有を取り入れた博学連携. 全国科学博物館協議会第 17 回研究発表大会 (ポスター発表), 仙台市科学館.

田口公則 (たぐち きみのり) 古生物学 (貝類)

[論文]

奥村 清・田口公則, 2009. 福岡県海の中道海岸で採集された現生カズネイタヤ. ちりばたん, 39 (3-4) : 170-175.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・大島光春・広谷浩子・田口公則, 2010. 塗り絵をコミュニケーションツールに使った子どものための展示について—2009 年度特別展における「ぬりえ de おめん」コーナーの実施報告—. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (39) : 45-52.

田口公則, 2010. 博物館等を活用した環境学習のあり方. 下野科研報告書 (印刷中)

田口公則, 2010. 学校ミュージアムへの想い. 2007～2009 年度科学研究補助金基盤研究 (C) 研究報告書 博学連携による小中学校における地域地学資料展示の取組と子どもの変容, p.3.

大島光春・一寸木肇・飯島俊幸・斎藤有紀雄・露木和男・田口公則, 2010. 小・中学校で学校ミュージアムを展開する. 2007～2009 年度科学研究補助金基盤研究 (C) 研究報告書 博学連携による小中学校における地域地学資料展示の取組と子どもの変容, pp.4-5.

田口公則・門田真人, 2010. 出前授業でミニミュージアム～地域の化石と石ころ. 2007～2009 年度科学研究補助金基盤研究 (C) 研究報告書 博学連携による小中学校における地域地学資料展示の取組と子どもの変容, pp.16-18.

[普及的著作等]

田口公則, 2009. にじ色キラキラ, 貝殻みがき. 初等理科教育, 43 (5) : 34-35.

田口公則, 2009. 身近な素材で学校ミュージアム. 理科教室, 52 (8) : 94-95.

田口公則, 2009. ワークショップ “貝殻みがき” を研ぐ. 自然科学のとびら, 15 (3) : 18-19.

田口公則, 2009. 若い地層ほどベールに包まれる!? かもめ広場 かながわコラム, 2009 年 4 月記事 神奈川県行政ネットワーク内, 神奈川県.

田口公則, 2010. 地図を見よう. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館叢書—1 フィールドワークの達人, p.5; コレ, 忘れて困った! 電池切れた! 同書, p.8; 地形と自分の位置の記録法. 同書, pp.31-32; デジタルカメラ活用法. 同書, p.34; フィールドの音集め. 同書, p.35; 五感でフィールドを読み取る. 同書, p.55; 地質調査のスタイル. 同書, pp.94-96; こだわりクリノメーター. 同書, p.97; フィールドで危険な目にあったこと. 同書, p.106; 気分は名

探偵～地質調査の楽しみ. 同書, p.114. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館叢書 1 フィールドワークの達人, 東海大出版会, 秦野.

田口公則, 2010. 高い視点から位置を知る. 神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会通信, 13 (4) : 4-5.

[学会発表等]

笠間友博・山下浩之・平田大二・新井田秀一・石浜佐栄子・大島光春・田口公則, 2009 年 5 月 17 日. 2520 人でつくった箱根火山. 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

宇都宮正志・田口公則・間嶋隆一・和田秀樹・中村章子・岡田誠, 2009 年 5 月 19 日. 鮮新統上総層群浦郷層から産出する冷湧水性化学合成化石群集. 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

田口公則・大島光春・一寸木肇・飯島俊幸・斎藤有紀雄・露木和男, 2009 年 8 月 23 日. 学校ミュージアムの可能性～地域地学資料の蓄積と活用. 日本地学教育学会第 63 回全国大会, 三重大学.

田口公則・大島光春, 2010 年 2 月 26 日. 学校にミュージアム文化を広げよう 博物館の活動プロセスの共有を取り入れた博学連携. 全国科学博物館協議会第 17 回研究発表大会 (ポスター発表), 仙台市科学館.

田口公則, 2010 年 3 月 6 日. 博物館と学校の連携—化石ローンキットプログラムの思想—. 第 3 回博学連携ワークショップ, 船の科学館.

平田大二 (ひらた だいじ) 地学 (鉱物)

[本論文]

平田大二・斎藤靖二・永幡寛三・寺島靖夫・岡田嘉夫・加藤 昭, 2010. 神奈川県山北町人遠の神縄逆断層破碎帯中の赤鉄鉱—石英岩中の海緑石. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (39) : 21-24pp, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

[著書・調査報告・資料等]

Maruyama, S., S.Yanai, Y. Isozaki and D. Hirata, 2009. Japan's Island, Geology. Encyclopedia of Islands. Edit. R. G. Gillespie and D. A. Clague, 500-506, Univ. California Press, Berkeley.

[普及的著作等]

平田大二, 2009. 自然系博物館の未来②小中学校との連携. 科学, 79 (6) : 688-691, 岩波書店.

平田大二, 2010. 博物館が伝えるべきもの. 科学, 80 (3) : 225-227, 岩波書店.

平田大二・岡田 篤・澤野 誠, 2010. 博物館の活用で理科授業を改革する—神奈川県立生命の星・地球博物館での取り組みを通じて—. 理科の教育, 59(3) : 13-17, 日本理科教育学会.

平田大二, 2010. サンフランシスコ&デンバー科学博物館訪問記. 神奈川県博物館協会報, (81) : 53-63.

平田大二, 2010. 小田原・箱根地域の魅力的なジオパー

ク資源—地形・地質. 科学EYES,51(2):7-12, 神奈川県立川崎図書館.

[学会発表等]

平田大二・齋藤靖二・高橋正樹, 箱根火山を中心とした小田原・箱根ジオパーク構想. 日本地球惑星科学連合2009年大会, 2009年5月17日, 幕張メッセ国際会議場, 千葉.

笠間友博・山下浩之・平田大二・新井田秀一・石浜佐栄子・大島光春・田口公則, 2009年5月17日. 2520人でつくった箱根火山～神奈川県立生命の星・地球博物館 箱根火山特別展ワークショップ報告～. 日本地球惑星科学連合2009年大会, 幕張メッセ国際会議場. 根元謙次・坂本泉・滝野義幸・古河秀朗・藤巻三樹雄・奈良宏平・椎野紗和日・佐野弘弥・山本聡一・作田理香・高田真之介・斉藤靖二・平田大二・山下浩之・新井田秀一・石浜佐栄子・小田原啓, 2009. 相模湾西部根府川, 白糸川河口周辺海域で観察された地すべり地形. 日本地質学会第116学術大会, 9月, 岡山理科大学.

新井田秀一(にいだ しゅういち) 環境科学

[論文]

新井田秀一, 2010. 解像力の異なる数値標高モデルを用いた傾斜量図による地形表現. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (39):1-19.

[学会発表等]

笠間友博・山下浩之・平田大二・新井田秀一・石浜佐栄子・大島光春・田口公則, 2009年5月17日. 2520人でつくった箱根火山～神奈川県立生命の星・地球博物館 箱根火山特別展ワークショップ報告～. 日本地球惑星科学連合2009年大会, 幕張メッセ国際会議場. 根元謙次・坂本泉・滝野義幸・古河秀朗・藤巻三樹雄・奈良宏平・椎野紗和日・佐野弘弥・山本聡一・作田理香・高田真之介・斉藤靖二・平田大二・山下浩之・新井田秀一・石浜佐栄子・小田原啓, 2009年9月6日. 相模湾西部根府川, 白糸川河口周辺海域で観察された地すべり地形. 日本地質学会第116学術大会, 9月, 岡山理科大学.

笠間友博(かさま ともひろ) 地学(火山)

[普及的著作]

笠間友博・林 信太郎・萬年一剛, 2009. 特定非営利法人日本火山学会第16回公開講座 火山学者と火山をつくろう! in 箱根・小田原 テキスト. 特定非営利活動法人日本火山学会, 東京, 26p.

笠間友博, 2009. 箱根火山 6万6千年前の大噴火と謎. 自然科学のとびら, 15(4):26-27.

笠間友博, 2010. コレ, 忘れて困った! サンプル袋がない. 神奈川県立生命の星・地球博物館叢書—1フィールドワークの達人, p.8; 移動手段はいろいろ. 同書, p.10; 造成地での調査手続き. 同書, p.12; 磯では濡れた場所をチェック. 同書, p.15; 魚に刺された話. 同書, p.24;

露頭はどこにある. 同書, p.40; 波の特性を知る. 同書, p.41; 風化を見分ける. 同書, p.42; 地形と地層 同書; pp.56; 火山灰調査のスタイル 同書, pp.98-100; 油性ペン. 同書, p.99; 同書, 写真のスケールに1円玉を使う. 同書, p.100; こだわり「岩石ハンマー」練習する人はいないが, 本当は練習が必要な道具. 同書, p.101; こだわり「岩石ハンマーのいろいろ」. 同書, p.102; こだわり「草削り鎌」. 同書, p.103; こだわり「長靴」. 同書, p.105; 野外に出かけるのが日課. 同書, p.115, 東海大学出版会, 秦野.

[学会発表等]

笠間友博・山下浩之・平田大二・新井田秀一・石浜佐栄子・大島光春・田口公則, 2009年5月17日. 2520人でつくった箱根火山～神奈川県立生命の星・地球博物館 箱根火山特別展ワークショップ報告～. 日本地球惑星科学連合2009年大会, 幕張メッセ国際会議場. 笠間友博・萬年一剛・町田 洋, 2009年5月21日. 箱根火山活動期における外来角閃石型テフラ(予報). 日本地球惑星科学連合2009年大会, 幕張メッセ国際会議場.

山下浩之(やました ひろゆき) 地学(岩石)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

山下浩之, 2009.8. 岩石学的検討による石材給源の推定～箱根火山の安山岩を例に～. 科学研究費補助金「中世における石材加工技術～安山岩製石造物の加工と分布～」発表資料集, 1-8. 国立歴史民俗博物館.

小田原啓・林広樹・山下浩之, 2009.12. 神奈川県二宮町梅沢海岸の谷戸層の微化石年代. 神奈川温地研報告, 41; 47-50.

[普及的著作]

山下浩之, 2008.9. 「しんかい 6500」から見た海底. 自然科学のとびら, 15(3):17.

山下浩之, 2009.9. 「しんかい 6500」潜航記. 自然科学のとびら, 15(3):20-21.

[学会発表等]

笠間友博・山下浩之・平田大二・新井田秀一・石浜佐栄子・大島光春・田口公則, 2009年5月17日. 2520人でつくった箱根火山～神奈川県立生命の星・地球博物館 箱根火山特別展ワークショップ報告～. 日本地球惑星科学連合2009年大会, 幕張メッセ国際会議場.

根元謙次・坂本泉・滝野義幸・古河秀朗・藤巻三樹雄・奈良宏平・椎野紗和日・佐野弘弥・山本聡一・作田理香・高田真之介・斉藤靖二・平田大二・山下浩之・新井田秀一・石浜佐栄子・小田原啓, 2009年9月6日. 相模湾西部根府川, 白糸川河口周辺海域で観察された地すべり地形. 日本地質学会第116学術大会, 9月, 岡山理科大学.

石浜佐栄子(いしはま さえこ) 地学(堆積学)

[著作・著書・調査報告・資料集等]

石浜佐栄子・大島光春・広谷浩子・田口公則, 2010. 塗り絵をコミュニケーションツールに使った子どものための展示について—2009 年度特別展における「ぬりえ de おめん」コーナーの実施報告—. 神奈川県博物館研究報告(自然科学), (39) : 45-52.

[普及的著作等]

石浜佐栄子, 2009. 「玉砂舞楼(たまさぶろう)」をつくらう. 自然科学のとびら, 15 (2) : 10-11.

石浜佐栄子, 2010. 丹沢の砂金. 自然科学のとびら, 16 (1) : 1.

[学会発表等]

笠間友博・山下浩之・平田大二・新井田秀一・石浜佐栄子・大島光春・田口公則, 2009 年 5 月 17 日. 2520 人でつくった箱根火山〜神奈川県立生命の星・地球博物館 箱根火山特別展ワークショップ報告〜. 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

高桑正敏(たかくわ まさとし) 動物学(昆虫)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

Takakuwa, M., 2009. A bibliography of writings by Masatoshi Takakuwa. Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology, Tokyo, (7) : 30-97.

高桑正敏, 2009. 八重山諸島石垣島におけるカモタンハナノミの記録. 甲虫ニュース, (166) : 4.

渡辺恭平・高桑正敏, 2009. 奄美諸島徳之島のオビハナノミ属 2 種の記録. 甲虫ニュース, (166) : 4.

高桑正敏, 2009. 大磯丘陵北西部におけるウスバシロチョウの目撃. 神奈川虫報, (167) : 36.

瀬能 宏・高桑正敏, 2010. 海外産メタリフェルホソアカクワガタの神奈川県での野外発見例. 神奈川虫報, (169) : 16.

高桑正敏, 2010. 南足柄市におけるウメエダシャクの発生. 神奈川虫報, (169) : 65.

高桑正敏・勝山輝男・加藤ゆき, 2010. 秦野市渋沢丘陵 2009 年のアカボシゴマダラ. 神奈川虫報, (169) : 65-66.

小林敏男・高桑正敏, 2010. 海老名市におけるサツマゴキブリの発見. 神奈川虫報, (169) : 66.

高桑正敏・藤田 宏, 2010. 屋久島高地帯花之江周辺における昆虫調査. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (39) : 35-38.

高桑正敏, 2010. タテジマカミキリの神奈川県における生態 2 例および関連知見. 神奈川虫報, (170) : 1-5.

高桑正敏, 2010. オオハナノミ科とハナノミ科 (in 荻部治紀・高桑正敏編, 川崎市麻生区産を中心とした中山周平昆虫コレクション目録). 神奈川虫報 (170) : 52-53.

高桑正敏, 2010. カミキリムシ類 (in 荻部治紀・高桑正敏編, 川崎市麻生区産を中心とした中山周平昆虫コレクション目録). 神奈川虫報, (170) : 53-60.

高桑正敏, 2010. 改訂レッドリスト付属説明資料, 昆虫類(分担執筆). 49pp. 環境省自然環境局野生生物課.

[普及的著作等]

高桑正敏, 2009. 今月の本 / 日本産ヒラタムシ上科図説. 月刊むし, (461) : 57.

高桑正敏, 2009. 横浜の動物. 横浜市教育委員会・かながわ検定協議会編, わかるヨコハマ. pp.65-87. 神奈川新聞社.

Takakuwa, M., 2009. My brief biography. Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology, Tokyo, (7) : 27-29.

荻部治紀・高桑正敏, 2009. 樹洞と昆虫たち. 特別展図録「樹洞」, p.58.

高桑正敏, 2009. 樹洞がないと生きていけないカミキリムシ. 特別展図録「樹洞」, pp.72-73.

高桑正敏, 2009. ニホンミツバチとスズメバチ類. 特別展図録「樹洞」, pp.82-85.

高桑正敏, 2009. 伊豆諸島のふしぎな昆虫相. 緑と水のひろば, (56) : 14-15.

高桑正敏, 2009. 熊田千佳慕さんをしのんで. 神奈川新聞 8 月 21 日朝刊.

高桑正敏, 2009. 表紙写真解説〜夜間活動性のアカアシオオアカミキリはなぜ美しいのか?〜. 神奈川虫報, (167) : ii.

高桑正敏, 2009. 晩秋の北陸マヤサンコブヤハズ探査行. こぶ通信, (7) : 10-11.

高桑正敏, 2009. 木下オヤジ急逝! こぶ通信, (7) : 15-16.

高桑正敏, 2009. 中峰さんのコブ博士誕生をお祝いして. こぶ通信, (7) : 19.

高桑正敏, 2009. 将来の昆虫相解明の担い手育て失敗談. 昆虫担当学芸員協議会ニュース, (18) : 2.

高桑正敏, 2009. 表紙写真解説〜ピンク色のコバネイナゴ〜. 神奈川虫報, (168) : ii.

高桑正敏, 2009. 落伍者続出? 2009 年台湾旅行. 夢虫, (20) : 26-28.

高桑正敏, 2009. にゅうふえいす紹介 山上明さん. 夢虫, (20) : 35-36.

高桑正敏, 2009. 「修行とは」〜亡くなられた木下富夫さんの思いを代弁して〜. 花蝶風月, (139) : 6-7.

高桑正敏, 2009. ホソカタムシの誘惑[書評]. 月刊むし, (467) : 46.

高桑正敏, 2010. 表紙写真解説〜灰紫褐色型のハラビロカミキリ〜. 神奈川虫報, (169) : ii.

高桑正敏, 2010. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, フィールドワークの達人[分担執筆]. viii+120pp. 東海大学出版会, 秦野.

高桑正敏, 2010. 表紙写真解説〜木下富夫さんとフサヒゲルリカミキリ〜. 神奈川虫報, (170) : ii.

高桑正敏, 2010. 神奈川県に定着したアカボシゴマダラ〜外来種問題について考える〜. 神奈川県自然保護協会ニュースレター, (56) : 3-8.

高桑正敏, 2010. 中山周平先生と標本リストについて (in

苅部治紀・高桑正敏編，川崎市麻生区産を中心とした
中山周平昆虫コレクション目録），神奈川県虫報，（170）：
43-45.

[学会発表等]

高桑正敏，2009 年 6 月 20 日．神奈川県に定着したア
カボシゴマダラ～外来種問題について考える～．神奈
川県自然保護協会総会，神奈川県立歴史博物館．

高桑正敏，2009 年 11 月 8 日．相模野欠如要素の存在
～三浦半島の生物地理の一側面～．三浦半島昆虫研
究会 11 月例会，横須賀市自然人文博物館．

中林博之・小林敏男・中峰 空・高桑正敏，2009 年 11
月 14 日．北アルプス高瀬渓谷におけるコバヤハズ 2 種
の分布．日本鞘翅学会第 22 回大会・日本昆虫学会関

東支部第 46 回大会，東京農業大学，厚木．

高桑正敏，2010 年 2 月 20 日．伊豆箱根欠如要素とは
～昆虫から見た神奈川県の生物地理の一側面～．日本
家屋害虫学会大会，東京農業大学．

高桑正敏，2010 年 2 月 28 日．神奈川県におけるタテ
ジマカミキリの生態いくつか．神奈川昆虫談話会 2 月
例会，横浜そごうレクチャールーム．

高桑正敏，2010 年 3 月 27 日．アカボシゴマダラの分
布拡大と，それに対する蝶愛好家の受け止め方．日本
応用動物昆虫学会大会小集会，千葉大学．

新井一政（あらい かずまさ） 動物学（両生・爬虫類）

3.5. レファレンス件数

2009 年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に問い合わせの手法によって分類し、表に示した。なお、これらの問い合わせのうち、マスコミによる取材は 130 件あり、そのうち 21 件については報道された。

	植物	昆虫	軟体動物・甲殻類	魚類	両生・爬虫類	鳥類	哺乳類	古生物	地質・岩石・鉱物	地球環境	計
来館	65	84	110	49	13	13	1	31	97	8	471
メール	42	173	113	857	0	18	4	100	55	0	1,362
電話	67	99	59	100	48	17	9	45	67	14	525
手紙 /FAX	12	22	0	6	0	3	0	0	0	0	43
資料送付	12	8	0	6	0	0	0	0	1	0	27
出張	0	6	2	2	0	1	0	1	1	0	13
計	198	392	284	1,020	61	52	14	177	221	22	2,441

3.6. 各種委員・役員・非常勤講師・その他

委員・役員に関しては、「役職名（機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「役職名」「科目名」（学校名）」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

斎藤靖二

[委員・役員]

日本学術会議・連携会員（日本学術会議）
国際地質科学連合(IUGS) 分科会・委員長(日本学術会議)
地球惑星圏分科会・委員（日本学術会議）
社会貢献分科会・委員（日本学術会議）
科学・数学・技術初等中等教育検討分科会・委員（日本学術会議）
自然史・古生物学分科会・委員（日本学術会議）
国際地質科学連合分科会 国際古生物学協会 (IPA) 小委員会・委員（日本学術会議）
科学力増進分科会 科学技術リテラシー小委員会・委員(日本学術会議)
文部科学省 南極地域観測統合推進本部・外部評価委員（文部科学省）
海上保安庁 海洋の歴史的な資料等の保存および公開に

関する委員会・委員長（海上保安庁）
日本地球掘削科学コンソーシアム (J-DESC) ・会長（日本地球掘削科学コンソーシアム）
国際地学オリンピック日本委員会・委員 (NPO 法人国際地学オリンピック日本委員会)
海洋研究開発機構地球内部変動センター・アドバイザー（独立行政法人 海洋研究開発機構）
東京地学協会理事会・監事（社団法人 東京地学協会）
東京地学協会 地学クラブ・世話人代表（社団法人 東京地学協会）
日本博物館協会 棚橋賞選考委員会・委員（財団法人日本博物館協会）
日本博物館協会 子どものゆめ基金事業委員会・委員（財団法人日本博物館協会）
日本博物館協会 博物館等倫理規定調査研究会・主査（財団法人 日本博物館協会）

野外自然博物館協会・評議員（財団法人 野外自然博物館協会）
科学博物館後援会・評議員（財団法人 科学博物館後援会）
神奈川県博物館協会・理事（神奈川県博物館協会）
国立科学博物館 大学生のための自然史講座・講師（独立行政法人 国立科学博物館）
国立科学博物館 サイエンスコミュニケーション・講師（独立行政法人 国立科学博物館）
理数系学会教育問題連絡会・日本地球惑星科学連合担当委員
国立・国定公園総点検事業に係る懇談会・委員（財団法人 国立公園協会）
武田科学振興財団 理科教育振興奨励賞選考委員会・委員（財団法人 武田学術振興財団）
日本地質百選選定委員会・委員長
高知大学海洋コア総合研究センター 運営協議会・委員（大学法人 高知大学）
名古屋大学博物館 外部評価委員会・委員（大学法人 名古屋大学）

広谷浩子

〔委員・役員〕
小田原市郷土文化館協議会委員 小田原市教育委員会
厚木市野生鳥獣等総合対策協議会委員 厚木市
神奈川県鳥獣総合対策協議会サル対策専門部会委員 神奈川県環境農政部

瀬能 宏

〔委員・役員〕
日本魚類学会評議員（日本魚類学会）
日本魚類学会自然保護委員会副委員長（日本魚類学会）
日本魚類学会標準和名検討委員会委員長（日本魚類学会）
日本分類学会連合加盟団体代表者（日本魚類学会）
日本生物地理学会評議員（日本生物地理学会）
希少野生動植物種保存推進員（環境省）
平成21年度第3次絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会委員（環境省）
河川水辺の国勢調査「河川版・ダム湖版」スクリーニング委員会委員（（財）リバーフロント整備センター）
平成21年度東京都の保護上重要な野生生物種「島しょ部」哺乳類・爬虫類・魚類専門部会委員（東京都）
〔その他〕
魚の会事務局（魚の会）
〔査読〕
国立科学博物館研究報告A類（動物学）補遺（国立科学博物館）
魚類学雑誌（日本魚類学会）
保全生態学研究（日本生態学会）
Species Diversity（日本動物分類学会）

日本生物地理学会報（日本生物地理学会）

苅部治紀

〔委員・役員〕
World Dragonfly Association（世界トンボ協会）日本支部副代表
IUCN Dragonflies Specialist Group
ヨコハマナガゴミシ保全対策検討会検討委員 首都高速道路公団
鶴見川希少生物生態・保全検討委員会検討委員 国土交通省京浜工事事務所
日本蜻蛉学会和名検討委員会委員長
日本蜻蛉学会自然保護委員会マダラナニワトンボ部会
日本蜻蛉学会自然保護委員会小笠原特産種部会部長
日本鞘翅学会自然保護委員会委員
小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会検討委員 環境省
小笠原諸島における外来ネズミ類対策検討会委員 環境省
小笠原父島東平自然再生区検討委員 環境省
小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会アドバイザー 林野庁
小笠原固有森林生態系修復検討委員会委員 林野庁
小笠原兄島・弟島ノヤギ排除検討委員会検討委員 東京都
小笠原国立公園智島列島植生回復調査検討委員会委員 東京都
東京都の保護上重要な野生生物種（島嶼部）専門部会（昆虫類）委員

加藤ゆき

〔委員・役員〕
神奈川県鳥類目録編集委員会委員（日本野鳥の会神奈川県）
神奈川県カワウ対策委員会委員（神奈川県水産課）
周南市ツル保護協議会委員（山口県周南市）

勝山輝男

〔委員・役員〕
絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会植物I分科会委員（環境省）
日本植物分類学会絶滅危惧植物検討委員会委員（日本植物分類学会）
希少野生動物保存推進員（植物）（環境省）
河川水辺の国勢調査スクリーニング・グループ委員（植物）（財団法人リバーフロント整備センター）
丹沢大山自然再生委員会委員（丹沢大山自然再生委員会）
小田原市文化財保護委員（小田原市教育委員会）
小田原城跡八幡山古郭・総構保存管理計画策定委員会委員（小田原市教育委員会）
史跡小田原城本丸・二の丸植栽管理計画策定委員会委員（小田原市教育委員会）

大和市文化財保護委員（大和市教育委員会）
湯河原町文化財保護委員（湯河原町教育委員会）
日本すげの会副会長（日本すげの会）
神奈川県植物誌調査会運営委員（神奈川県植物誌調査会）
神奈川県植物誌調査会事務局（神奈川県植物誌調査会）

田中徳久

〔委員・役員〕
神奈川県植物誌調査会運営委員（神奈川県植物誌調査会）
神奈川県植物誌調査会事務局（神奈川県植物誌調査会）
横浜植物会運営委員（横浜植物会）
神奈川県自然保護協会運営委員（神奈川県自然保護協会）
植生学会企画委員会委員（植生学会）
自然史学会連合博物館部会委員
〔非常勤講師〕
日本女子大学非常勤講師（前期）「博物館実習（A）」 日本女子大学
横浜国立大学教育人間科学部非常勤講師（後期）「自然博物館学」 横浜国立大学

樽 創

〔委員・役員〕
日本古生物学学会「化石」編集幹事（日本古生物学学会）
日本第四紀学会「第四紀研究」編集委員（日本第四紀学会）
種名・標本検討委員会（日本哺乳類学会）
〔非常勤講師〕
東京農業大学アニマルセラピー学科非常勤講師（前期）
「動物形態・分類学」（東京農業大学）
〔その他〕
神奈川地学会事務局（神奈川地学）

田口公則

〔委員・役員〕
高等学校学習指導要領解説理科編作成協力者 2006年度～2009年度（文部科学省）
日本共生科学会学会誌編集委員（日本共生科学会）
〔その他〕
神奈川地学会事務局（神奈川地学）

平田大二

〔委員・役員〕
「地質の日」事業推進実行委員会 委員長
相模原市文化財保護審議会委員
川崎市立青少年科学館協議会委員
〔非常勤講師〕
玉川大学農学部非常勤講師（前期・後期）

〔その他〕
神奈川地学会事務局（神奈川地学）

新井田秀一

〔非常勤講師〕
日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期集中）「博物館学各論」 日本大学生物資源科学部

笠間友博

〔委員・役員〕
日本地質学会代議員
日本地質学会関東支部幹事
日本地質学会友の会検討委員会
日本地質学会火山部会教育普及委員会
日本火山学会事業委員会
日本火山学会学校教育委員会
〔その他〕
神奈川地学会事務局（神奈川地学）

石浜佐栄子

〔その他〕
神奈川地学会事務局（神奈川地学）

高桑正敏

〔委員・役員〕
日本鞘翅学会常任幹事・編集委員・自然保護委員会委員長・和名検討委員会副委員長・合併検討委員会委員（日本鞘翅学会）
日本チョウ類保全協会幹事（NPO法人日本チョウ類保全協会）
絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会昆虫部会検討員（環境省）
希少野生動植物種保存推進員（環境省）
小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議構成員（環境省）
河川水辺の国勢調査 陸上昆虫類スクリーニング・グループ委員（国土交通省）
鶴見川希少生物生態・保全対策検討委員会委員（国土交通省京浜工事事務所）
ヨコハマナガゴミムシ保全対策検討会座長（首都高速道路公団）
生物分類技能検定動物部門試験委員（（財）自然環境研究センター）
東京都における保護上重要な野生生物の種に関する検討会昆虫類専門部会委員（（財）自然環境研究センター）
川崎市文化財保護審議会委員（川崎市）
〔非常勤講師〕
日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期集中）「博物館学各論」（日本大学生物資源科学部）

3.7. 講師依頼等

講演、講座などの実施日順に、「内容等(依頼元) 場所(実施日)」について記載した。なお、学校(小・中・高・大・養護等)への対応については、「5.2 学校教育への対応」に記載した。

瀬能 宏

相模湾の魚の研究、今、昔(藤沢市教育委員会) 神奈川県立生命の星・地球博物館西側講義室(2009年4月10日)
小田原のメダカの保全と課題(NPO法人市民活動を支える会) 小田原市民会館 5F 第3会議室(2009年7月4日)
小田原のメダカの保全と課題(小田原市小学校教育研究会) 神奈川県立生命の星・地球博物館講義室(2009年8月25日)
メダカからみた北川湿地の重要性(小田原市環境部環境保護課) 神奈川県立生命の星・地球博物館会議室(2009年8月28日)

広谷浩子

樹洞にくらす生きものたち(県立自然環境保全センター) 県立自然環境保全センター(2009年10月4日(日))
野生動物の研究と博物館展示(日本野生動物医学会学生部会) 麻布大学獣医学部(2009年12月5日(土))
母になること、母でいることーニホンザルとヒトの母子関係比較ー(日本霊長類学会) 中部学院大学各務原キャンパス(2009年7月20日(月))

荻部治紀

ヨツボシトンボ・オオイトトンボの調査とスイレン除去等の環境保全作業(トンボ調査・保全ネットワーク) 相模原市「プレジャーフォレスト」(2009年5月10日(日))
県北部ホンサナエなどの初夏ものの調査(トンボ調査・保全ネットワーク) 相模川沿岸 厚木市～相模湖町(2009年5月31日(日))
新潟県保全作業と調査(トンボ調査・保全ネットワーク) 新潟県村上市高根・松ノ木平周辺(2009年6月20日(土) 21日(日))
ビオトープ池の環境保全作業(トンボ調査・保全ネットワーク) 相模原市「プレジャーフォレスト」(2009年10月10日(土))
新潟県保全作業と調査および秋田県調査(トンボ調査・保全ネットワーク) 新潟県村上市高根・秋田県島海山周辺(2009年10月3日(土)・4日(日))
ゲンバイトンボ、キロヤマトンボの観察会(トンボ調査・保全ネットワーク) 岐阜県・愛知県(2009年7月5日(日))
ビオトープ池の環境保全作業(トンボ調査・保全ネットワーク) 相模原市「プレジャーフォレスト」(2009年8月28日(金))
ネアカヨシヤンマの観察 シャープゲンゴロウモドキの環境保全作業(トンボ調査・保全ネットワーク) 千葉県

大多喜町(2009年8月9日(日))

ビオトープ池の環境保全作業(トンボ調査・保全ネットワーク) 相模原市「プレジャーフォレスト」(2009年9月20日(日))
ビオトープ池の環境保全作業 オオモノサシトンボ保全のための外来魚駆除作業(トンボ調査・保全ネットワーク) NEC 我孫子事業場ビオトープ(2010年3月29日(土))

佐藤武宏

磯の生きもの観察キャンプ in 三浦半島(NAFA子育て環境支援センター) 三浦市小網代荒井浜(2009年5月30日(土) 31日(日))
相模湾小網代干潟におけるチゴガニのウェイピング行動の観察と密度効果に関する予察的実験(東京大学理学系研究科) 東京大学理学系研究科(2009年11月10日(火))
子ども自然科学探検隊(県立青少年センター科学部) 当館周辺(2009年12月6日(日))

加藤ゆき

親子自然体験教室 バードウォッチング(座間市東地区文化センター) 当館実習実験室(2009年10月12日(月))
神奈川の自然と野鳥(東林野鳥の会) 当館講義室(2009年8月19日(水))
酒匂川の冬鳥ウォッチング(開成パレットガーデン自治会) 酒匂川(2010年1月23日(土))

勝山輝男

くずはの家 自然観察指導員養成講座(秦野市環境保全課) くずはの家 研修室(2009年6月21日(日))
近くて深い丹沢 その魅力と現状について考える(丹沢ブナ党) 横浜市従会館(2009年11月15日(日))
最近の帰化植物事情(自然環境保護センター) 自然環境保護センター(2009年11月22日(日))
三浦半島の植物の特徴と希少種の保護(かながわトラストみどり財団) 当館講義室・展示室(2009年11月25日(水))
丹沢・大山の植物誌(環境農政部森林課) 当館講義室(2010年1月26日(火))
地域の歴史と文化探訪(湯河原町教育委員会) 湯河原町鍛冶屋方面(2010年2月12日(金))
新治の自然環境と保全指標の考え方(よこはま里山研究所 NORA) にいはる里山交流センター(2010年3月6日(土))

子ども自然科学探検隊（県立青少年センター科学部）当館周辺（2009年12月6日（日））

田中徳久

横浜植物会 100 周年記念事業植物講座第 10 回「植物分類の基礎」（横浜植物会）横浜市こども植物園（2009 年 4 月 4 日（土））

青葉区ハマロード・サポーター交流会「特定外来生物（植物）について」（青葉土木事務所）青葉土木事務所（2009 年 12 月 11 日（金））

横浜植物会例会「2009 年の植物界の話題」（横浜植物会）横浜市こども植物園（2009 年 12 月 20 日（日））

シンポジウム谷戸のくらし野外ミュージアム「市民協働と博物館の視点」（谷戸のくらし野外ミュージアム）横浜開国博 Y 150 ヒルサイド会場（2009 年 7 月 12 日（日））

よこはまの森の恵み教室「横浜の森ー現在の姿を知るー」（横浜市環境創造局）市民活動支援センター（2010 年 3 月 2 日（火））

樽 創

市民カレッジ公開講座「海獣パレオパラドキシア」（あきる野市教育委員会）当館講義室・展示室（2009 年 12 月 5 日（土））

バリアフリーについて（栃木県立博物館）当館講義室（2010 年 1 月 28 日（木））

藤沢にもゾウがいた!!（川名自然フォーラム）藤沢産業センター（2010 年 2 月 28 日（日））

大島光春

化石と恐竜の話（小田原市教育委員会）当館実習実験室（2009 年 11 月 23 日（月））

化石のレプリカ作り（藤沢市教育委員会）当館講義室（2010 年 3 月 30 日（火））

田口公則

遊水地貝化石のなぞ? 「貝化石探しの楽しみ」（境川流域の自然景観を作る会）下飯田遊水地 境川遊水地情報センター（2009 年 10 月 18 日（日））

平田大二

NACS-J 自然観察指導員講習会（日本自然保護協会）富士ゼロックス 塚原研修所（2009 年 7 月 19 日（日））

新井田秀一

私たちが守ります「緑の地球」（国際ソロプチミスト海老名）海老名市役所（2009 年 6 月 6 日（土））

笠間友博

茅ヶ崎市で推測される地震の被害について（茅ヶ崎市男女参画課）茅ヶ崎市分庁舎（2009 年 10 月 20 日（火））

おだわらシルバー大学 「箱根火山と地震」（小田原市教育委員会）当館講義室（2009 年 7 月 7 日（火））

子どもチャレンジ 「ミニ火山を作ろう」（二宮町教育委員会）当館実習実験室（2009 年 8 月 23 日（日））

火山の造形美（藤沢市教育文化センター）伊豆高原方面（2009 年 8 月 3 日（月））

青少年のための科学の祭典（県立青少年センター科学部）県立青少年センター（2009 年 8 月 9 日（日））

科学と環境教育ミーティング（静岡県 科学と環境教育ミーティング実行委員会）田貫湖ふれあい自然塾（2010 年 2 月 6 日（土）・7 日（日））

子どもエコクラブ「バックヤード探検ツアー」（小田原市環境政策課）当館バックヤード（2010 年 3 月 26 日（金））

山下浩之

神奈川の自然「丹沢山地の成り立ち」（東林野鳥の会）当館講義室（2009 年 8 月 19 日（水））

自然歴史案内人養成講座「伊豆半島の成り立ち」（伊東市観光課）当館講義室（2009 年 8 月 25 日（火））

鉱物観察と鉱物について（ものがたり文化の会）当館講義室（2010 年 2 月 21 日（日））

高桑正敏

館施設案内（かながわトラストみどり財団）当館講義室・展示室（2009 年 11 月 20 日（金））

神奈川県における昆虫相の変遷（東海大学人間環境学科）当館講義室（2009 年 6 月 25 日（木））

ヒメハルゼミの声を聴く会（早雲寺 箱根町教育委員会）早雲寺 講堂（2009 年 7 月 9 日（木））

自然観察会「称名寺市民の森自然散策」（かながわトラストみどり財団）称名寺市民の森（2009 年 8 月 9 日（日））

新井一政

「博物館の裏側を探検しよう!」（厚木市南毛利公民館）当館（2009 年 9 月 12 日（土））

3.8. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会について、「それぞれの名称(担当者)」と、「実施日(場所) 参加者数」について記載した。

平成 20 年度魚の会総会・平成 21 年度魚の会第 1 回講演
会(瀬能 宏) 2009 年 5 月 17 日(日) (講義室) 34 名
平成 21 年度魚の会第 2 回講演会(瀬能 宏) 2009 年
11 月 8 日(日) (講義室) 40 名
神奈川県植物誌調査会総会(勝山輝男・田中徳久) 2009

年 4 月 25 日(土) 講義室(約 50 名)
日本火山学会(平田大二), 2009 年 10 月 9 日ー 12 日,
ミュージアム・シアター、講義室ほか 293 名

3.9. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、「協力先「企画名」(期間) 協力内容(担当者)」を記載した。

箱根ジオパーク推進連絡会(斎藤靖二・平田大二)
鉱物標本観察観察会(平田大二)

湘南地球科学の会(平田大二・大島光春・山下浩之)
あしがらNST研究会(平田大二・田口公則)

3.10. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する陽光に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。今年度は外来研究員を 13 名受け入れた。以下に「外来研究員氏名: 研究テーマ(受け入れ担当者)」を掲載する。なお、今年度の研究成果に関しては、資料の項(91 ~ 95 ページ)に掲載した。

若代彰路: 丹沢の森林・溪流生態系における哺乳類の研究
(広谷浩子)
山口喜盛: 神奈川県におけるコウモリ類の生息状況(広谷
浩子)
佐久間将: 本州中部におけるセスジアカムカデの分類学的
研究(佐藤武宏)
長谷川嘉則: 酒匂川流域におけるツチガエルの集団間変異
(新井一政)
丸野内淳介: (1) 路上死体に基づくヘビ分布記録 (2) ホタル
個体群の 5 年間の変動 (3) アカハライモリ腹部斑紋
の解析 (4) 下北半島のカジカガエルの生息状況(新井一
政)

袴田和夫: テフクロクロノロジーから見た箱根火山古期火山
体の形成史(笠間友博)
奥村 清: 足柄山地足柄層群産出の貝化石群(田口公則)
姉崎智子: 神奈川県下の現生哺乳類の形態変異に関す
る研究ーイノシシ、ニホンザル、ニホンジカを中心にー
(樽 創)
門田真人: 伊豆の中新世サンゴ礁生物化石から古環境を知
る(田口公則)
藤原慎一: 四肢動物の前肢における、運動時の姿勢と骨
格形態・筋重量比との関係(樽 創)
柴田伊廣: 付加体発達の間欠性(平田大二)

3.11. 名誉館員

博物館名誉館員称号授与要綱に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として 20 年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員に対し、名誉館員を認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名(認定年月日)」を以下に掲載する。

館長
濱田隆士(2000 年 4 月 1 日)
青木淳一(2006 年 4 月 1 日)

学芸員
高橋秀男(2000 年 4 月 1 日)

村岡健作(2000 年 4 月 1 日)
生出智哉(2000 年 4 月 1 日)
松島義章(2002 年 4 月 1 日)
中村一恵(2004 年 4 月 1 日)
今永 勇(2005 年 4 月 1 日)
奥野花代子(2009 年 3 月 31 日)

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2010 年 3 月 31 日現在の収蔵資料の登録実績は右表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料登録実績に関しては、資料の項（86 ページ）に掲載した。

4.1.2. 購入資料

[哺乳類] 合計 3 点

化石人類骨格レプリカ（アファレンシス猿人）

古人類骨格レプリカ（アジア人男性）

ジャイアントパンダの頭骨レプリカ

[鳥類] 合計 10 点

鳥類剥製（ハリオシギ・ケイマフリ・ブッポウソウ・クロトキ・

シロハヤブサ・ムラサキサギ・コサメビタキ・シベリアア

オジ 各 1 点 エゾライチョウ 2 点）

[魚類] 合計 62 点

原始的淡水魚類 36 点

相模湾とその関連水域の魚類 13 点

[昆虫] 合計 330 点

樹洞性昆虫（アマミマルバネクワガタ・ヤエヤママエウバ

ネクワガタ・ヤクシマクロギス・ヤンバルクロギス・ヤエ

ヤマクロギス 各 1 点 オキナワマルバネクワガタ 3 点

オオクワガタ・ヒラタクワガタ 各 4 点） 16 点

世界のトンボコレクション（台湾、香港、タイ、マレーシア、

アルゼンチンカメルーン産など） 305 点

アリバチ類（ボリビア、ペルー、チェコ産） 9 点

ハゴロモの 1 種（ペルー産） 5 点

カマキリの 1 種（セレベス産） 1 点

カメムシの 1 種（ボリビア産） 5 点

カタゾウムシの 1 種（ボリビア産） 3 点

リノケルスフタマタクワガタ（インドネシア産） 1 点

インペラートルホソアカクワガタ（インドネシア産） 1 点

[化石] 合計 12 点、1 セット

琥珀（昆虫） 1 点

恐竜の歯 6 点（デイノニクス、カルカロドントサウルス、

ディプロドクス・ティラノサウルス・パキケファロサウルス・

ステゴサウルス 各 1 点

ニホンハナガメのホロタイプレプリカ（腹甲・下顎） 1

セット

収蔵資料の登録実績

分野	2008 年度までの登録数	2009 年度の登録数	合計
哺乳類	2,587	178	2,765
鳥類	1,547	76	1,623
魚類	23,249	2,908	26,157
魚類写真	77,800	4,025	81,825
昆虫	29,028	0	29,028
軟体動物	7,970	4,626	12,596
甲殻類	8,000	231	8,231
甲殻類細密画	300	48	348
両生・爬虫類	4	644	648
動物その他	56	0	56
維管束植物	227,041	5,429	232,470
コケ	2,841	0	2,841
菌類・地衣類	3,397	13,174	16,571
藻類	2,062	0	2,062
植物その他	7	0	7
植生	172	0	172
化石	8,838	1,331	10,169
岩石	3,578	2,266	5,844
鉱物	12,811	0	12,811
地質・ボーリング	2	0	2
衛星画像	743	36	779
衛星処理画像	129	0	129
景観画像	1,361	0	1,361
合計	413,523	34,972	448,495

ショートフェイスドベア骨格レプリカ（前肢） 1 セット

デスモスチルス・ヘスペルスの臼歯 1 点

[岩石・鉱物] 合計 2 点

地層剥ぎ取り資料（堆積構造） 1 点

宮田層化石床露頭はぎとり標本 1 点

[衛星画像] 合計 27 点

地球観測衛星 ASTER データ 12 点

日本近海 30 秒グリッド水深データ 5 点

[画像] 合計 2 点

南硫黄島展示用映像資料 2 点

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2009 年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 点数(寄贈者(敬称略))」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄贈資料をまとめ、代表する資料名、合計点数を記した。な

お、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には掲載していない。

また、PDF 版(ホームページ)では寄贈者の個人名は削除した。

[哺乳類] 合計 115 点

ニホンノウサギほか 4 点
ニホンジネズミ 1 点
ヒメネズミほか 10 点
ヒメヒミズほか 60 点
ニホンカモシカ 1 点(松田警察署)
ニホンジカ 1 点(足柄上地方事務所)
ニホンカモシカ 1 点(秦野警察署)
ニホンノウサギほか 17 点(秦野県有林事務所)
ハクビシン 1 点
ニホンジカほか 2 点
キツネ 1 点
アフリカマナティー 1 点(大洋漁業)
アメリカマナティー 1 点(読売ランド水族館)
ゴールデンハムスター 1 点(上野動物園)
タヌキ 1 点
ニホンカモシカ 1 点
ニホンカモシカ 2 点(自然保護センター)
ハツカネズミほか 9 点

[鳥類] 合計 12 点

コハクチョウ 1 点
イカル 1 点
アオゲラほか 9 点(自然保護センター)
エミュー 1 点(野毛山動物園)

[魚類] 合計 2,752 点

コボラほか 6 点
ハナスズキ属の1種1 1 点(クラブノア母島)
カリフォルニアネコザメほか 12 点(ブルーコーナージャパン)
未同定 6 点
ヒゲセジロハゼ 1 点
ウスエイ 1 点(横浜・八景島シーパラダイス アクアリゾート)
サンカクハゼ属未同定種 1 点
タテヤマベラほか 5 点(益田海洋プロダクション)
ウキゴリほか 27 点
サケガシラ 1 点(神奈川県水産技術センター)
コイ 2 点(沖島漁業協同組合)
アリアケギバチ 2 点
ナカモトイロワケハゼ 1 点(下関市立しものせき水族館

海響館)

ヒョウモンシャチブリ 1 点(下関市立しものせき水族館 海響館)

アサヒアナハゼほか 25 点

ゴンズイほか 3 点

アイゴほか 11 点

イバラタツほか 4 点(葛西臨海水族園)

メダカ(南日本集団地域型不明) 2 点(株式会社建設技術研究所)

キタノアカヒレタビラほか 36 点

ハナシモチ 1 点

シギウナギ 1 点

ホトケドジョウ属の1種2 2 点

アイナメほか 168 点

アゴアマダイ属未同定種ほか 3 点

イセゴイほか 2 点

イドミミズハゼ近似種2ほか 21 点

ナガレホトケドジョウ 6 点

トサカハギ近似種ほか 9 点(静岡県水産技術研究所伊豆分場)

アカエイほか 454 点

アカヒレタビラほか 13 点

アオハタほか 18 点

イドミミズハゼほか 9 点

イロカエルアンコウ 1 点

カラスザメほか 7 点

アカエソ属未同定種ほか 6 点

カマキリほか 3 点

アオザメほか 5 点(新江ノ島水族館)

コイ 1 点(埼玉県農林総合研究センター水産研究所)

ヨリメハゼほか 3 点

アブラボテほか 13 点

サンゴタツ 2 点

メダカ(南日本集団東瀬戸内型) 1 点

アカメフグほか 5 点

ゼブラウツボほか 8 点

ゴンズイほか 4 点

アカエイほか 99 点

アワセイトハゼ属未同定種ほか 5 点

イレズミオオメエソほか 7 点

ネズミギス 1 点(神奈川県水産技術センター相模湾試験場)

アイカジカほか 245 点(秋田県水産振興センター)

アマゴ×ヤマメ 1 点
アブラハヤほか 31 点
ヤマヒメほか 6 点 (神奈川県水産技術センター相模湾試験場)
アサヒアナハゼほか 7 点
アオタナゴほか 186 点
アオミシマほか 380 点
メダカ (地域集団地域型不明) 8 点
アオノメハタほか 353 点
アブラハヤほか 90 点 (中央水産研究所、上田支所)
センニンフグほか 2 点 (神奈川県立水産技術センター相模湾試験場)
ツバクロエイ 1 点
アカササノハベラほか 138 点
カガミダイほか 2 点
アオメエソほか 24 点
アカメバルほか 28 点 (東京海洋大学水産生物研究会)
ヒノマルテンス 1 点 (東京都島しょ農林水産総合センター)
アオギハゼほか 17 点
アングイラ・オーストラリスほか 12 点
イセゴイほか 8 点
アカメフグ 1 点
メダカ (南日本集団東日本型) 1 点
コクチモーリー 1 点 (碧南海浜水族館)
キホウボウ科未同定属未同定種ほか 9 点
アイランド・グレゴリーほか 148 点
キンギョ 1 点
ウキゴリほか 13 点
ロリカリア科未同定属未同定種 2 点
クジャクハゼほか 5 点
ヒメクサアジ 1 点
シギウナギ 1 点
フェイア・ダブラ 3 点 (Royal Ontario Museum)

[魚類写真] 合計 3,006 点

ヒポカンパス・デニセ 1 点
ルゾニクティス・タエニアタス 1 点
オオモンハタ 1 点
フリソデウオ 1 点
ボウズハゼ 1 点
フサカサゴ科の 1 種 1 点
ヒイラギ 1 点
アポゴン・オセリコウダスほか 35 点
オオメハゼ 1 点
オイランヨウジ 1 点
エンマゴチ 1 点
コロダイ 1 点
イレズミハゼ属未同定種ほか 4 点
ルリホシスズメダイ 1 点
シマウミヘビ 1 点
アイゴほか 344 点

スミツキハナダイ 2 点
キビレハタ 1 点
アカササノハベラほか 12 点
マツダイ 1 点
サクラテンジクダイほか 4 点
キバラヨシノボリほか 13 点
イソハゼ属未同定種ほか 9 点
ホンテンスモドキ属の 1 種 2 1 点
アオハチハゼほか 66 点
ヨコシマクロダイ 1 点
アカイサキほか 27 点
アオハタ 1 点
リュウセイスズメダイ 1 点
イドミミズハゼほか 13 点
クロウミウマ 1 点
ブラックスポット・ダムゼルほか 3 点
オオメハゼほか 10 点
シボリキンチャクフグ 1 点
アオハタ 1 点
カタボシオオモンハゼほか 4 点
カワハギほか 4 点
クロホシマンジュウダイほか 2 点
ミジンベニハゼ 1 点
カスリハゼ 1 点
アイナメほか 36 点
ムスメハゼ 4 点
ビオラリボンスズメダイ 1 点
ケショウハゼほか 2 点
アカハタほか 19 点
アケボノハゼ×ハタタテハゼほか 7 点
マツダイ 1 点
イソカサゴ属未同定種ほか 9 点
シマイサキ 1 点
アイランド・グレゴリーほか 277 点
シャチブリ 1 点
ソラスズメダイ 1 点
トゲナガユゴイ 1 点
ウミショウブハゼ属未同定種ほか 2 点
ナガハナダイ属未同定種ほか 2 点
アイスズメダイほか 38 点
アミウツボほか 15 点
パンガシアノドン・ギガス 1 点
キザクラハゼほか 2 点
オヤビッチャ属未同定種ほか 13 点
ハオコゼほか 3 点
シシマイギンポ 2 点
カシワハナダイ 1 点
ナガセハゼ 1 点
アカネキンチャクダイほか 28 点
イズヌメリほか 7 点
キジハタほか 2 点

アイカジカほか 163 点
アセウツボほか 37 点
クロソラスズメダイ 1 点
アケボノハゼほか 23 点
アオサハギほか 29 点
ハナカジカ 1 点
アカマツカサ属未同定種 1 点
ウケグチノホソミオナガノオキナハギほか 3 点
ヘビギンポ属未同定種 1 点
アオギハゼほか 854 点
カスリハゼほか 6 点
キララハゼ属の 1 種 C1 点
アカニジベラほか 11 点
スナゴチ 1 点
アカハタほか 9 点
オオメハゼほか 6 点
ケショウハゼほか 3 点
アゴアマダイ属未同定種ほか 10 点
キミオコゼ 1 点
イチモンスズメダイ 2 点
ゴマウツボ 1 点
モエギハゼ近似種 1 点
アカイソハゼほか 3 点
ヒメニラミベニハゼ 1 点
モヨウフグ 1 点
バラムツ 1 点
イサキほか 11 点
ベニハゼ属の 1 種 19 点
アイゴほか 528 点
ウミヘビ科の 1 種ほか 2 点
キンチャクダイ属の 1 種 1 点
カンパチ 1 点
グランモヌス・ユノカワイ 1 点
クロアナゴほか 2 点
ハマクマノミ 1 点
イシガキフグほか 15 点
イダテンカジカほか 22 点
アイスズメダイほか 59 点
アカホシキンセンイシモチほか 13 点
イサキほか 13 点
ヨスジフエダイ 2 点
ソラスズメダイ 1 点
チチブ属未同定種ほか 3 点
カゴシマオコゼ 1 点
エンマゴチ 1 点
パリオグロツサス・トリケトルス 3 点
オトメハゼ 1 点
ハマフグほか 2 点
シマイサキ 1 点
オニゴチほか 3 点
アオギハゼほか 48 点

イシダイほか 8 点
アオスジエビスほか 2 点
サツキハゼ属未同定種ほか 15 点
ケラマハナダイ 2 点
アカマンボウ 1 点
オオモンハゼ属未同定種ほか 14 点
カジカ科未同定属未同定種ほか 2 点
オキザヨリほか 2 点

[軟体動物] 合計 153 点

エゾヒタチオビ 1 点
アオガイほか 129 点
マメダコ 1 点
オカモノアラガイ 19 点
ユウレイイカ 1 点
ユメノヒタチオビ 2 点

[甲殻類] 合計 143 点

オーストンガニ属の一種 1 点
インドヘイケガニほか 11 点
マツバガニ 1 点
イワオウギガニ 2 点
タイワンガザミ 1 点
イソクズガニほか 3 点
ヤククィノティア属の一種 1 点
ノコギリガザミ 1 点
アケウス 1 点
シャコ 2 点
オオヒラアシクモガニほか 5 点
ミナミスナガニ 1 点
タイワンガザミ 1 点
イソガニほか 43 点
ベンケイガニ 7 点
タイワンガザミ 1 点
エンコウガニほか 12 点
ヘパトウス・エペリティクス 1 点
イソクズガニほか 27 点 (長島高校生)
ヒラアシエゾイバラガニ 2 点 (鳥羽水族館)
チチュウカイミドリガニ 4 点
イボイチョウガニほか 4 点
オオグソクムシ 1 点
オニノツノガニほか 10 点

[維管束] 合計 4,981 点

アキイトスゲ 1 点 Iso-type 標本
ミセンアオスゲ 1 点 Iso-type 標本
ビンゴヌカスゲ 1 点 Iso-type 標本
ナガバアメリカミコシガヤほか 2 点
ヤマアイ 1 点
ハリグワ 1 点
イワオモダカほか 10 点

イワヘゴほか 1,046 点
 イワデンダ科の 1 種 1 点
 シナノタイゲキ 1 点
 カワツルモほか 6 点
 ニシミゾソバ 1 点 Iso-type 標本
 コミゾソバ 1 点 Iso-type 標本
 シオクグ 1 点
 ノチドメ 1 点
 モミジチャルメルソウほか 37 点
 キランジソほか 530 点
 エゾホソイほか 893 点
 イブキゼリモドキほか 9 点
 ムジナスゲほか 5 点
 エゾムラサキニガナほか 192 点
 マスクサほか 2 点
 アサガオガラクサほか 14 点
 ツクシカンガレイ 1 点 Iso-type 標本
 ヤマナシ 1 点
 ヤマキタダケほか 13 点
 アメリカブナ 4 点
 アイダクグほか 41 点
 イワカガミほか 5 点
 アオホラゴケほか 378 点
 カヤツリスゲほか 2 点
 サツマスゲほか 3 点
 サコスゲ 1 点
 マツバゼリ 1 点
 アイナエ 2 点
 オオセキシウモほか 4 点
 オオフサモ 1 点
 アカザほか 12 点
 ホソミアダン 1 点
 クゲヌマラン 1 点
 ウスイロオクノカンスゲ 1 点 Iso-type 標本
 コウヤハリスゲ 1 点 Iso-type 標本
 サトヤマハリスゲ 1 点 Iso-type 標本
 マメスゲ 1 点
 ナルコスゲほか 6 点
 ツレサギソウ 1 点
 ヒラナス 1 点 (西沢今朝道)
 トゲナシイチゴほか 2 点
 イチリンソウほか 2 点
 クマヤナギ 2 点
 アオフタバランほか 4 点
 ウシオスゲ 1 点
 タカネトウチソウほか 93 点
 イタチガヤほか 23 点
 タイワントリアシほか 129 点
 イノモトソウほか 24 点
 オオトキワシダほか 96 点
 ヌマツルギクほか 36 点

イヌアワほか 13 点
 アオスゲほか 8 点
 ビッチュウヒカゲスゲ 1 点 Iso-type 標本
 ホザキマスキサ 1 点 Iso-type 標本
 オオホタルサイコほか 43 点
 キンランほか 2 点
 キキョウほか 3 点
 イブキジャコウソウほか 5 点
 アジサイほか 2 点
 オオササガヤ 1 点
 エダウチネズミムギ 2 点
 サンショウバラほか 37 点
 イナトウヒレン 12 点
 カナダコウガイゼキショウ 2 点
 ミツバウツギほか 2 点
 ヒロハヤマヨモギ 1 点
 チャボノカタビラほか 2 点
 コガネネコノメソウ 1 点
Microstylis kotoensis ほか 3 点
 チチブシラスゲ 1 点
 シオガマギク 1 点
 ハンカチノキ 1 点
 チチブシラスゲ 1 点
 チチブシラスゲ 1 点
 チチブシラスゲ 1 点
 ホシケチドメグサ 2 点
 カワラマツバほか 171 点
 カントウカンアオイほか 35 点
 カエデドコロほか 119 点
 アゼガヤツリほか 164 点
 アカメヤナギほか 23 点
 エゾノコウボウムギ 1 点
 シラネワラビほか 4 点
 カントウミヤマカタバミほか 3 点
 ヒロハウラジロヨモギほか 5 点
 ヒヨドリバナほか 125 点
Dendrobium longicalcaratum 1 点
 ホソバヒカゲスゲほか 9 点
 クロヤツシロランほか 5 点
 ツルウメモドキほか 3 点
 ヨメナほか 6 点
 ムラサキシキブ 1 点
 イヌビワほか 19 点
 イタビカズラほか 4 点
 モエギスゲほか 47 点
 スダジイ 1 点
Carex hirsutella 1 点
 オオカグマほか 298 点
 ニシノホンモンジスゲほか 12 点
 ハママツナ 1 点
 マメヅタラン属の 1 種 1 点

ハウザンスゲ 1 点
ヒサカキほか 2 点
シンジュガヤ 1 点
ムベ 1 点

[菌類・地衣類] 合計 1,856 点

アスココリネ・サルコイデス 1 点
オロシタケほか 2 点
アイゾメクロイグチほか 3 点
ツルボのクロボ病菌ほか 2 点
Hypomyces melanocarpus 1 点
ビロードツエタケほか 2 点
ムラサキナギナタタケほか 23 点
ビロードクリイロイグチほか 2 点
ハイイロイタチタケほか 13 点
Asteroconium saccardoi 1 点
オオムラサキホコリほか 2 点
ミドリニガイグチほか 35 点
モミジウロコタケほか 2 点
スエヒロタケ 1 点
アイコウヤクタケほか 12 点
シイタケ 1 点
ニセニクハリタケほか 2 点
ウチワタケ 1 点
Nectriopsis 属 1 点
ミヤマトンビマイ属 1 点
キヒラタケほか 2 点
リティディステリウム属ほか 30 点
ムラサキホコリ属ほか 2 点
アナアキカタホコリほか 34 点
マンネンタケほか 3 点
カンバタケ 1 点
ユキヤナギ・ウドンコ病菌ほか 2 点
ハウキタケ属 3 点
ハウキタケ属ほか 4 点
アカダマタケほか 2 点
ハナガサタケほか 12 点
エクソフィアラ・カリキオイデスほか 5 点
カレエダタケほか 4 点
サガリハリタケほか 2 点
フユイチゴのサビ病菌ほか 4 点
コツブタケほか 2 点
ムラサキヤマンバほか 2 点
アミヒラタケ近縁種 1 点
カンバタケ 1 点
グロムス属ほか 4 点
アラゲキクラゲほか 18 点
ニセキンカクアカビヨウタケ 1 点
ハタケシメジほか 2 点
ニオイコベニタケ 1 点
ボーベリア属 1 点

ワサビカレバタケほか 8 点
ニレサルノコシカケ 1 点
フルイタケ 1 点
メダケの赤衣病菌 1 点
フウセンタケ属ほか 4 点
コロノフォラ属ほか 3 点
コツブタケ 1 点
ヒメワカフサタケほか 4 点 (フサタケ 1 点
キラボシカタホコリ 1 点
オシアイフクロホコリ) ほか 3 点
アオモジホコリほか 132 点
アセタケほか 4 点
カエンタケ 1 点
クレオプス属 1 点
ヒボミクス・トレメリコラ 1 点
オオトガリコゲチャフクセンタケ 1 点
イネの稲麴病菌 1 点
Sepedonium chlorinum 1 点
コウツボホコリ 1 点
ヒステリウム属ほか 3 点
スゲのサビ病菌ほか 2 点
イボセイヨウショウロ? 1 点
ワヒダタケほか 9 点
クロラッパタケ 1 点
パルコエマンシア・コロナンティスポラほか 5 点
ラミカンデラバー・ブレビスボルス 1 点
チャワンタケ属 1 点
カエンタケ 1 点
ミヤマザラミノヒトヨタケほか 49 点
キヒダサカズキタケ 1 点
ベニチャワンタケほか 4 点
ウラベニヤマイグチ 1 点
オオミヤマトンビマイほか 2 点
ギグナルディア属? 1 点
アミスギタケ 1 点
デマチウム科ほか 2 点
シロウツボホコリ 1 点
ヒメスギタケ属 1 点
マメザヤタケ 1 点
オオシロアリタケほか 102 点
ヒビワレニガイグチほか 2 点
シロエノカタホコリ 1 点
ツキヨタケほか 2 点
ハエカビ属? 1 点
クロキのモチ病菌ほか 5 点
コレトリウム・フシエンジェンチャングほか 2 点
ファネロカエテ属ほか 2 点
ウロコキイロイグチほか 3 点
オオゴムタケほか 6 点
エダウチホコリタケモドキ 1 点

キヒダタケほか 2 点
Elaphomyces mutabilis ほか 2 点
 オオムラサキホコリほか 3 点
 コフキクロチャワンタケほか 13 点
 マンネンタケ 1 点
Hypomyces chlorinigenus 1 点
 トンビマイタケ 1 点
 ハルペラ・メルシナエほか 11 点
Corynespora cassiicola 1 点
 ホコリタケほか 7 点
 フジウスタケ 1 点
 サツマイモのウドンコ病菌ほか 2 点
 バッカクキン属 1 点
 カヤタケ属 1 点
 ニセチャアナタケモドキ(仮称) 1 点
 マルミノチャヒラタケほか 5 点
 クダホコリ属 1 点
 コスモスの白斑病菌 1 点
Penicillium 属 1 点
 コガネタケほか 3 点
 ハナビラタケ 1 点
 ヒポミケスキ属 1 点
 シロソウメンタケ属 1 点
Cordyceps 属 1 点
 キホウシホウキタケほか 5 点
 ホウキタケ属ほか 3 点
 フシアミホコリほか 28 点
 アワホネホコリほか 36 点
 タチフンホコリほか 2 点
 シロウツボホコリほか 2 点
 タチフンホコリ 1 点
 セイヨウショウロ属 1 点
 ミネシメジほか 25 点
 フサヒメホウキタケ属 1 点
 ヌナワタケほか 3 点
 コガネタケ 1 点
 メラノブシキウム・オヌマエ／ヤブニッケイ黒穂病菌ほか
 2 点
 マメホコリ 1 点
 ムジナタケほか 4 点
 シロススホコリ 1 点
 ナメコ 1 点
 トガリアミガサタケ 1 点
 ニッケイタケほか 3 点
 クチベニタケほか 7 点
 クチキトサカタケほか 6 点
 ヘビヌカホコリ 1 点
 ニセニクハリタケほか 3 点
 ケショウハツ 1 点
 キッコウアワタケほか 5 点
 アオモジホコリほか 23 点
 アカモジホコリ 1 点
 パエキロミクス属 1 点
 サルオガセ属ほか 3 点
 ヒメスギタケ属ほか 2 点
 ホウキタケ属 1 点
 ヒドロブス属 1 点
 ミズタマカビの胞子のう 1 点
 アケボノアワタケほか 18 点
 ベニソウメンタケ 1 点
 ムラサキホコリ属 1 点
Metarhizium 属 1 点
Cribrallia argillacea ほか 40 点
 アカヤマドリほか 2 点
 バージニアムラサキホコリほか 2 点
 デンドロテレ属ほか 2 点
 モディケラ・マレオラ 1 点
Hypomyces laeticolor ほか 35 点
 ウラベニガサ属 1 点
 ヒラタケ 1 点
 アクロスペルマム属 1 点
 チョウチンホコリ 1 点
 ユキラッパタケほか 65 点
 サンゴハリタケほか 4 点
 ホウキタケ属ほか 19 点
 ヒトヨタケ属 1 点
 センニンソウのサビ病菌 1 点
 ノボリリュウタケ属 1 点
 ニクウチワタケ 1 点
 ササクレヒトヨタケほか 2 点
 ヒトクチャタケ 1 点
 フウセンホコリ属ほか 2 点
 ビロードクリイロイグチほか 11 点
 ケショウハツ 1 点
 ナガエノチャワンタケ 1 点
Herpomyces 属 2 点
 ツガサルノコシカケほか 42 点
 デングノムギメシ 1 点
 コブリマメザヤタケほか 4 点
 スジチャダイゴケ 1 点
 ニッケイタケ 1 点
 ミヤマチャウロコタケほか 12 点
 ウスムラサキホウキタケほか 4 点
 シトネタケ属 1 点
 ウラムラサキシメジ 1 点
 キンルリホコリ 1 点
 ジクホコリ 1 点
 ノウタケ属 1 点
 ジクホコリ 1 点
 ツクツクボウシタケほか 3 点
 アオキ・ウドンコ病菌ほか 43 点
 タコウキン科 1 点

シロキクラゲ属 1 点
ヒメヒトヨタケほか 3 点
スギタケ属 1 点
ムラサキヤマンバ 1 点
ジャガイモタケほか 3 点
モミジウロコタケほか 2 点
アイコウヤクタケほか 25 点
ナデシコのサビ病菌ほか 3 点
ヌメリハツほか 5 点
ドクツルタケ 1 点
ツクシクボウシタケほか 3 点
ツバキキンカクチャワಂತケ 1 点
コウジカビ属ほか 2 点
ホコリタケ属 1 点
コマメホコリ 1 点
スナジクズタケほか 2 点
Claviceps 属 1 点
ムラサキヤマンバ 1 点
アオモジホコリほか 27 点
ニセキンカクアカビョウタケ 1 点
アシボソノボリリュウほか 144 点
ススホコリほか 2 点
ホウキタケ属 1 点
タコウキン科 1 点
クロアシボソノボリリュウタケほか 5 点
核菌類 1 点
アオキのスス病ほか 90 点
フサタケほか 14 点
コショウイグチ 1 点
ヒラフスベ 1 点
ジャガイモタケ 1 点
クロサイワイタケ属 1 点
ハタケシメジほか 6 点
オオワライタケほか 2 点
Rosellinia 属ほか 23 点
フミヅキタケ属 2 点
シロウツボホコリほか 2 点
モンパキン属 1 点
マゴジャクシほか 8 点
仙人杖 1 点
ヤブソテツのスス病菌 1 点
ラカンバルフクロホコリほか 10 点
仙人杖 1 点
キハダのサビ病菌ほか 25 点
マユハキタケ 1 点
コナサナギタケ 1 点
クチキツトノミタケ 1 点
ヒラフスベ? 1 点
オオイヌノフグリ球のう菌 1 点
メラノグラフィウム・ファスキクラータム 1 点
Pistillaria 属 1 点

カキノミタケほか 8 点
ウメ変葉病 1 点
オサムシタケほか 2 点
コガサタケ属ほか 3 点
ツガサルノコシカケほか 2 点
ツバキキンカクチャワಂತケ 1 点
ニセキンカクアカビョウタケほか 6 点
ウスキテングタケ 1 点
アミガサタケ 1 点
キヒダフウセンタケ 1 点
ユキラッパタケほか 45 点
ミクロチリウム属 1 点
ナヨタケ属 1 点
ヒロメノトガリアミガサタケほか 15 点
チャヒラタケ属 1 点
Cordyceps 属 1 点
ウチワタケほか 5 点
シジゴスポラ属 1 点
バツカクキン属 1 点
Hypomyces melanocarpus ほか 2 点
ヒボミクス・ヒアリヌス 1 点
ニッケイのクロボ病菌 1 点
ブクリョウ 1 点
ヒメサジタケほか 2 点
テリエカタホコリほか 2 点
アスナロのサビ病菌 1 点
クロタマゴテングタケほか 12 点
コレトリウム・フシエンジェンチャング 仙人杖 1 点
ツバナシマツオウジほか 2 点
ガマグチフクロホコリ 1 点
タブノキキハダカビ 1 点
テングタケ属 1 点
ハタケチャダイゴケ 1 点
コフキサルノコシカケ 1 点
ホウキタケ属ほか 2 点
キッコウアワタケ 1 点
キチャハツほか 5 点
アセタケ属ほか 2 点
クロコブタケほか 5 点
ニセキンカクアカビョウタケ 1 点
ツツジ類モチ病菌ほか 3 点
スジオチバタケ 1 点
ヒラタケ属 1 点
ホウキタケ属ほか 12 点
ジャガイモタケ 1 点
フィラコラ属ほか 3 点
ウラムラサキシメジ 1 点
エオクロナルティウム・ムスキコラ 1 点
ウツロイモタケ 1 点
ツツジのモチ病菌ほか 3 点
オニフスベ 1 点

仙人杖ほか 2 点
 オドタケ 1 点
 ニオイオオタシメジ 1 点
 タマキクラゲ 1 点
 ニオウシメジ 1 点
 マツカサモドキ垂種 1 点
 アラゲキクラゲほか 3 点
 ヒメカバイロタケほか 4 点
 ヒボミケスキン属 1 点
 ウツボホコリほか 6 点
 マコモのクロボ病菌ほか 2 点
 カワラタケ 1 点
 サケツバタケほか 4 点
 ヒラタケほか 2 点
 ニセキンカクアカビョウタケ 1 点
 ベニタケ属 1 点
 ウツボホコリ 1 点
 カタツブタケ属ほか 2 点

[化石] 合計 30 点
 ポリアクロダス 1 点
 三葉虫の這い跡の一種 (クルジアナ・セミプリカータ) ほか 2 点
 ナウマンゾウ臼歯レプリカ 1 点 (神奈川県立鶴見高等学校)
 レピドシクリナの一種ほか 25 点
 北海道産アンモナイト 1 点

4.1.4. 採集その他による資料 (新たに登録されたもの)

分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数
哺乳類	63	甲殻類	88	菌類・地衣類	11,318	鉱物	
鳥類	64	甲殻類細密画	48	藻類		地質・ボーリング	
魚類	156	両生・爬虫類	644	植物その他		衛星画像	36
魚類写真	1,019	動物その他		植生		衛星処理画像	
昆虫		維管束植物	448	化石	1,301	景観画像	
軟体動物	4,473	コケ		岩石	2,266		
合計						21,924	

4.1.5. 既存資料の加工

[哺乳類]

ツチクジラ骨格 (前肢) 1 組
 アカネズミ 本剥製 1 点
 ヤマネ 本剥製 1 点

[鳥類]

トラフズク 本剥製 1 点
 オオコノハズク 本剥製 1 点

ヒガラ 本剥製 1 点
 コガラ 本剥製 1 点
 ベニマシコ 本剥製 1 点
 キビタキ 本剥製 1 点
 ホオアカ 本剥製 1 点

4.2. 図書資料収集状況

2009 年度受入した和書の冊数は、購入が 22 冊、寄贈が 445 冊、編入が 2 冊、管理換が 14 冊であった。洋書については、購入が 2 冊、寄贈が 46 冊であった。受入図書の合計は 531 冊である。そのほか CD-ROM の寄贈が 11 タイトルであった。

2009 年度受入図書(冊)					
	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	22	445	2	14	483
洋書	2	46	0	0	48
合計	24	491	2	14	531

2010 年 3 月 31 日現在の所蔵資料総数は右表のとおりである。

分野	登録数
国内刊行図書	15,875 (冊)
国外刊行図書	3,259 (冊)
購入国内雑誌	9 (タイトル)
購入国外雑誌	13 (タイトル)
寄贈国内雑誌	2,713 (タイトル)
寄贈国外雑誌	564 (タイトル)
ビデオソフト	332 (巻)
CD-ROM	29 (タイトル)
マイクロフィルム	34 (リール)
合計	22,828 (点)

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 資料特別利用

博物館資料について、学術上の研究のため特に利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料利用を提供している。特別利用を受ける際は、特別利用承認申請書を提出し、承認を受け、博物館の資料を閲覧、計測、撮影、

掲載などの利用が可能である。

2009 年度について、特別利用の利用数は次のとおりである。

分野別の特別利用の件数

利用の「その他」には、学術発表利用（たとえば、学会等発表、論文発表での画像掲載等）を含めた。標本：実物標本等、画像：フィルム、プリントなどの画像、デジタル画像：デジタルカメラ等によるデジタル画像、属性データ：標本情報。

種別			利用	閲覧		撮影		解析		その他		合計	
				件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	1	30	2	52	1	6	1	2	5	90	
		画像											
	鳥類	標本							1	4	1	4	
		画像											
	両生・爬虫類	標本											
		画像											
	魚類	標本	2	28			20	6,961			22	6,989	
		画像											
		デジタル画像					5	46			5	46	
	昆虫	属性データ					4	3,520			4	3,520	
標本													
画像				1	6					1	6		
軟体動物・甲殻類・動物その他		標本	1	12	1	12					2	24	
	画像												
	デジタル画像												
植物		標本	3	33							3	33	
		画像			1	8					1	8	
		属性データ	1	1,568							1	1,568	
古生物		標本	1	6	3	7	1	1	1	1	6	15	
		画像											
		デジタル画像							2	2	2	2	
地球環境		標本	1	200							1	200	
		画像											
		デジタル画像											
計			10	1,877	8	85	31	10,534	5	9	54	12,505	

4.3.2. 資料館外貸出

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を提供している。資料の貸出しを受ける際は、館外貸出承認申請書を提出し、承認を受け、博物館資料を借用利用す

ることができる。主な利用は、展示、掲載・放映などである。

2009 年度について、館外貸出しの利用数は次のとおりである。

分野別の館外貸出の件数

標本：実物標本等、画像：フィルム、プリントなどの画像、デジタル画像：デジタルカメラ等によるデジタル画像、属性データ：標本情報、その他資料：展示造作物、教材キット等。

種別			利用		展示		教材		掲載・放映		その他		合計	
					件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
動物	哺乳類	標本			7	35			3	4				49
		画像												
	鳥類	標本												
		画像												
	両生・爬虫類	標本												
		画像												
	魚類	標本			4	20							4	20
		画像			3	158							3	158
		デジタル画像			8	60							8	60
		属性データ							1	465	1	5	2	470
		その他資料			1	3							1	3
	昆虫	標本												0
		画像												0
	軟体動物・甲殻類・動物その他	標本			1	4							1	4
		画像												0
		デジタル画像												0
植物		標本									1	5	1	5
		画像											0	0
		その他資料			3	8							3	8
古生物		標本			8	517							8	517
		画像			1	1							1	1
		デジタル画像			1	18			2	9			3	27
		その他資料			1	1	1	1	2	8			4	10
地球環境		標本			5	40							5	40
		画像			10	25			2	2			12	27
		デジタル画像			1	1			8	9			9	10
		その他資料							2	12			2	12
博物館		デジタル画像							1	6			1	6
合計					54	891	1	1	21	515	2	10	68	1,417

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために、収蔵庫に対して燻蒸を実施した。

〔期間〕 2009 年 6 月 15 (月) ～ 19 日 (金)

〔実施場所〕 収蔵庫 (動物・植物・古生物・地球環境標本)・

〔内容〕 殺虫、殺卵、殺菌を目的とする密閉燻蒸

昆虫標本製作室

〔使用薬剤〕 アルブ (酸化プロピレン・アルゴン混合ガス)

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質をいかした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れたり支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、市民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかわりに実施された講演会等の行事について、以下に記した。

自然科学講演会（博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	所属	定員	応募者数	受講数
「洞の生きものから人々の歴史が見える」	8/2（日）	講義室	一般	永幡嘉之	昆虫写真家	なし	45	45
ミュージズ・フェスタ 2010 シンポジウム 「本当は怖いアメリカザリガニ」 「アメリカザリガニの 在来生態系被害の概論」 「アメリカザリガニが希少水生昆虫に 与える影響とその対策」 「中池見湿地における アメリカザリガニ被害」 「磐田市桶ヶ谷沼における アメリカザリガニの大発生とその影響」 「珠洲市における緊急雇用創出事業を 活用したザリガニ駆除」 「川崎市麻生区はるひ野・黒川地域 における駆除事例」 「川崎市多摩区生田における駆除事例」 「小田原市桑原における駆除事例」	3/13（土）	ミュージアム シアター	一般	苅部治紀 西原昇吾 笹木智恵子 福井順治 佐南谷信龍 鉢嶺亮子 岩田臣生 高橋由季	当館学芸員 東京大学 NPO法人 ウエットランド中池見 静岡県磐田南高校 石川県自然保護課 はるひ野里山学校・ 水辺のある里山を守る会 川崎自然調査団 小田原のメダカの会	なし	80	80
計								175

他の機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等）

講座名	実施日	実施場所	講師	所属	受講数
博物館友の会総会 「フィールドワークの達人」	4/5（日）	ミュージアムシアター	勝山輝男 瀬能 宏 田口公則 高桑正敏 大島光春 広谷浩子	当館企画普及課長 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員 当館学芸員	75

（次ページへ続く）

(前ページから続く)

火山防災シンポジウム ーあすの火山防災を考えるー 第一部 「箱根火山防災はどう変わったー噴火 防災警戒レベル導入を通してー」 「箱根火山の噴火の歴史と構造」 「最近の箱根火山の活動」 「噴火警戒レベル」 「箱根町の防災対策（レベル対応）」 「神奈川県火山防災対策」 第二部 「大規模噴火時における広域火山防 災のあり方」 「北海道駒ヶ岳」 「桜島」 「大規模噴火防災とは何か」	10/9(金)	ミュージアムシアター	萬年一剛 棚田俊收 石垣祐三 勝俣 敏 杉原英和 吉本充宏 石原和弘 荒牧重雄	神奈川県温泉地学研究所主任研究員 神奈川県温泉地学研究所主任研究員 横浜地方気象台火山防災官 箱根町防災対策課長 神奈川県温泉地学研究所企画調整担当部長 北海道大学理学部助教 京都大学防災研究所教授・ 日本火山学会会長 東京大学名誉教授・ 山梨県環境科学研究所長	200
火山学会秋季大会開催記念講演会 「火山と私たちの暮らし」 「火山はなぜ噴火するのか」 「実験で体験する火山噴火」 「箱根火山はどのようにしてできたか、 そしてこれからどうなるか」 「わかってきた箱根カルデラ」	10/12(月)	ミュージアムシアター	寅丸敦志 笠間友博 高橋正樹 萬年一剛	九州大学大学院理学研究院教授 当館学芸員 日本大学文理学部教授 神奈川県温泉地学研究所主任研究員	83
魚の会 講演会 「ウナギの謎はどこまで解けたか？ ーその回遊と産卵ー」	11/8(日)	講義室	塚本勝巳	東京大学海洋研究所教授	27
第6回 公開講演会 「地層はどうやって地球の 歴史を語るのか」 「生命の誕生・進化と 地質活動をつなぐ水素」	2/28(日)	ミュージアムシアター	石浜佐栄子 鈴木勝彦	当館学芸員 海洋研究開発機構 地球内部ダイナミクス領域	60
計					445

5.1.2. 講座等

子ども自然科学ひろば（土・日曜日に開催する小中学生向け観察会 要事前申し込み）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
春の野山の草花を観る [野外観察]	4/18(土)	舞岡ふるさと村 横浜市戸塚区	小中学生と保護者 学生も可	田中徳久 勝山輝男	40	34	25
境川遊水地化石ウォッチング [野外観察と室内実習]	4/25(土) 4/26(日)	県立境川遊水地公園 実習実験室	小中学生と保護者 教員	田口公則 大島光春 樽 創	30	70	24 24
磯の生きものウォッチング [野外観察]	5/10(日) 9/6(日)	三ツ石海岸 真鶴町	小学生と保護者	佐藤武宏 田中徳久 加藤ゆき	40	157 95	48 39
海辺の野鳥観察会 [野外観察]	5/17(日)	照ヶ崎海岸 大磯町	小中学生と保護者	加藤ゆき 広谷浩子	20	35	雨天 中止
初夏の昆虫を探してみよう [野外観察]	5/30(土)	秦野市名古木	小学4年生～大人	高桑正敏 荻部治紀	25	37	雨天 中止
砂のひみつをさぐる [室内実習]	6/6(土)	実習実験室	小学4年生～中学生	石浜佐栄子 山下浩之	12	24	10
樹洞探検隊 ～①昆虫を探せ～ [野外観察]	7/25(土)	箱根町	小中学生と保護者	荻部治紀 高桑正敏	20	142	22
樹洞探検隊 ～②動物を探せ～ [野外観察]	8/29(土)	博物館周辺	小～高校生と保護者	加藤ゆき 広谷浩子	20	229	15
展示室の岩石をさぐる [室内実習]	9/5(土)	展示室・実習実験室	小～高校生	山下浩之	20	21	19
水辺の生き物観察会 [野外観察]	9/27(日)	南足柄市	小中学生と保護者	荻部治紀 瀬能 宏	20	88	20
樹洞探検隊 ～③樹洞を探せ～ [野外観察]	10/18(日)	博物館周辺	小中学生と保護者	勝山輝男 広谷浩子	20	56	15
菌類観察会 ～キノコや変形菌、カビを探そう～ [野外観察]	10/24(土)		小～高校生と保護者	勝山輝男 大坪 奏 田中徳久	30	56	28

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

樹洞にすむ動物の生活と体 [講義と室内実習]	10/31(土) 11/ 1(日)	実習実験室 大型標本製作室	小学4年生～中学生	広谷浩子 加藤ゆき 樽 創	15	3	6 6
川と海の小石の観察会 [野外観察]	11/ 3(火・祝)	新松田の酒匂川河原 国府津海岸	小学4年生～中学生 とその保護者	平田大二 山下浩之 石浜佐栄子	30	24	12
動物ウォッチング ～絶滅の恐れのある動物たちを観察 しよう～[講義と室内実習]	11/ 7(土) 8(日)	実習実験室 横浜動物園ズーラシア	小中学生と保護者	広谷浩子 加藤ゆき	20	11	7 8
アンモナイトの壁を調べよう [室内実習]	11/21(土)	講義室・展示室	小学4年生～6年生 とその保護者・教員	田口公則	12	11	7
骨のかたちを比べよう ～こども編～[室内実習]	12/19(土)	実習実験室	小学4年生～6年生 とその保護者	大島光春	12	12	11
いん石をさぐる [室内実習]	1/31(日)	実習実験室	小学4年生～高校生 とその保護者	笠間友博 石浜佐栄子	30	23	17
計 18 講座	延べ 22 日				416	1,128	363

夏休みに行った子ども向け講座(要事前申し込み)

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募者数	受講数
貝がらのふしぎを調べよう ～ホタテの巻～[室内実習]	7/19(日)	実習実験室	小学4年生～大人	田口公則	12	23	12
樹洞探検隊 ～昆虫を探せ!～ [野外観察]	7/25(土)	箱根町	小中学生と保護者	高桑正敏 荻部治紀	20	108	22
貝がらのふしぎを調べよう ～アワビの巻～[室内実習]	7/26(日)	当館実習実験室	小学4年生～大人	田口公則 佐藤武宏	12	20	6
貝がらのふしぎを調べよう ～アサリの巻～[室内実習]	8/ 2(日)	当館実習実験室	小学4年生～大人	佐藤武宏	12	18	13 13
貝がらのふしぎを調べよう ～サザエの巻～[室内実習]	8/ 9(日)	当館実習実験室	小学4年生～大人	佐藤武宏	12	17	
私たちの祖先はだれ? [室内実習]	8/20(木) 8/21(金)	当館実習実験室	小学4年生～中学生	広谷浩子	20	20 13	16 11
ミニ火山を作ろう [室内実習]	8/25(火) 8/26(水) 8/27(木)	当館実習実験室	2～6人までの家族 などのグループ 各回10組	笠間友博	10組	209 147 170	31 29 24
樹洞探検隊 ～動物を探せ!～ [野外観察]	8/29(土)	秦野市 白山神社	小学生～高校生と 保護者	広谷浩子 加藤ゆき	20	229	15
計8講座	延べ11日			計	108+30組	974	192

研究テクニック講座(専門的な内容の講座 要事前申し込み)

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
カヤツリグサ科スゲ属植物の分類 [講義と室内実習]	4/29(水・祝)	実習実験室	高校生～大人	勝山輝男	30	35	34
めざせ! 昆虫博士 [講義と室内実習] [講義と室内実習] [野外観察] [講義と室内実習]	5/ 5(火・祝) 6/ 6(土) 6/ 7(日) 8/ 8(土)	実習実験室 実習実験室 秦野市弘法山 実習実験室	小学4年生～大人	高桑正敏 荻部治紀	15	33	28 23 30 23
博物館対岸の地層レプリカ展示 および解説	5/10(日)	博物館テラス	どなたでも 当日申込み	笠間友博 平田大二	なし	117	117
骨のかたちを比べよう ～大人編～[講義と室内実習]	5/24(日)	実習実験室	中学生～大人	大島光春	12	8	8
先生のための地層と化石入門 2009 [野外観察と室内実習]	7/30(木) 7/31(金) 8/ 1(土)	実習実験室 県立境川遊水地公園 実習実験室	教員・一般	田口公則 大島光春	12	8	6 6 7
標本活用講座 ～先生のための哺乳類学入門～	8/ 4(火) 8/ 5(水)	実習実験室	教員	広谷浩子	10	5	5 5
あなたのパソコンで地形を見る [室内実習]	8/11(火)	実習実験室	教員・一般	新井田秀一	20	21	20
ダイバーのための魚類学講座 [室内実習]	12/ 6(日) 12/13(日) 1/17(日) 1/24(日) 2/14(日) 2/21(日)	実習実験室	中学生～大人	瀬能 宏	10	12 中止 7	5 5 中止 中止 7 7
計8講座	延べ19日			計	109	246	336

身近な自然発見講座（対象を限定しない博物館周辺での野外観察の講座 定員なし・当日申し込み）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	受講者数
身近な自然発見講座	4/ 8 (水)	博物館周辺	どなたでも	高桑正敏 田中徳久 新井一政	なし	22
	5/13(水)			勝山輝男 笠間友博 新井一政		12
	6/10 (水)			高桑正敏 加藤ゆき 新井一政		19
	10/14 (水)			高桑正敏 新井一政		8
	11/11 (水)			田中徳久 新井一政		雨天中止
	12/ 9 (水)			勝山輝男 広谷浩子 新井一政		9
計6講座	延べ6日	計				70

神奈川の自然を観察する講座（一般の方を対象とした県内の自然観察ポイントの探訪 要事前申し込み）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
春の地形地質観察会 [野外観察]	5/ 3 (日・祝)	大磯丘陵 小田原市国府津	小学 4 年生～大人	石浜佐栄子 平田大二 笠間友博	40	78	39
晩秋の地形地質観察会 [野外観察]	12/ 5 (土)	中川大滝沢～ 中川温泉 山北町	小学 4 年生～大人	山下浩之 笠間友博 平田大二	40	47	27
冬の樹木ウォッチング [野外観察]	12/13 (日)	池峰 湯河原町	小学 4 年生～大人	勝山輝男 田中徳久	20	30	25
早春の地形地質観察会 [野外観察]	3/ 7 (日)	生田緑地周辺 川崎市多摩区	小学 4 年生～大人	笠間友博	40	64	雨天中止
計4講座	延べ4日			計	140	219	91

館長と話そう（当日受付）

講座名	実施日		実施場所	対象者	講 師	定員	応募組数	参加者数	子どもの数
館長と話そう	第1回	7/25 (土)	エントランスホール	小中学生と保護者	斎藤靖二	各回 6 組	6	15	7
	第2回	8/ 1 (土)					6	14	8
	第3回	8/ 8 (土)					6	15	9
	第4回	8/15 (土)					6	21	11
	第5回	8/22 (土)					6	18	9
	第6回	8/29 (土)					4	11	6
計 1 講座	延べ 6 日		計				34	94	50

県立機関活用講座（一般の方を対象とした有料講座 要事前申し込み）

講座名・講義題目		実施日	実施場所	対象者	講師	講師所属	定員	応募数	受講数
フィールドワーク 入門 [室内講義と 野外観察]	宇宙から見た 神奈川のフィールド	9/19 (土)	講義室	高校生以上	新井田秀一	当館主任学芸員	50	24	19
	フィールドワーク 海岸編	10/ 4 (日)	真鶴町 三ツ石海岸周辺		渡部 孟 勝山輝男 佐藤武宏	真鶴町 海の学校 当館企画普及課長 当館主任学芸員			15
	フィールドワーク 山編	10/10(土)	秦野市 渋沢丘陵周辺		高桑正敏 勝山輝男 佐藤武宏 加藤ゆき	当館学芸員 当館企画普及課長 当館主任学芸員 当館学芸員			16
	フィールドワーク 川編	10/31(土)	山北町 谷峨周辺		飯島俊幸 田口公則 大島光春 石浜佐栄子 山下浩之	あしがらNST研究会 当館主任学芸員 当館主任学芸員 当館学芸員 当館主任学芸員			17
	フィールドワークの 楽しみ	11/ 7(土)	講義室		浜口哲一	神奈川大学教授			18
	計 5 講座 20時間	延べ5日			参加者延べ人数			85	
参加者数					20				
修了者数					16				

5.1.3. 子ども自然科学ひろば

本事業は、文部科学省の「子ども居場所づくり新プラン」の一環として整備された、「全国科学系博物館における地域子ども教室推進事業」を館独自に引き継いだもので、子どもたちが自然について学習でき、自然への好奇心と理解を深め、自然について考える力をつける場を設置するもの

である。

今年度は身近なところから自然に興味を持ってもらうために、学習指導員によって11回の「折り紙ひろば」が行われた。多くの子供たちが参加し、恐竜や動物の折り紙に興じていた。

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
春の野山の草花を観る [野外観察]	4/18(土)	舞岡ふるさと村 横浜市戸塚区	小中学生と保護者 学生も可	田中徳久 勝山輝男	40	34	25
境川遊水地化石ウォッチング [野外観察と室内実習]	4/25(土)	県立境川遊水地公園	小中学生と保護者教員	田口公則 大島光春 樽 創	30	70	24
	4/26(日)	実習実験室					24
磯の生きものウォッチング [野外観察]	5/10(日)	三ッ石海岸 真鶴町	小学生と保護者	佐藤武宏 田中徳久 加藤ゆき	40	157	48
	9/6(日)					95	39
海辺の野鳥観察会 [野外観察]	5/17(日)	照ヶ崎海岸 大磯町	小中学生と保護者	加藤ゆき 広谷浩子	20	35	雨天中止
初夏の昆虫を探してみよう [野外観察]	5/30(土)	秦野市名古木	小学4年生～大人	高桑正敏 荻部治紀	25	37	雨天中止
砂のひみつをさぐる [室内実習]	6/6(土)	実習実験室	小学4年生～中学生	石浜佐栄子 山下浩之	12	24	10
樹洞探検隊 ～①昆虫を探せ～ [野外観察]	7/25(土)	箱根周辺	小中学生と保護者	荻部治紀 高桑正敏	20	142	22
※「いろいろ体験」[室内実習]	8/8(土)	実習実験室	子供とその保護者	友の会講師			29
※「要定川の魚と水生昆虫観察会」 [野外観察]	8/8(土)	小田原市要定川	子供から大人まで	瀬能 宏 荻部治紀		30	29
※「バックヤード探検隊」[室内実習]	8/9(日)	バックヤード	小学生以上	大島光春	10	8	8
樹洞探検隊 ～②動物を探せ～ [野外観察]	8/29(土)	秦野市 白山神社	小～高校生と保護者	加藤ゆき 広谷浩子	20	229	15
展示室の岩石をさぐる[室内実習]	9/5(土)	展示室・実習実験室	小～高校生	山下浩之	20	21	19
水辺の生き物観察会 [野外観察]	9/27(日)	・南足柄市	小中学生と保護者	荻部治紀 瀬能 宏	20	88	20
樹洞探検隊 ～③樹洞を探せ～ [野外観察]	10/18(日)	博物館周辺	小中学生と保護者	勝山輝男 広谷浩子 加藤ゆき	20	56	15
菌類観察会 ～キノコや変形菌、カビを探そう～ [野外観察]	10/24(土)	博物館周辺	小～高校生と保護者	勝山輝男 田中徳久 大坪 奏	30	56	28
樹洞にすむ動物の生活と体 [室内実習]	10/31(土)	実習実験室	小学4年生～中学生	広谷浩子 加藤ゆき 樽 創	15	6	6
	11/1(日)	大型標本製作室					6
川と海の小石の観察会 [野外観察]	11/3(火・祝)	新松田の酒匂川河原 ・国府津海岸	小学4年生～中学生と その保護者	平田大二 山下浩之 石浜佐栄子	30	24	12
動物ウォッチング ～絶滅の恐れのある動物たちを観察 しよう～[講義と野外観察]	11/7(土)	実習実験室	小中学生と保護者	広谷浩子 加藤ゆき	20	11	7
	8(日)	横浜動物園 ズーラシア					8
アンモナイトの壁を調べよう [室内実習]	11/21(土)	講義室・展示室	小学4年生～6年生と その保護者・教員	田口公則	12	11	7
骨のかたちを比べよう ～こども編～[室内実習]	12/19(土)	実習実験室	小学4年生～6年生と その保護者	大島光春	12	12	11
※「どんぐりのふしぎ」[室内実習]	1/23(土)	実習実験室	子供	友の会講師	20		中止
いん石をさぐる [室内実習]	1/31(日)	実習実験室	小学4年生～高校生と その保護者	笠間友博 石浜佐栄子	30	23	17
計 22 講座	延べ 26 日				446	1169	429

※は友の会と共催の講座

	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	参加者数	子どもの数
夏休み 理科自由研究 なんでも相談コーナー	7/18(土)～ 8/23(日)	ミュージアム ライブラリー	小・中学生	学習指導員	なし		99	94
夏休み 標本の名前を調べよう	8/23(日)	講義室	小学生～ 高校生と保護者	学芸員	なし		26	11
計							125	105

実施日		実施場所	対象者	講師	定員	応募組数	参加者数	子どもの数
折り紙ひろば①	4/ 5 (日)	講義室	どなたでも	学習指導員	なし	37	123	56
折り紙ひろば②	5/ 3 (日)					59	188	96
折り紙ひろば③	6/ 7 (日)					43	142	83
折り紙ひろば④	7/ 5 (日)					59	125	76
折り紙ひろば⑤	8/ 2 (日)					109	407	198
折り紙ひろば⑥	9/ 6 (日)					57	173	78
折り紙ひろば⑦	10/ 4 (日)					29	84	43
折り紙ひろば⑧	11/ 1 (日)					49	145	70
折り紙ひろば⑨	12/ 6 (日)					40	159	86
折り紙ひろば⑩	2/ 7 (日)					64	194	92
折り紙ひろば⑪	3/ 7 (日)					96	333	173
計 11 回	延べ 11 日	計				642	2,073	1,051

5.1.4. 特別展開連講座

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
樹洞探検隊～①昆虫を探せ!～ [野外観察]	7/25 (土)	箱根町	小学生～中学生と 保護者	高桑正敏 荻部治紀	20	108	22
樹洞探検隊～②動物を探せ!～ [野外観察]	8/29 (土)	博物館周辺	小学生～高校生と 保護者	広谷浩子 加藤ゆき	20	229	15
樹洞探検隊～③動物を探せ!～ [野外観察]	10/18 (日)	博物館周辺	小学生～中学生と 保護者	勝山輝男 広谷浩子 加藤ゆき	20	56	15
樹洞にすむ動物の生活と体 [講義と室内実習]	10/31 (土) 11/ 1 (日)	実習実験室	小学 4 年生～中学生	広谷浩子 加藤ゆき 樽 創	15	6	6 6
計4講座	延べ5日				計 75	399	64

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義への対応

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所 (空欄は当館)
5/21 (木)	地球の成り立ちと様々な鉱物の特徴 及び展示解説	藤野シュタイナー高等学園	平田大二	2	9	
5/23 (土)	地震や津波等の災害が起こる メカニズムについて	三島市立中郷西中学校	笠間友博	1	38	
6/ 5 (金)	外来生物に対する日本と ニュージーランドの取り組みについて	横浜女学院中学校	広谷浩子	3	220	
7/23 (木)	SSH防災 箱根野外実習	神奈川県立西湘高等学校	笠間友博	1・2	24	箱根 大涌谷および当館
8/21 (金)	SSH「二枚貝の殻形態について」	東京都立戸山高等学校	佐藤武宏	1	22	
8/25 (火)	地学実習	額明館中学	平田大二	1～3	8	博物館及び周辺
9/ 8 (火)	理科学習「土地のつくりと変化」 火山の噴火実験	横浜市立鳥が丘小学校	笠間友博	6	80	横浜市立鳥が丘小学校
9/ 5 (土)	伊豆東部単成火山地域の現地研修	神奈川県立西湘高等学校	笠間友博	1・2	15	伊豆城ヶ崎海岸・大室山
9/19 (土)	火を噴く大地を見る「火山のモデル実験」	千葉県立船橋高等学校	笠間友博	2	25	千葉県立船橋高等学校
9/25 (金)	理科学習「土地のつくりと変化」 火山の噴火実験	茅ヶ崎市立梅田小学校	笠間友博	6	80	茅ヶ崎市立梅田小学校
10/1 (木)	「地層のでき方についての講義と実験」	横浜市立ろう特別支援学校	石浜佐栄子	6	15	
10/1 (木)	館内展示解説	千葉県立船橋高等学校	笠間友博	2	25	
10/1 6(金)	理科学習「土地のつくりと変化」 火山の噴火実験	小田原市立下府中小学校	笠間友博	6	69	
10/20 (火)	箱根火山を知るための観察指導	自由学園初等部	山下浩之	6	46	箱根 大涌谷および当館
10/22 (木)	「火山の話」	港区立赤羽小学校	平田大二	6	11	
10/25 (日)	SPP事業「菌類講座」	神奈川県立神奈川総合高等学校	大坪 奏	2	40	
10/27 (火)	理科学習「土地のつくりと変化」 火山の噴火実験	藤沢市立湘南台小学校	笠間友博	6	40	藤沢市立湘南台小学校
11/1 (日)	箱根火山と火山灰	神奈川県立神奈川総合高等学校	笠間友博	1	20	
11/ 8 (日)	SPP事業「菌類講座」	神奈川県立神奈川総合高等学校	大坪 奏	2	40	
11/13 (金)	火山噴火実験	函嶺白百合学園中学校	笠間友博	1	60	函嶺白百合学園中学校
12/11 (金)	箱根方面巡検	武蔵中学校	笠間友博 山下浩之	1	176	大観山 山伏峠 大涌谷
1/20 (水)	「博物館学各論」	都留文科大学	広谷浩子	3	15	都留文科大学

(前ページより)

3/3 (水)	火山噴火実験	小田原市立山王小学校	笠間友博	6	39	
3/3 (水) ・5 (金)	火山噴火実験	箱根町立箱根中学校	平田大二 笠間友博 山下浩之	1	80	箱根町立箱根中学校
3/9 (火) ・15 (月)	鉱物の観察	箱根町立箱根中学校	平田大二 笠間友博 山下浩之	1	80	箱根町立箱根中学校
3/22 (日)	SSH「講義 丹那断層」	名古屋市立向陽高等学校	笠間友博	2	39	
3/28 (日)	火山噴火実験	静岡県立静岡高等学校地学部	笠間友博	1～2	9	
				計	1,325	

5.2.2. 総合的な学習への対応

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所(空欄は当館)
5/26 (火)	総合的な学習 「ツバメについて」	山北町立三保小学校	加藤ゆき	4	7	山北町立三保小学校
6/23 (火)	外来生物に関する取材	自修館中等教育学校	広谷浩子	3	1	
7/24 (金)	恐竜について	埼玉県立春日部女子高等学校	大島光春	1	8	
7/30 (木)	サマープログラム 研究室・収蔵庫の見学	県立横浜国際高等学校	田中徳久	1	10	
10/22 (木)	「地域で働く人々に学ぶ」	御殿場市立御殿場中学校	樽 創	1	215	
10/22 (木)	「フィールドワーク」調べ学習	相模原市立相模台中学	笹尾賢二	1	12	
11/ 5 (木)	「一日探求日」	南足柄市立岡本中学校	学習指導員	1	20	
1/15 (金)	総合的な学習 「冬鳥の野鳥観察」	山北町立三保小学校	加藤ゆき	4	7	丹沢湖周辺
2/ 1 (月)	総合的な学習 「カナダガンの生態について・冬鳥の観察」	山北町立三保小学校	加藤ゆき	4	7	山北町立三保小学校
2/ 4 (木)	総合的な学習 「職業について」	海城中学校	佐藤武宏	3	1	
2/ 6 (土)	「未来の夢講座」	神奈川県立大磯高等学校	山下浩之	1	3	
2/16 (火)	湯河原町の環境と変化について	湯河原町立吉浜小学校	笠間友博	6	110	
3/16 (火)	総合的な学習 「地域の社会教育施設を訪ねる」	小田原市立早川小学校	学習指導員	4	30	
				計	431	

5.2.3. 職場体験学習

自分の進路を見つめ考える進路学習の中で、実際に職場で職業体験を行う機会として、近隣の中学校からの依頼が増えている。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数
8/26 (水)	職場体験学習	穎明館中学	平田大二	3	2
9/ 2 (水)	職場体験学習	川崎市立南生田中学校	笹尾賢二 田中徳久	1	3
10/28 (水)	職場体験学習	小田原市立城南中学校	笹尾賢二 田中徳久	2	3
11/ 5 (木)	職場体験学習	南足柄市立足柄台中学校	笹尾賢二 田中徳久	2	3
1/29 (金)	職場見学	小田原市立泉中学校	新井一政	1	7
2/ 3 (水)	職場体験学習	湯河原町立湯河原中学校	笹尾賢二 田中徳久	2	4
				計	22

5.2.4. インターンシップの受け入れ

2002 年度より、高校生の就業体験実習を受け入れている。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数
7/21(火)・23(木)	高校生インターンシップ	県立湘南台高等学校	笹尾賢二 佐藤武宏	2	2
7/30 (木)	高校生インターンシップ	県立大清水高等学校 県立厚木東高等学校	笹尾賢二	2・3	4
7/31 (金)	高校生インターンシップ	県立厚木東高等学校	笹尾賢二 笠間友博	2	2
8/6 (木)・7 (金)	高校生インターンシップ	光明相模原高等学校 明星学園高等学校 県立平塚商業高等学校	笹尾賢二 樽 創	1・2	4
10/1 (木)・2 (金)	高校生インターンシップ	県立海洋科学高等学校	笹尾賢二 佐藤武宏	2	1
				計	13

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館実務実習

当館では自然系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。今年度は7大学8学部から11名の実習生を受け入れた(表)。

実習は、企画情報部企画普及課が担当する2日間と学芸部が担当する7日間の実習からなり、その詳細は以下のとおりであった。

実習日と主な実習内容

全員共通実習(2日間) 担当: 企画普及課職員

[期日] 7月30日(木)・31日(金)

[内容] オリエンテーション、館長講話、展示室・収蔵庫など館内諸施設見学、各部長による館の概要・展示内容・研究状況などのガイダンス。

グループ別実習(7日間): 学芸各グループ担当

昆虫グループ2名

[担当] 高桑正敏・苅部治紀

[期間] 8月2日(日)・7(金)～8(土)・11日(火)～14日(金)

[内容] 昆虫標本の製作、標本ラベルの取り付け、講座の補助。

植物グループ(4名)

[担当] 勝山輝男・田中徳久

[期間] 8月1日(土)～7日(金)

[内容] 植物標本の台紙への貼り付け、標本整理(収蔵庫

への配架)。

動物グループ(3名)

[担当] 広谷浩子・佐藤武宏・加藤ゆき

[期間] 8月1日(土)～7日(金)

[内容] 動物の分類・学名に関するレクチャー、標本整理(ラベル貼り付け、収蔵庫への配架)。

地球環境グループ(3名)

[担当] 石浜佐栄子・笠間友博・山下浩之

[期間] 8月22日(土)～28日(金)

[内容] ジャンボブック展示の更新作業、講座の補助。

博物館実務実習受け入れ状況

大学・学部等	人数
東京農業大学・農学部	2
日本大学・文理学部	2
日本大学・生物資源科学部	2
東京学芸大学・環境教育課程	1
筑波大学・第一学群	1
神奈川大学・大学院	1
日本女子大学・理学部	1
日本獣医生命科学大学・獣医学部	1
計	11

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わずこの実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。この実習は企画情報部企画普及課が担当し、大学側の希望がある場合にはそれぞれの専門分野の学芸員が担当する。

今年度は13大学17件487名の見学実習を受け入れた。

博物館見学実習受け入れ状況

実施日	大学名	人数	担当
5/6(水・祝)	フェリス女子大学国際交流学部	6	平田大二
6/6(土)	桜美林大学リベラルアーツ学群	12	佐藤武宏
6/6(土)	日本大学文理学部 地球システム学科	6	平田大二
6/25(木)	東海大学教養学部人間環境学科	27	高桑正敏
8/4(火)	麻布大学環境保健学部 衛生技術学科	20	山口佳秀
8/12(水)	茨城大学教育学部	20	平田大二
9/12(土)	名古屋大学大学院環境学研究科	44	平田大二
11/1(日)	日本大学生物資源科学部	25	高桑正敏
11/7(土)	桜美林大学リベラルアーツ学群	12	佐藤武宏
12/6(日)	横浜国立大学	212	なし
12/12(土)	東京家政学院大学	15	田中徳久
12/13(日)	東海大学海洋学部	26	新井田秀一
12/20(日)	東海大学海洋学部	29	新井田秀一
12/22(火)	神奈川大学理学部	13	平田大二
1/17(日)	東京都市大学	7	佐藤武宏
2/2(火)	桜美林大学リベラルアーツ学群	7	笠間友博
2/11(木・祝)	自由学園最高学部	12	山口佳秀
	計	487	

5.4. 各種研修

5.4.1. 教員の各種研修の受け入れ

新採用の教員の研修受け入れ、小中学校の教育研究会や県立総合教育センターと連携し、様々な研修を行った。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	人数	場 所 (空欄は当館)
7/23 (木)	「身近な自然を活用する 環境教育Ⅰ・Ⅱ研修講座」	総合教育センター	山下浩之 田口公則	20	県立総合教育センター
7/24 (金)	「身近な自然を活用する 環境教育Ⅰ・Ⅱ研修講座」	総合教育センター	山下浩之 田口公則 石浜佐栄子	20	西丹沢方面
7/27 (月)	「身近な自然を活用する 環境教育Ⅰ・Ⅱ研修講座」	総合教育センター	山下浩之 石浜佐栄子	20	県立総合教育センター
7/22 (水)・23 (木) ・24 (金)	小学校 10 年経験者 社会体験研修	中井町立井ノ口小学校	笹尾賢二	1	
7/22 (水)・23 (木) ・24 (金)	中学校 5 年経験者 社会体験研修	小田原市立城南中学校	笹尾賢二	1	
7/28 (火)	中学校・高等学校理科研修 「自然観察会のポイント」	横浜市教育センター	平田大二	40	
8/5 (水)	夏季自然観察会	横浜市立中学校教育研究会	平田大二	20	城ヶ島周辺
8/10 (月)・12 (水) ・13 (木)	小学校初任者 社会体験研修	小田原市立国府津小学校	笹尾賢二	1	
8/8 (土)・9 (日)・11 (火) ・15 (土)・16 (日)	中学校初任者 社会体験研修	湯河原町立湯河原中学校	笹尾賢二	1	
8/17 (月)	理科総合講座3 「湘南台で潮干狩り?!」	大和市教育研究所	田口公則	19	県立境川遊水地公園 ・遊水地情報センター
8/21 (金)	「サルからヒトへの進化 の過程での変化」	藤沢市中学校教育研究会	広谷浩子	15	
8/20 (木)～23 (日) ・26 (水)	小学校 10 年経験者 社会体験研修	茅ヶ崎市立梅田小学校	笹尾賢二	1	
8/20 (木)・23 (日)	小学校初任者 社会体験研修	秦野市立西小学校	笹尾賢二	2	
8/21 (金)	神奈川県地質・ 箱根火山について	川崎市総合教育センター	平田大二	15	
8/25 (火)	「題材作りに活用できそうな 小田原の自然 (メダカ)」	小田原市小学校教育研究会	瀬能宏	32	
9/10 (木)	初任者研修講座 「神奈川の自然 ～箱根火山～」	総合教育センター	笠間友博	46	当館および箱根周辺
10/1 (木)	町田市中学校教育研究会 理科部 一日研修	町田市中学校教育研究会	大島光春	20	
10/28 (水)	野外研修会「自然観察指導法」	神奈川県高等学校理科部会 生物研修会	勝山輝男	20	真鶴町立ケーブ真鶴 および真鶴半島

5.4.2. 教員の各種研修の受け入れ

以下のとおり各種研修を受け入れた。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	人数	場所 (空欄は当館)
7/8 (水)	親子 PTA 活動「地層について」	箱根町立湯本小学校	平田大二	29	
9/3 (木)	研究学術機関等訪問研修「バックヤード見学」	神奈川県立大磯高等学校	笹尾賢二	30	
9/26 (土)	特別展・収蔵庫の見学および解説	神奈川理科サークル	田口公則	10	
3/26 (金)	「県西部・西湘地区に見られる昆虫の仲間」	西湘科学の会	荻部治紀	40	
計				99	

5.5. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を生かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。

2009年度のライブラリー利用者は87,370人で、1日平均利用者数は286人であった。

電話や文書による資料の問い合わせが15件あり、また有料ではあるがコピーサービスも行っており、延べ361件の申込があった。

5.6. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、県民の皆さんにより身近で開かれた博物館、学校との連携をはかる博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体で様々な事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして6名の学習指導員（非常勤）を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を生かし、児童・生徒をはじめ一般の方々からのレファレンスに関する業務や学習支援、学校をはじめ各種諸団体利用者へのサービスに関する業務を行っている。

5.6.1 学習支援・レファレンス業務

学習指導員はミュージアムライブラリーのカウンターに常駐し、さまざまな相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスをしたり、設定された課題解決のためにその筋道を示したりする学習支

援を行っている。このほか、来館者のレファレンス受付や、博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。

5.6.2 団体利用者へのサービス

[団体利用の申込受付]

学習指導員は、団体利用者からの電話、FAX、直接の来館等に対応し、予約の申し込みを受け付けている。地域や年齢など来館される方々は多岐にわたっている。

[下見見学への対応]

事前に下見のために来館した団体に対しては、施設を含む館内の見どころ等を説明するほか、希望者には博物館の展示を紹介したビデオテープの貸し出しも行っている。この下見見学の多くは学校関係者や、障害のある方々の施設・団体である。

[ガイダンスサービス]

ガイダンスを希望した団体には所要時間20分程度で、学習指導員が展示室の構成やおもな展示物の説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介し、利用にあたっての注意事項のお願いをしている。本年度の利用状況は以下のとおりである。

月別ガイダンス対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
件数	26	22	34	36	20	21	36	27	19	10	25	30	306	25
人数	1,668	1,272	2,048	2,223	947	1,114	2,610	1,275	1,075	351	1,193	1,264	17,040	1,420

5.6.3. 団体利用状況

2009年度の団体入館利用は1395団体、人数は72,646人で、館全体の利用者232,046人に対する割合は

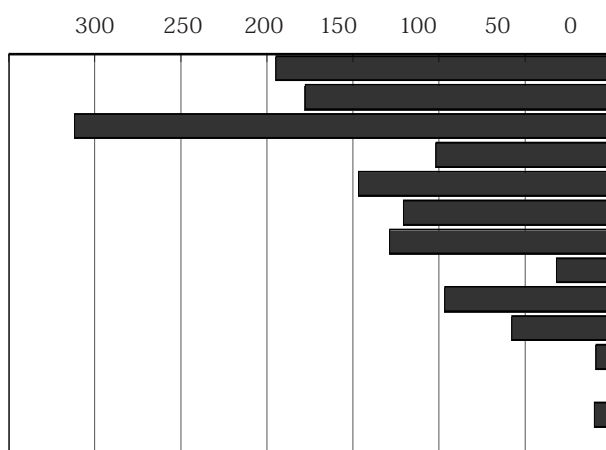
34.6%になる。団体利用の中で、学校関係団体787団体、54,415人、この数字は全団体56%、全団体人数の75%

月別種別利用状況

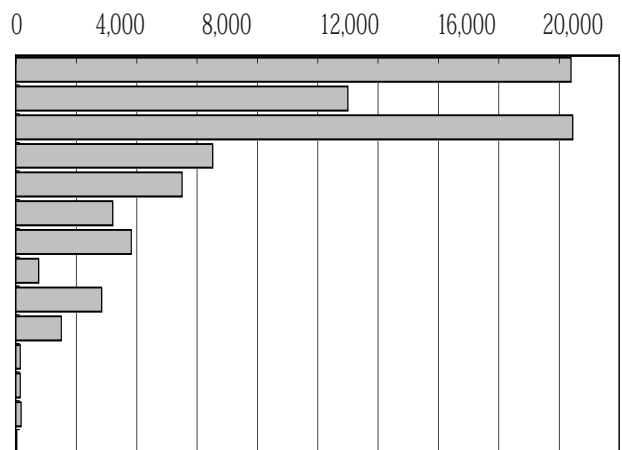
種別利用状況(団体数)															
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	割合
種 別															
A	県内小学校	23	26	13	17	0	13	36	28	10	8	12	9	195	14.0%
B	県内小学校以外の学校	10	16	10	37	6	10	18	19	5	6	22	19	174	12.8%
C	県外小学校	2	67	29	16	2	21	107	50	10	5	2	1	312	22.4%
D	県外小学校以外の学校	5	6	10	21	5	9	6	14	5	2	9	10	102	7.3%
E	学校以外の教育機関・施設	11	3	4	20	35	2	11	10	7	4	14	26	147	10.5%
F	病院、障害者施設、福祉施設	5	8	17	10	6	7	19	25	5	2	9	8	121	8.7%
G	高齢者団体、趣味の会等	6	15	17	8	1	6	14	24	10	4	6	18	129	9.2%
H	自治会、町内会、商店会等	0	6	5	0	0	2	1	7	3	1	3	4	32	2.3%
I	企業、自治体、各種組合等	5	5	9	7	8	13	12	19	6	1	6	6	97	7.0%
J	市民団体、NPO等	1	0	6	7	5	5	8	13	2	3	3	5	58	4.2%
K	研究・研修会、学会等	0	0	0	1	3	0	1	0	1	2	0	1	9	0.6%
L	外国人諸団体	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	7	0.2%
M	旅行会社ツアー	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	1	3	10	0.7%
N	その他	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0.1%
学校関係合計		40	115	62	91	13	53	167	111	30	21	45	39	787	56%
全 体 合 計		68	152	120	144	72	89	234	211	69	38	88	110	1,395	100%

種別利用状況(人数)															
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	割合
種 別															
A	県内小学校	2,617	2,938	1,478	1,379	0	1,131	3,388	2,670	805	850	829	322	18,407	25.3%
B	県内小学校以外の学校	1,209	1,683	688	2,315	322	675	1,120	752	260	120	897	718	10,759	15.2%
C	県外小学校	72	4,257	1,729	1,097	144	1,048	5,817	3,168	517	267	317	27	18,460	25.4%
D	県外小学校以外の学校	482	745	524	2,025	72	259	361	1,179	286	33	300	269	6,535	9.0%
E	学校以外の教育機関・施設	317	149	215	952	1,454	26	297	282	283	74	493	975	5,517	7.6%
F	病院、障害者施設、福祉施設	139	215	416	215	149	241	587	627	88	138	202	201	3,218	4.4%
G	高齢者団体、趣味の会等	142	357	410	206	16	97	398	460	315	99	383	955	3,838	5.3%
H	自治会、町内会、商店会等	0	134	135	0	0	60	9	208	62	20	67	64	759	1.0%
I	企業、自治体、各種組合等	85	81	211	226	298	360	453	555	118	9	287	166	2,849	3.9%
J	市民団体、NPO等	20	0	169	174	140	171	255	308	30	78	49	125	1,519	2.1%
K	研究・研修会、学会等	0	0	0	16	35	0	18	0	15	48	0	24	156	0.2%
L	外国人諸団体	0	0	0	254	25	0	0	29	0	0	98	0	406	0.2%
M	旅行会社ツアー	0	0	0	0	0	0	0	24	95	0	33	35	187	0.3%
N	その他	0	0	0	0	0	21	15	0	0	0	0	0	36	0.1%
学校関係合計		4,380	9,623	4,419	6,816	538	3,113	10,686	7,769	1,868	1,270	2,343	1,336	54,415	74.9%
全 体 合 計		5,083	10,559	5,975	8,859	2,655	4,089	12,718	10,262	2,874	1,736	3,955	3,881	72,646	100%

(団体数)



(団体種別利用人数)



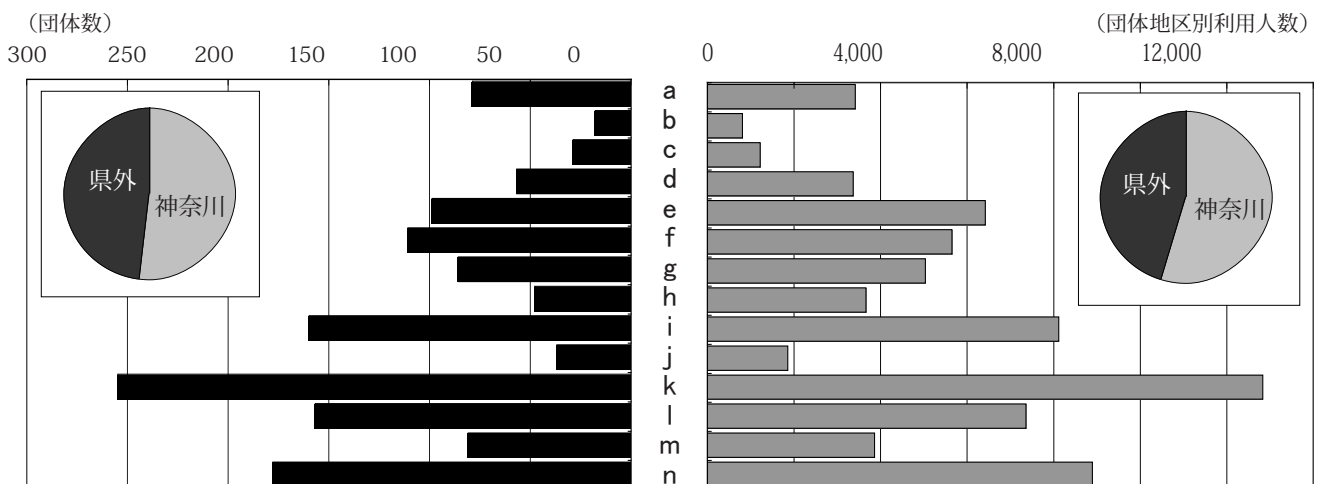
になる。特に、小学校の占める割合は学校関係団体人数の36%になる。種別による利用状況および地域別の利用

状況は下記図表の通りである。

月別地区別利用状況

地区別利用状況(団体数)														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	割合
地 区														
a 小田原市	2	5	4	11	3	9	11	6	1	4	12	11	79	5.7%
b 足柄下郡	1	2	5	1	0	1	3	2	0	0	2	1	18	1.3%
c 足柄上郡	1	1	1	1	3	1	5	6	3	4	3	0	29	2.1%
d 二宮町・大磯町・平塚市	5	6	8	2	3	2	8	5	2	1	8	7	57	4.1%
e 秦野・伊勢原	14	13	3	8	4	3	8	13	6	3	11	13	99	7.1%
f 県央・県北	8	11	8	9	9	5	25	14	3	1	9	9	111	8.0%
g 茅ヶ崎市・藤沢市・鎌倉市	5	4	5	9	10	4	10	19	2	3	3	12	86	6.2%
h 横須賀市	1	3	2	11	2	10	0	13	3	1	2	0	48	3.4%
i 横浜市	3	15	17	24	17	9	14	29	10	6	6	10	160	11.5%
j 川崎市	0	2	3	11	2	2	0	3	5	2	2	5	37	2.7%
k 東京	16	36	33	36	11	22	27	29	10	7	14	14	255	18.3%
l 千葉	2	16	8	3	2	8	72	35	8	0	2	1	157	11.3%
m 静岡	1	9	6	9	2	5	9	15	7	5	4	9	81	5.8%
n その他	9	29	17	9	4	8	42	22	9	1	10	18	178	12.8%
神奈川県合計	40	62	56	87	53	46	84	110	35	25	58	68	724	51.9%
全 体 合 計	68	152	120	144	72	89	234	211	69	38	88	110	1,395	100%

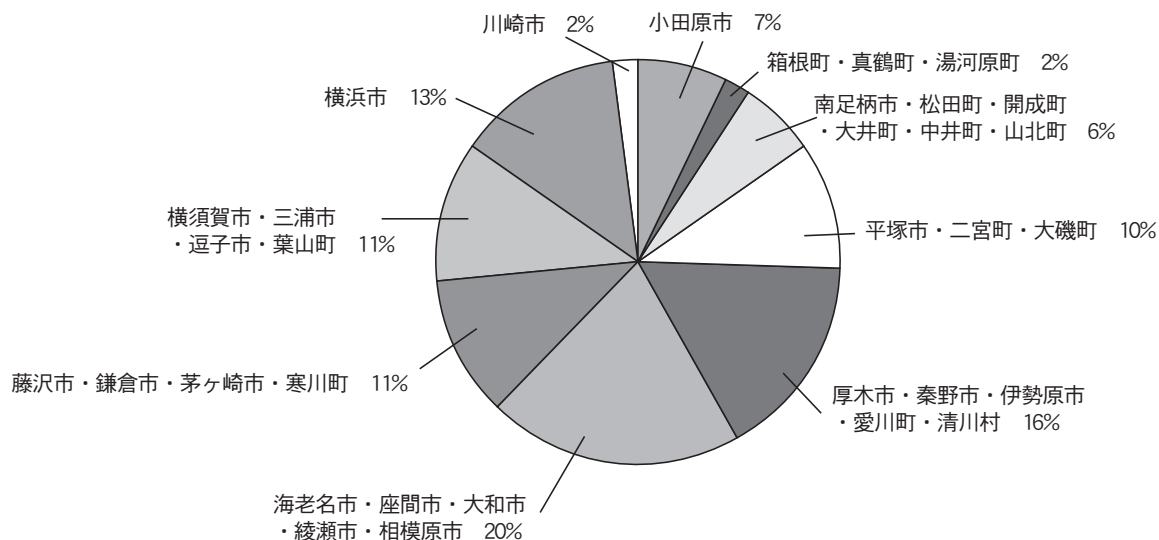
地区別利用状況(人数)														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	割合
地 区														
a 足柄下郡	20	431	273	477	53	354	700	167	17	182	416	336	3,426	4.7%
b 足柄上郡	56	182	112	25	0	8	179	72	0	0	173	14	821	1.1%
c 二宮町・大磯町・平塚市	29	14	6	54	91	138	320	342	53	110	74	0	1,231	1.7%
d 秦野・伊勢原	483	550	430	156	70	196	351	393	96	27	454	172	3,378	4.6%
e 県央・県北	1,624	1,405	97	441	179	126	790	371	101	362	409	525	6,430	8.9%
f 茅ヶ崎市・藤沢市・鎌倉市	806	767	348	374	270	149	1,780	643	58	3	299	166	5,663	7.8%
g 横須賀市	584	690	355	445	372	135	533	1019	181	73	164	498	5,049	7.0%
h 横浜市	338	203	142	872	158	978	0	725	168	30	57	0	3,671	5.1%
i 川崎市	83	855	1,274	1,573	739	267	751	1,281	542	196	255	312	8,128	11.2%
j 東京	0	29	51	803	60	45	0	50	289	311	85	144	1,867	2.6%
k 千葉	495	2,532	1,552	2,659	436	984	973	1,623	363	293	437	494	12,841	17.7%
l 静岡	209	588	399	122	34	344	3,505	1,709	386	0	56	16	7,368	10.1%
m 静岡	17	839	231	425	69	154	587	675	279	125	229	240	3,870	5.3%
n その他	339	1,474	705	433	124	211	2,249	1,192	341	24	847	964	8,903	12.2%
神奈川県合計	4,023	5,126	3,088	5,220	1,992	2,396	5,404	5,063	1,505	1,294	2,386	2,167	39,664	54.6%
全 体 合 計	5,083	10,559	5,975	8,859	2,655	4,089	12,718	10,262	2,874	1,736	3,955	3,881	72,646	100%



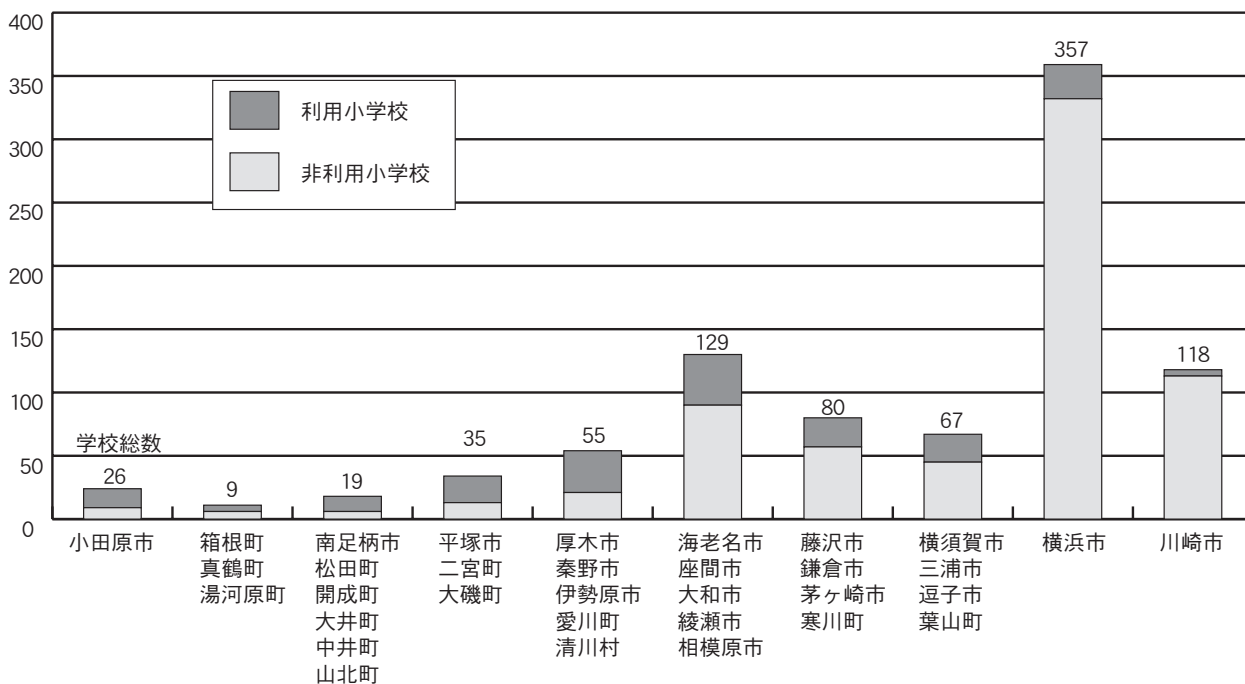
県内地区別学校利用状況

地区 No	構成市町村	小 学 校				小 学 校 以 外 の 学 校					全校種	全体に 占める 割合
		小学校 利用数	県内で の割合	地区内 小学校数	各地区で の利用率	中学 利用数	高校 利用数	大学 利用数	各種支 援学校	保育園 幼稚園	合 計	
1	小田原市	18	9%	26	69%	6	3	0	5	11	43	12%
2	箱根町・真鶴町・湯河原町	4	2%	9	44%	1	0	0	0	5	10	3%
3	南足柄市・松田町・開成町・大井町・中井町・山北町	11	6%	19	58%	2	0	0	0	5	18	5%
4	平塚市・二宮町・大磯町	20	10%	35	57%	1	3	2	4	11	41	11%
5	厚木市・秦野市・伊勢原市・愛川町・清川村	30	15%	55	55%	3	1	3	1	19	57	15%
6	海老名市・座間市・大和市・綾瀬市・相模原市	36	19%	129	28%	6	2	3	0	12	59	16%
7	藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・寒川町	18	9%	80	23%	8	0	2	0	12	40	11%
8	横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町	21	11%	67	31%	2	1	4	0	4	32	9%
9	横浜市	32	16%	357	9%	8	6	4	3	12	65	17%
10	川崎市	5	3%	118	4%	0	0	0	0	4	9	2%
合 計		195	100%	895		37	16	18	13	95	374	100%
割 合		52%				10%	4%	5%	4%	25%	100%	

県内小学校の地区別利用数の割合



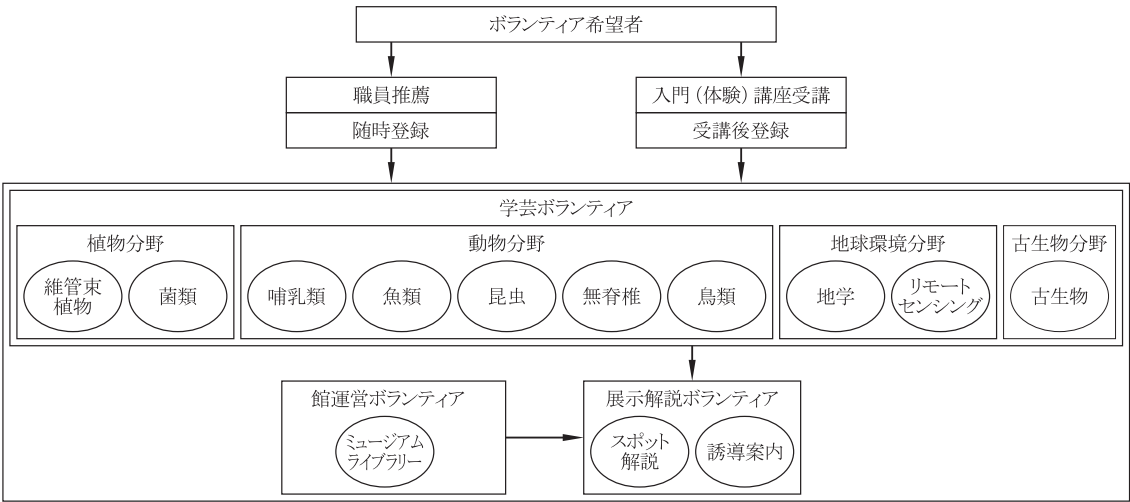
地区別の学校総数に対する利用数の割合



5.7. 博物館のボランティア活動

神奈川県立生命の星・地球博物館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示、調査研究、展示解説等さまざまである。登録制で、登録には職員推薦（随時）あるいは入門（体験）講座の受講の二つの方法がある。登録は年度単位で、希望により更新できる。ボランティアの活動は下図のように区分されていて、その中の希望する分野に登録し活動する。

活動区分は、「学芸ボランティア」「館運営ボランティア」「展示解説ボランティア」に分かれている。「学芸ボランティア」及び「館運営ボランティア」は、担当学芸員及び職員と活動日を調整しながら活動し、「展示解説ボランティア」は各自の都合の良い日に来館し、開館時間内に展示解説を行う。



5.7.1. 学芸ボランティア

博物館の各専門分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。各分野

により、標本作製の手法や手順が異なり、専門的な技術や知識を習得する場ともなっている。

5.7.2. 展示解説ボランティア

展示解説ボランティアは、「学芸ボランティア」「館運営ボランティア」の希望者と、「誘導・案内ボランティア」により行われ、2002 年度から始まった活動である。

この活動は、主に展示品を解説するスポット解説と視覚

障害者等を案内する誘導・案内がある。

なお、「展示解説ボランティア」には、制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

2009 年度登録者総数

	男性	女性	計
学芸ボランティア	116	109(1)	225(1)
館運営ボランティア	4	8	12
展示解説ボランティア	13	8	21
計	133	125(1)	258(1)

カッコは学芸ボランティア内の他分野との重複状況

展示解説ボランティアと他分野との重複状況

	男性	女性	計
学芸ボランティアと重複	16	10	26
館運営ボランティアと重複	3	3	6
展示解説ボランティアのみ	13	8	21
計	32	31	53

5.7.3. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数と活動状況は下表のとおりである。
「展示解説ボランティア」の中には、「学芸ボランティア」と

「館運営ボランティア」から活動希望者を募ったために重複
している人もいる。

平成 21 年度「博物館ボランティア」登録者 総数 (実数)

	登録数			保険加入		
	計	男性	女性	計	男性	女性
学芸ボランティア ※ 1	229	108	121	213	102	111
館運営ボランティア	4	0	4	3	0	3
解説ボランティア ※ 1,2	55	35	20	50	34	16
	(26)	(17)	(9)	(22)	(17)	(5)
合計 (重複あり)	286	141	145	260	133	127
合計 (重複なし) ※ 3	259	125	134	234	118	116

※ 1 学芸ボランティア内、解説ボランティア内では、複数の専門分野間で重複登録 (例 ; 魚類と地学) している者がいるため、その重複を除いた実数を示した (下表参照)。

※ 2 解説ボランティアのうち、学芸ボランティアにも重複登録している者を除いた数をカッコ内に示した。

※ 3 解説ボランティアー学芸ボランティア間の重複を除いた、登録者の実数 (=学芸ボラ+館運営ボラ+解説ボラのかっこ内の数)

平成 21 年度「博物館ボランティア」登録者 内訳と活動状況

分野			登録数			活動状況(延べ人数)												
			計	男性	女性	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学芸ボランティア	植物	植 物	31	10	21	39	38	13	53	30	38	44	29	26	25	31	49	415
		菌 類	45	20	25	45	42	46	64	31	33	59	40	34	57	37	68	556
	動物	哺乳類	13	2	11	6	6	8	7	11	7	13	12	15	14	18	19	136
		魚 類	56	25	31	33	35	25	26	31	19	25	19	35	33	38	26	345
		昆 虫	12	9	3	6	11	9	7	11	3	4	5	4	5	6	4	75
		軟体・甲殻類	3	1	2	8	6	4	8	6	5	6	6	6	6	6	6	73
		鳥 類	8	4	4	4	7	6	6	7	2	4	7	3	6	5	4	61
	地球環境	地 学	38	22	16	59	36	51	68	30	59	50	47	33	40	48	53	574
		リモートセンシング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		古生物	28	16	12	16	29	11	8	14	9	23	19	9	17	11	16	182
合計(重複あり)		234	109	125	216	210	173	247	171	175	228	184	165	203	200	245	2,417	
合計(重複なし) ※ 4		229	108	121														
※ 4 学芸分野内で複数分野に重複登録している場合、重複を除いた数。																		
館運営	博物館学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ライブラリー		4	0	4	3	3	3	2	3	3	3	2	0	3	2	0	
	合計		4	0	4	3	3	3	2	3	3	3	2	0	3	2	0	
解説	スポット解説		46	32	14	41	48	34	44	43	37	37	31	27	31	29	40	
	誘導・案内		9	3	6	0	0	7	2	0	5	0	2	0	0	2	4	
	合計(重複あり)		55	35	20	41	48	41	46	43	42	37	33	27	31	31	44	
	合計(重複なし) ※ 5		53	33	20													
※ 5 解説分野内で複数分野に重複登録している場合、重複を除いた数。																		
延べ活動人数(展示解説含む)																	2,908 名	

5.7.4. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、活動の場を広く提供するために講座を開催している。その内容等は表のとおりである。受講した方は、翌年度から当館でボランティア活動を行うことができる。

〔日時〕 2010 年 2 月 18 日 (木) ～ 2 月 27 日 (土) までの

間の 3 ～ 5 日間 (分野別の講座が 1 ～ 3 日間)

〔内容〕 博物館が受け入れ可能な分野で、ボランティア活動を希望される方を対象とした講座。

〔講座定員〕 8 分野 31 名、展示解説 10 名 計 42 名

〔実施分野〕 5 分野 10 名、展示解説 8 名 計 18 名

講座日程

共通	日時	内容	対象					
	2/18 (木)							
	10:00 ～ 10:15	開会、挨拶、日程・講座内容説明、概要説明、諸注意等	応募者全員					
	10:15 ～ 11:00	講義「当館のボランティア活動について」(ボランティア担当)						
	11:00 ～ 12:00	施設案内(職員引率)、展示見学(各自)	応募者・現在活動中のボランティア					
	13:00 ～ 15:00	各担当者紹介、各担当・分野ごとにオリエンテーション	応募者全員					
分野別	分野	内容	研修 日数	募集 定員	申し 込み	受講 人数	修了 人数	登録 人数
	維管束植物	標本製作、情報システムへのデータ登録等 (2/25.26)	2	5	5	2	2	2
	哺乳類	標本整理、情報システムへのデータ登録等 (2/26.27)	2	5	0	2	2	2
	魚類	標本整理、魚類写真資料の整理等 (2/21)	1	3	0	1	1	1
	昆虫	標本整理、標本作製等 (2/26.27)	2	5	5	1	1	1
	貝類	標本整理、情報システムへのデータ登録等 (2/23)	1	5	5			
	鳥類	標本整理、標本作製等 (2/26.27)	2	3	0			
	古生物	古生物概論、標本・文献整理、データ登録等 (2/24.25)	1	5	5	4	4	4
	展示解説	展示解説のしかた、展示解説の実習 (2/21,23)	2	10	4	8	8	8
共通	日時	内容	対象					
	2/27 (土)							
	13:00 ～ 14:00	活動・体験発表 (現在活動中のボランティア) 学芸ボランティアから (地学分野から深澤良子さん)	応募者・現在活動中のボランティア					
	14:00 ～ 14:40	意見交換・質疑応答	応募者全員					
	14:40 ～ 15:00	ボランティア登録の案内、活動分野の登録、事務連絡・閉会	登録希望者					

5.8. 友の会

「生命の星・地球博物館友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に 1996 年度に発足した。

5.8.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営され、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開した。また、博物館との共催でサロン・ド・小田原（5 回、※ ページ参照）やミュージズフェスタを行った。ミュージズフェスタでは博物館と協力して「子供自然科学ひろば」に参加するとともに、友の会の活動紹介と会員勧誘などを行った。

事務局

1. 総会 2009 年 4 月 5 日（日）に実施
2. 役員会 8 回実施し、以下の事項を検討し、実施した。
 - 1) 継続的な友の会運営のあり方（改選期に向けて）
 - 2) 博物館との連携強化（連絡会の実施）
 - 3) 図書（フィールドワークの達人）出版事業の展開
 - 4) ミュージズフェスタ実行委員会

広報部

1. 会報「友の会通信」を 4 回（通巻 64 ～ 67 号）発行
2. 友の会HP、ブログの管理および運営
3. 友の会年間行事一覧表作成、配布
4. 友の会活動に関わる情報の保存・管理
5. 友の会活動紹介コーナーの展示
6. 「フィールドワークの達人」出版事業
7. 「自然科学のとびら・友の会」版発行 4 回（通巻 50 ～ 53 号）

企画部

友の会が主催する観察会や講座を企画し、それらが円滑に実施できるように博物館側との調整を行い、以下の講座を実施し、延べ 409 名が参加した。（別表のとおり）

行事名	開催日	実施場所	対象者	講師	所属	定員	参加者数
総会イベント 公開講座 「フィールドワークの愉しみ」	4/5（日）	シアター	会員	大島光春ほか 学芸員 6 名	当館学芸員		75
植物観察会「高麗山の春を歩く」	4/10（金）	大磯高麗山	大人	勝山輝男	当館学芸員	25	35
三浦半島「葉山芝崎」で 幻の付加体観察	4/25（土）	三浦半島葉山海岸	子供から大人まで	蛭子貞二	友の会	40	雨天中止
植物観察会 「富士山の自然を楽しむ」	5/8（金）	富士市丸火自然公園	大人	勝山輝男	当館学芸員	35	24
早川の野鳥観察会	5/9（土）	早川下流域	子供・大人	川崎英憲	友の会		4
大人のための自然不思議発見講座 「微化石が語ること」	5/16（土）	実習実験室	大学生以上	河潟俊吾 樽 創	横浜国立大学 教育人間科学部 准教授 当館学芸員	15	10
こども植物おもしろ発見講座	5/23（土）	実習実験室	子供 （会員外参加可）	友の会 植物グループ	友の会	20	10
早川水系の源を探る！Part12 「須雲川上流の自然観察会」	5/30（土）	箱根玉川大学演習林	子供から大人まで	杉本和永 笠間友博 新井一政	玉川大学准教授 当館学芸員	30	31
「土の中の虫ウォッチング」 ～カニムシと草花あそび～	7/11（土）	博物館周辺および 実験実習室	小中学生と その保護者	佐藤英文	鶴見大学 短期大学部 保育科准教授	25	25
西丹沢山北町「湯本平流域」で 砂金パニング	7/25（土）	西丹沢湯本平	子供から大人まで	蛭子貞二 山下浩之	友の会 当館学芸員	40	雨天中止
子ども自然科学ひろば 「いろいろ体験」	8/8（土）	実習実験室	子供とその保護者 （会員外参加可）	小田部家邦 友の会スタッフ	ブランクトン研究 家 友の会		29
要定川の魚と水生昆虫観察会	8/8（土）	小田原市要定川	子供から大人まで （会員外参加可）	瀬能 宏	当館学芸員		29
子ども自然科学ひろば 「バックヤード探検隊」	8/9（日）	博物館バックヤード	小学生以上 （会員外参加可）	大島光春	当館学芸員	10	8
植物観察会 「泊って楽しむ梅池自然園」	8/28・29 （金・土）	長野県梅池自然園	大人	勝山輝男	当館学芸員	30	29
植物観察会 「湯坂路の秋草ウォッチング」	10/6（火）	箱根湯坂道	大人	勝山輝男	当館学芸員	25	雨天中止
金時山から考える 新・箱根火山形成モデル	10/18（日）	箱根金時山	大人・子供と その保護者	山下浩之	当館学芸員	40	22

（次ページへ）

(前ページより)

鎌倉の第四紀層巡検	11/14 (土)	鎌倉天園 ～朝比奈切通し	大人・子供と その保護者	田口公則	当館学芸員	40	雨天中止
第3回 製本講座	11/15 (日)	実習実験室	中学生以上 (会員外参加可)	黒沢知子	友の会	10	6
早川水系の歴史と文化の探訪! Part8「早川下流の自然観察会」	11/28 (土)	石垣山～佐奈田霊社	子供から大人まで	勝山輝男 笠間友博 新井一政	当館学芸員	30	22
こども植物おもしろ発見講座 「どんぐりのふしぎ」	1/23 (土)	実習実験室	子供	友の会 植物グループ	友の会	20	中止
植物観察会「冬の樹木を楽しむ」	1/30 (土)	博物館周辺および 実験実習室	大人	友の会 植物グループ	友の会	20	31
地図をたのしもう	2/7 (日)	石垣山および 実験実習室	大人	新井田秀一	当館学芸員	20	19
「静岡県駿河小山のテラフ巡検」	2/13 (土)	駿河小山	子供から大人まで	笠間友博	当館学芸員	40	雨天中止

5.9. 広報

博物館広報活動は、広く館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを広く告知し、来館・参加を呼びかけることを目的としている。

2009年度の広報活動は、前年度に引き続き催し物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供を行った。

5.9.1. 広報印刷物の作成・配布

主な広報として、特別展・観察会・講演会など1年間の各種催し物を告知するため催し物案内、特別展・企画展開催にあわせポスターとチラシ、「子ども自然科学ひろば」

のチラシ、「ミューズ・フェスタ 2010」のチラシを下記の表のとおり作成・配布した。



特別展「木の洞をのぞいてみたら～樹洞の生き物たち～」チラシ(表面)



企画展「押し葉～古瀬 義 植物標本コレクション～」チラシ(表面)

ポスター・チラシ作成状況

月	印刷物名	仕様(規格、印刷、色数)	部数	主な配布先	件数
6	特別展「木の洞をのぞいてみたら～樹洞の生きものたち～」ポスター	① B1 判 (JR 帯付) ② B1 判 (小田急帯付) ③ B2 判 ④ A3 判、オフセット印刷、4 色刷り	① 50 ② 150 ③ 2,700 ④ 500	①② H ③ A,C,D,E,F,J ④ I	3,874
	特別展「木の洞をのぞいてみたら～樹洞の生きものたち～」チラシ	A4 判、オフセット印刷、 表面 4 色・裏面 1 色刷り	85,000	A,B,C,D,E,F,G,J	
	「子ども自然科学ひろば 2009 年夏(その 1、その 2)」チラシ	① A3 判 ② B4 判、館内簡易印刷、片面 2 色刷り(2 種)	① 各 2,500 ② 各 1,500	①② J	77
9	「子ども自然科学ひろば 2009 年秋」チラシ	① A3 判 ② B4 判、館内簡易印刷、片面 2 色刷り	① 2,500 ② 1,500	①② J	77
11	企画展「押し葉～古瀬 義 植物標本コレクション～」ポスター	① B1 (JR 帯付) ② B1 (小田急帯付) ③ B1 ④ B2 ⑤ A3、①～④館内簡易印刷⑤オフセット 印刷、4 色刷り	① 15 ② 21 ③ 12 ④ 10 ⑤ 1,000	①② H ③④ F ⑤ C,D,E,F,I,J	1,551
	企画展「押し葉～古瀬 義 植物標本コレクション～」チラシ	A4 判、オフセット印刷、 表面 4 色・裏面 1 色刷り	10,000	A,C,D,E,F,G,J	
12	「子ども自然科学ひろば 2009 年～2010 年冬」チラシ	① A3 判 ② B4 判、館内簡易印刷、片面 2 色刷り	① 2,500 ② 1,500	①② J	77
1	「ミューズ・フェスタ 2010」チラシ	A4 判、オフセット印刷、両面 4 色刷り	30,000	A,C,D,E,F,G,I	2,653
3	「子ども自然科学ひろば 2010 年春(その 1、その 2)」チラシ	① A3 判 ② B4 判、館内簡易印刷、片面 2 色刷り(2 種)	① 各 2,500 ② 各 1,500	①② J	77
	「催し物のご案内」	A3 判、オフセット印刷、両面 1 色刷り	30,000	A,B,C,D,E,F,G,J	3,818

主な配布先の凡例。

A: 県内小・中・高校等; B: 県外(東京・静岡)小・中・高校等; C: 県内図書館; D: 県内公民館・地区センター; E: 博物館園;
F: 県市町村情報提供窓口; G: マスメディア; H: 小田急電鉄、箱根登山鉄道、JR 東日本; I: 近隣 2 市 8 町各自治会;
J: 足柄上・下地区公立小・中学校

5.9.2. マスメディア等への情報提供

博物館の行う各種催し物の案内は、地元の小田原記者クラブへ定期的に提供している。また、当館は観光地箱根・小田原エリアにあるため、旅行情報誌やアミューズメント情報誌などに無償で施設紹介されており、非常に恵まれた環境にある。これら情報誌とは定期的に情報の更新を行っている。

特別展や企画展といった企画展示の話題は、マスメディアで取り上げられる率が高いため、小田原記者クラブ以外にケーブルテレビ、コミュニティ FM 局など中小のメディア

向けにも情報提供する一方、前日に内覧会を催すなど様々なかたちで広報展開を図った。

この 1 年間の紹介記事件数は、確認したものだけでも 180 件あった。その内訳は、新聞 23 件、雑誌・図書類 26 件、広報紙・情報紙 65 件、テレビ 28 件、ラジオ 5 件、ウェブサイト等インターネット 32 件、その他 1 件である。これは掲載社からの連絡に基づくもので、実際の記事件数はこの数倍にのぼると思われる。特に、ウェブサイトでの掲載頻度に関しては未知数である。

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告(自然科学)」39号を刊行した。本誌は、国内外の研究機関、大学、博物館等に配布している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川自然誌資料」第31号を刊行した。今年度は投稿規定を一部改定した。本誌は、主な研究機関(一部海外を含む)、大学、博物館、学会、研究会、同好会等に配布している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年4号刊行した。一般利用者向けに、博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。主な内容は、自然科学に関する情報、最新のトピックスの紹介、研究成果、資料紹介、博物館の講演会、展示、行事等に関するものなどである。本誌は、県内中学校、高等学校、大学、図書館、全国の博物館等に配布している。また、同様の内容をホームページ(<http://nh.kanagawa-museum.jp/tobira/index.html>)で紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」14号(2008年度)を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 研究報告

[号数] 39号

[発行日] 2010年3月24日

[発行数] 1,000部

[編集担当] 笠間友博

[内容]

地球科学

新井田秀一：解像力の異なる数値標高モデルを用いた傾斜量図による地形表現
平田大二・斎藤靖二・永幡寛三・寺島靖夫・岡田嘉夫・加藤 昭：神奈川県山北町人遠の神縄逆断層破砕帯中の赤鉄鉱-石英岩中の海緑石

動物学

荻部治紀・守屋博文・林 文男：神奈川県を中心とした

カワトンボ属の分布

高桑正敏・藤田 宏：屋久島高地帯花之江河における昆虫類調査

広谷浩子：博物館で人類進化を学ぶー博物館の特性をいかした子ども向け学習プログラムの作成・実践についてー

その他

石浜佐栄子・大島光春・広谷浩子・田口公則：塗り絵をコミュニケーションツールに使った子どものための展示についてー2009年度特別展における「ぬりえde おめん」コーナーの実施報告ー

6.1.2. 神奈川自然誌資料

[号数] 31号

[発行日] 2010年3月24日

[発行部数] 700部

[編集担当] 佐藤武宏・高桑正敏

[内容]

洲澤 譲・洲澤多美枝・福嶋 悟：神奈川県および周辺のカワモズク属(淡水紅藻)の分布
倉持敦子・倉持卓司：相模湾産ブドウガイにおいて観察された孵化形態の多型
植田育男・西 栄二郎・眞田将平・下迫健一郎：横浜港内の人工干潟におけるミドリイガイの越冬時温度条件
伊藤寿茂・古川大恭・田中俊之・根本 卓・勝呂尚之：神奈川県で確認されたイシガイ科二枚貝の生息
西 栄二郎・植田育男・坂本昭夫・杉原奈央子・下迫健一郎・眞田将平：横浜港湾空港技術調査事務所に造成

された人工干潟とその周辺における多毛類を中心とした底生生物相

倉持卓司・高橋清人：相模湾より採集されたショウサイフグに寄生したヒダビルの記録

川島逸郎・辻 功：三浦半島南部におけるネアカヨシヤンマおよびカトリヤンマの記録

松島義章・荻部幸世：鎌倉市植木こじか公園におけるセミのぬけがら調査その3ー2002～2005年の記録ー
中村静男・飯田佳津子・出川洋介：日本初記録のタケノウチエゴアブラムシの二次寄生世代とその虫こぶについて

崎山直夫・瀬能 宏・樽 創：相模湾におけるウバザメ(ネズミザメ目、ウバザメ科)の出現状況

齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之：相模川水系の魚類相
加藤健一：静岡県で採集されたタニヨウジ

丸野内淳介：小田原市入生田におけるタカチホヘビ
Achalinus spinalis の記録
吉田裕樹・石川康裕・佐藤友哉・馬場好一郎・藤吉正明：
秦野市弘法山公園において 2006 年から 2008 年まで
に観察された鳥類
山口喜盛・山口尚子：丹沢山地のトンネルで確認された
コウモリ類
板橋正憲・和田優子・富岡由香里・菊地昭夫：ハクビシ

ンの横浜市内への進出について
広谷浩子・長縄今日子：神奈川県丹沢産ツキノワグマの
胃内容について
青木雄司・柳川美保子・金田正人・黒田貴綱・秋山幸也・
鈴木藤子・二宮孝子・早川広美・繁田真由美・万行弘倫・
荘司たか志・半場良一・藤吉敬子：神奈川県における
カヤネズミ *Micromys minutus* の分布

6.1.3. 自然科学のとびら

自然科学のとびら 15 巻 2 号通巻 57 号

〔発行日〕 2009 年 6 月 15 日

〔発行部数〕 1,600 部

〔編集担当〕 石浜佐栄子

〔内容〕

加藤ゆき：表紙「フクロウのすむ樹洞」
石浜佐栄子：『玉砂舞楼（たまさぶろう）』をつくろう」
広谷浩子：「樹洞探しの旅 ―特別展『木の洞（うろ）を
のぞいてみたら』に寄せて」
勝山輝男：「木の立場から樹洞を考える」
大澤澄子：ライブラリー通信「大英博物館」
荻部治紀：「樹洞と虫たち ―珍品たちのすみか―」

自然科学のとびら 15 巻 3 号通巻 58 号

〔発行日〕 2009 年 9 月 15 日

〔発行部数〕 1,600 部

〔編集担当〕 石浜佐栄子

〔内容〕

山下浩之：表紙『『しんかい 6500』から見た海底」
田口公則：「ワークショップ “貝殻みがき” を研く」
山下浩之：『『しんかい 6500』潜航記」
尾越佐緒里：ライブラリー通信「ぞうきばやし・おみやに
いったらむしがいる」
大島光春：「子どものための展示を考える」

自然科学のとびら 15 巻 4 号通巻 59 号

〔発行日〕 2009 年 12 月 15 日

〔発行部数〕 1,600 部

〔編集担当〕 石浜佐栄子

〔内容〕

丸山琢也（山梨県立吉田高等学校）・奥山誠一（山梨県
立甲府東高等学校）・宮崎淳一（山梨大学教育人間科
学部）：表紙『『東海ナガレ』の色彩変異個体」
笠間友博：「箱根火山 6 万 6 千年前の大噴火と謎」
若代彰路：「丹沢の夜の野生動物 ―センサーカメラが写
しだした生態―」
大澤澄子：ライブラリー通信「チリモン」
田中徳久：「古瀬 義 氏 植物標本コレクション」

自然科学のとびら 16 巻 1 号通巻 60 号

〔発行日〕 2010 年 3 月 15 日

〔発行部数〕 1,600 部

〔編集担当〕 石浜佐栄子

〔内容〕

石浜佐栄子：表紙「丹沢の砂金」
広谷浩子：「サブ活動が支える子ども講座 ―人類進化講
座 11 年のまとめから―」
荒尾一樹（（株）環境科学研究所）・山本裕康（神奈川
県内水面試験場）・瀬能 宏：「悩ましいボウズハゼ類
の色」
田中徳久：「台湾大学での “協議合作備忘録簽約儀式”
報告」
尾越佐緒里：ライブラリー通信「日本産クモ類」
石浜佐栄子：『『パンニング』で砂を調べる」

6.1.4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

〔号数〕 14 号

〔発行日〕 2009 年 12 月 16 日

〔発行部数〕 700 部

〔編集担当〕 吉川ひとみ・樽 創・大島光春

〔内容〕

沿革・事業報告（運営管理機能・情報発信機能・シンク
タンク機能・データバンク機能・学習支援機能・刊行物・
情報システム・連携機能）・資料

6.2. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数	刊行物名	単価	販売部数
展示解説書	1,500	201	フットのひとりごと	900	17
地球 SOS	500	27	神奈川県植物誌 2001	9,800	60
絶滅した生物	500	30	展示案内 生命あふれる不思議な星	420	309
貝からの伝言	500	27	化石どうぶつ園	1,100	21
櫻井コレクションの魅力	400	20	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006	2,000	44
日本の魚学・水産学事始め	1,000	6	読みもの ナウマンゾウがいた!	800	45
オオカミとその仲間たち	1,100	19	樹洞	1,000	204
カニの姿	1,200	13	計		1,043

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、当館が目指す以下のような新しい博物館を支えるシステムとして整備されることとなった。

- ・高度情報化における自然・文化の情報センター
- ・映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- ・他の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

上記の3システムは、1995年度より稼動している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」の2つのサブシステムにより構成され、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱であるところの資料の収集・管理、研究、展示活動を支援する。

なお、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせに対しては、当初、別のサブシステムが計画されていたが、現在はインターネットの普及により博物館のホームページをもって代替運用している。

当システムは当館と県立歴史博物館が共同で開発を行い、2000年度および2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントマシンのWindows Updateが効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。2010年3月31日現在の、博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は100BASE-FX、10/100BASE-TXによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名	メモリ	数量	備考
		使用OS・ソフト等	ディスク容量		
CPU ルーム	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX300	4GB	1	収蔵資料管理システム(管理部)
		RedHat Linux ES3	146GB		
	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX600	1GB	4	収蔵資料管理システム(データ部)
		RedHat Linux ES3	36GB		
	展示情報サーバ	富士通 PRIMERGY RX300	2GB	1	展示情報システムの管理
		RedHat Linux ES3	72GB		
	WEB サーバ	富士通 PRIMERGY RX300	2GB	1	ホームページの管理
		RedHat Linux ES3	72GB		
	Mail サーバ	富士通 PRIMERGY RX300	2GB	1	メール情報の管理
		RedHat Linux ES3	72GB		
	Update サーバ	富士通 PRIMERGY BX620 S2	2GB	1	Windows Update の管理
		Windows 2003 Server SP1	73GB × 2		
	研究用 WS	富士通 CELSIUS N430	2GB	2	衛星画像処理や分布図の作成など
		WindowsXP Professional	160GB		
	職員用端末	富士通 FMV-E5210	1GB	2	
		WindowsXP Professional	160GB		
ミュージアムライブラリー	来館者用端末	富士通 FMV-E620	256MB	4	展示情報システムの閲覧など
		WindowsXP Professional	40GB		
	職員用端末	富士通 FMV-E5210 他	1GB	3	
		WindowsXP Professional 他	160GB		
研究室・バックヤード	画像入力用	富士通 CELSIUS N440	2GB	1	
		WindowsXP Professional	160GB		
	職員用端末	富士通 FMV-E630 他	1GB	21	
		WindowsXP Professional 他	160GB		

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

収蔵資料管理システムでは、これまで分野や個人ごとにカードやパソコン等で個別に管理されていた収蔵資料情報を、サーバと呼ばれるコンピュータで一元管理するとともに、資料の画像情報の管理も行う。このサブシステムは博物館情報システムの中核となるシステムであり、資料の受入からラベル等の印刷やダウンロードまでをカバーできる。

当サブシステムは、『神奈川県植物誌 1988』および『神奈川県植物誌 2001』の証拠標本を含む『維管束植物データベース』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真を属性情報とともにデータベース化した『魚類写真データベース』など、約 20 のデータベースから構成され、館外資料の情報を格納するデータベースも準備されている。2003 年度より、書籍（図書・雑誌）についても収蔵資料管理システムで取り扱われている。その登録状況を右表に示した。

またこれらの情報は、研究への利用はもちろん、一部ではあるがミュージアムライブラリーで公開されている。なお情報提供の項（70 ページ）の表に示したように、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

収蔵資料管理システムの登録実績

分野	2008 年度までの登録数	2009 年度の登録数	計
哺乳類	2,587	178	2,765
鳥類	1,547	76	1,623
魚類	23,249	2,908	26,157
魚類写真	77,800	4,025	81,825
昆虫	29,028	0	29,028
軟体動物	7,970	4,626	12,596
甲殻類	8,000	231	8,231
甲殻類細密画	300	48	348
両生・爬虫類	4	644	648
動物その他	56	0	56
維管束植物	227,041	5,429	232,470
コケ	2,841	0	2,841
菌類・地衣類	3,397	13,174	16,571
藻類	2,062	0	2,062
植物その他	7	0	7
植生	172	0	172
化石	8,838	1,331	10,169
岩石	3,578	2,266	5,844
鉱物	12,811	0	12,811
地質・ボーリング	2	0	2
衛星画像	743	36	779
衛星処理画像	129	0	129
景観画像	1,361	0	1,361
計	413,523	34,972	448,495
図書	16,182	531	16,713
雑誌	3,098	140	3,238
計	19,280	671	19,951

7.2.2. 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への欲求を持つ利用者に対して、研究に基づく博物館独自の新鮮な情報

を、検索システムにより分かりやすく提供している。下表のうち、「画像で見る歴史と文化」は県立歴史博物館の提供である。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、218 種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、2,990 種の画像や解説文を提供する。
	チョウ	神奈川に生息するチョウ、100 種の画像や解説文を提供する。
	トンボ	神奈川に生息するトンボ、79 種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329 種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、66 種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126 種の画像や解説文を提供する。
	関東ローム層	神奈川の主要な火山灰層、1,013 点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164 種の画像や解説文を提供する。
酒井コレクション細密画		酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660 種の画像を提供する。
日本で見られる恐竜		国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリーで所蔵している図書 16,713 冊、雑誌 3,238 タイトルが検索できるように提供している。
画像で見る歴史と文化	浮世絵	約 7,000 点ある博物館所蔵の浮世絵の中から、浮世絵の変遷、神奈川や横浜など身近な地域を描いたもの、有名な浮世絵師達の作品、江戸時代の風俗を描いたものなど、テーマ毎に選択した 230 点の浮世絵を紹介。
	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬、とても珍しい絵馬など 125 点を紹介
	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料 70 点を紹介
	水墨画	平成 10 年度、開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
	古地図	平成 9 年度、開催した古地図の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料 221 点を紹介。
	真葛焼	かつて世界に名を知られた横浜の焼き物の中から 46 点を紹介
	後北条関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などとともに紹介（118 点）。
	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記（1 点）を紹介。拡大画像は、Flash プログラムにより、さらに画像を拡大し、細部まで見る事が可能。
	神奈川の職人の道具	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」のうち、大山木地師・小田原物差職人・下駄職人・傘職人の道具（338 点）を紹介。

7.3. インターネットの利用

7.3.1. ホームページ

小田原市と共同で 1995 年 10 月より開設していた Web サイト（ホームページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006 年 2 月より博物館独自の運用に切り替えた。ホームページでは博物館に関する様々な情報を提供しているが、そのトップページへのアクセス数を示したのが下の表である。

1997 年度以降のアクセス実績に関しては、資料の項（87 ページ）に掲載した。

月別 Web トップページカウント数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
人数	13,374	16,241	14,482	19,499	23,293	17,184	16,240	13,204	11,230	16,388	15,478	19,352	195,965	16,330.4

7.3.2. 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館のデータベースサイトと連携して、魚類写真資料データベースは 2001 年より、FishPix は 2003 年より当館の魚類画像を公開している。

2004 年度以降のそれぞれのページへのアクセス実績（画像ダウンロード数は含まない）に関しては、資料の項（87 ページ）に掲載した。

連携して情報を公開している Web ページ

タイトル (HP アドレス)	概 要	年間アクセス件数
魚類写真資料データベース http://research.kahaku.go.jp/zoology/photoDB/	魚類 62,665 件の画像を提供している。研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	2,550,248 件
FishPix http://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	上記の英語版として、魚類 55,254 件を提供している。	2,517,896 件

7.4. 情報提供

7.4.1. 他サイトへの情報提供

当館が積極的に関わり情報を公開している Web サイトなどについて表にまとめた。

博物館の情報を公開している Web ページ

タイトル (HP アドレス)	概 要	提供件数
Fish Databases of Japan http://fishdb.kahaku.go.jp/cgi-bin/WebObjects/ichthy1.woa	国内 9 つの研究機関の所蔵標本を横断的に検索できるシステム。タイプ標本の画像表示や、標本の採集地を地図上に表示するシステムも含む。	7,893 件
Terra [地球] の資料館 http://www1.tecnet.or.jp/index01.html	固定型データベースとして、地球のからくり・神奈川の大地・地球地学紀行、増殖型データベースとして、身近な自然史・砂の自然史を公開。	約 2,500 件

7.4.2. GBIF への情報提供

GBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数は GBIF 全体では 1 億 8 千万以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データ整備事業では、S-Net (サイエンスミュー

ジウムネット) として国立科学博物館経由で GBIF に提供されたデータが国内向けに公開されている。

2006 年度より、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携をはかり、自然史標本情報の整備を行うなどを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員会」が設置されている。2009 年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全 5 館で、全体で 124,000 件の自然史標本情報の提供を行った。

2009 年度自然史標本データベース神奈川委員会参加館

厚木市郷土資料館
相模原市立博物館
平塚市博物館
横須賀市自然・人文博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの 2009 年度標本情報提供件数

コレクション名	提供件数
維管束植物標本	44,000 件
魚類コレクション	5,000 件
魚類写真資料データベース	22,000 件
甲殻類コレクション	3,000 件
哺乳類標本	1,000 件
合計	75,000 件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会 (WESKAMS)

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」と当館のよびかけのもとに 1996 年 7 月に発足したものである。会の愛称を WEST KANAGAWA MUSEUMS を略して「WESKAMS (ウエスカムズ)」と名付け、その事務局を当館においている。

[会議の開催]

WESKAMS の目的を達成させるための事業について、企画の方向性も含めて協議・検討する場として「館園長・協力者会議」を開催している。2009 年度は表のとおりである。

[ミュージアム・リレーの開催]

WESKAMS の連携・協力事業の1つとして、1997 年 10 月からミュージアム・リレーと名付けた活動を毎月1回、持ち回りで各館園をつなぎながら実施している。

会議の開催

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
7/17 (金)	館園長・協力会員 会議(第27回)	箱根ガラスの森 美術館	12 館園 22 名 協力会員 3 名
3/5 (金)	館園長・協力会員 会議(第28回)	生命の星・地球 博物館	17 館園 25 名 協力会員 4 名

当館での開催は3月5日に実施し、第 150 走(リレーなので走と数える)を迎えた。

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、博物館と友の会の共催による講演会形式の集いである。市民のみなさんが学芸員、研究者と気軽に交流できる場をつくることを目的としている。第1部の話題提供(講演)では、館長、学芸員や外部研究者等により研究活動、調査報告、博物館活動、最近のトピック等々の紹介がなされる。第2部の交流会では、第1部の話題提供に関連した資料等を話題にし、軽食を囲みながら参加者と話題提供者らが交流を深めることをねらいとしている。第1部の話題提供、第2部の交流会を併せてサロンと位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように話題提供者を含めた参加者みなさん、博物館スタッフのコミュニケーションを深める場をつくろうという試みです。

第 86 回サロン・ド・小田原「神奈川県植物誌の魅力」

[開催日] 2009 年 5 月 22 日(金曜)

[話題提供] 城川四郎氏(神奈川県植物誌調査会代表)

[会場] 生命の星・地球博物館講義室およびレストラン

[参加数者] 40 名

第 87 回サロン・ド・小田原「地球 46 億年の歴史を訪ねて」

[開催日] 2009 年 7 月 24 日(金曜)

[話題提供] 平田大二(生命の星・地球博物館学芸部長)

[会場] 小田原ラスカ Ume サロン

[参加数者] 36 名

第 88 回サロン・ド・小田原「樹洞さがしの旅から」

[開催日] 2009 年 9 月 12 日(土曜)

[話題提供] 広谷浩子(生命の星・地球博物館学芸員)

[会場] 生命の星・地球博物館講義室およびレストラン

[参加数者] 30 名

第 89 回サロン・ド・小田原「プラントハンター フォーリーの生涯」

[開催日] 2010 年 1 月 9 日(土曜)

[話題提供] 勝山輝男(生命の星・地球博物館学芸員)

[会場] 生命の星・地球博物館講義室およびレストラン

[参加数者] 44 名

第 90 回サロン・ド・小田原「しんかい 6500 潜行紀」

[開催日] 2010 年 3 月 20 日(土曜)

[話題提供] 山下浩之(生命の星・地球博物館学芸員)

[会場] 生命の星・地球博物館講義室およびレストラン

[参加数者] 74 名

8.3. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

ミュージアムショップ（1階）

“生涯学習施設としての博物館”におけるミュージアムショップなので、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、中国遼寧省やアメリカ・ユタ州の化石、アメジスト、水晶、メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。また、特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトにあわせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思って頂けるような空間づくりを実施している。

レストラン「フォーレ」（3階）

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」を癒し、

感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドイッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、老若男女に対応できる品揃えとなっている。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多く混雑するが、夏季期間中にテラスの部分を利用した野外席を用意し、混雑の緩和を図っている。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色をだすため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ「あーす」（1階）

「ともしびショップ」は、障害者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障害者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では4店目に当たる。

ショップ「あーす」は来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。



ミュージアムショップ



レストラン「フォーレ」



ともしびショップ「あーす」

III 資料

1. 条例・規則

1.1. 神奈川県立の博物館条例

神奈川県立の博物館条例

昭和 41 年 10 月 7 日

条例 43 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名称	位置	目的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 前 2 項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

- (1) 教育委員会が開催する行事に参加する者
- (2) 教育課程に基づく教育活動として入館する児童及び生徒の引率者
- (3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りではない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第 8 条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。
- (3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表(第 4 条関係)

	区分	個人	20 人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20 歳以上 65 歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1 人につき 300 円	1 人につき 250 円
	20 歳未満の者(高校生を除く。)	同	同
	学生(65 歳以上の者を除く。)	200 円	150 円
神奈川県立生命の星・地球博物館	65 歳以上の者	同	同
	高校生	100 円	100 円
	20 歳以上 65 歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1 人につき 510 円	1 人につき 400 円
	20 歳未満の者(高校生を除く。)	同	同
	学生(65 歳以上の者を除く。)	300 円	200 円
	65 歳以上の者	同	同
	高校生	100 円	100 円

備考 1 学生とは、法第 1 条に規定する大学及び高等専門学校、法第 124 条に規定する専修学校並びに法第 134 条第 1 項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第 1 条に規定する小学校、中学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

1.2. 神奈川県立の博物館組織規則

神奈川県立の博物館組織規則

昭和 41 年 11 月 18 日
教育委員会規則第 10 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第 2 条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第 3 条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関すること。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- (4) 人事に関すること。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- (6) 予算の経理に関すること。
- (7) 観覧料の徴収に関すること。
- (8) 物品の調達及び処分に関すること。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
- (10) その他他部課の主管に属しないこと。

(企画普及課の事務)

第 5 条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第 6 条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第 7 条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第 8 条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和 41 年 11 月 18 日
教育委員会規則第 9 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第 2 条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和 41 年神奈川県条例第 43 号。以下「条例」という。)第 4 条第 2 項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第 5 条の規定により観覧料を減免すること。
- (3) 条例第 6 条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。

- (4) 条例第 7 条の規定により利用を承認すること。
- (5) 条例第 8 条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第 3 条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規程する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第 4 条 開館時間は、次のとおりとする。

名称	開館時間
神奈川県立 歴史博物館	午前 9 時 30 分から午後 5 時まで。ただし、午後 4 時 30 分以降は、入館することができない。
神奈川県立 生命の星・ 地球博物館	午前 9 時から午後 4 時 30 分まで。ただし、午後 4 時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第 5 条 教育長は、博物館に展示している博物館資料を観覧するため、条例第 4 条の規定により観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

(観覧料の減免申請)

第 6 条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第 7 条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第 8 条 条例第 7 条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第 9 条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第 10 条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条の規定により文

部科学大臣の指定した博物館に相当する施設

- (2) 社会教育法(昭和 24 年法律第 207 号)第 21 条に規定する公民館

- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和 25 年法律第 118 号)第 2 条第 1 項に規定する図書館

- (4) 学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 1 条に規定する学校

- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第 11 条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30 日以内とする。ただし、教育長は特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であっても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第 12 条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第 13 条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第 14 条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行うことができない。

(委任)

第 15 条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

2. 館年表

2.1. 再編整備決定から開館まで

1986 年		4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定	10 月	第一期造成工事着手 建築実施設計着手 展示実施設計着手
1988 年		1992 年	
7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応大学名誉教授））から提言	6 月	第二期造成工事着手
1989 年		8 月	博物館情報システム開発プロポーザル実施 博物館情報システム開発調査設計着手
3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定 神奈川県立自然系博物館（仮称）展示計画策定	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置	1993 年	
11 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集委員会（委員長：上田誠也（東京大学名誉教授））発足	4 月	博物館情報システム開発着手
12 月	展示設計プロポーザル実施 展示基本設計着手	6 月	第三期造成工事着手
1990 年		1994 年	
2 月	建築設計プロポーザル実施 建築調査設計着手	6 月	第四期造成工事着手
3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる 神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集計画策定 博物館情報システム整備計画策定	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工 神奈川県立博物館条例一部改正
9 月	博物館情報システム実施計画策定	1995 年	
10 月	建築基本設計着手	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
1991 年		3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得	3 月 20 日	開館記念式典実施
		3 月 21 日	一般公開開始

2.2. 開館から 2009 年度末まで

1995 年		11 月 4 日	日本鱗翅学会創立 50 周年記念大会（11 月 5 日まで）
3 月 21 日	一般公開開始	11 月 10 日	1995 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
4 月 29 日	開館記念講演会「地球を歩いてみませんか」濱田隆士・中 雄一	1996 年	
5 月 7 日	入館者 10 万人到達（開館 41 日目）	2 月 28 日	1995 年度第 2 回神奈川県博物館協議会（当館）
6 月 22 日	紺綬褒章の伝達式（櫻井都美子・小泉明裕）	3 月 1 日	特別展「中津層出土のサル化石」（5 月 12 日まで）
9 月 6 日	ジブチ共和国大統領ご視察	3 月 20 日	開館 1 周年記念講演会「自然史（誌）系博物館の
9 月 24 日	入館者 30 万人到達（開館 158 日目）		
10 月 7 日	特別展「チョウとガの世界」（11 月 26 日まで）		

位置づけ」沼田 眞・中川志郎・濱田隆士
 4 月 シンボルマーク製作
 4 月 17 日 入館者 50 万人到達（開館 321 日目）
 6 月 1 日 学習指導員による団体サービス（ガイダンス）充実
 6 月 8 日 「新収集資料展」（6 月 23 日まで）
 7 月 20 日 特別展「追われる生きものたち」（9 月 23 日まで）
 9 月 ガイダンスビデオ製作
 10 月 24 日 1996 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
 12 月 20 日 「ゆく年くる年展」（1 月 31 日まで）

1997 年

3 月 1 日 エントランスガイダンス開始
 3 月 1 日 特別展「櫻井コレクションの魅力」（5 月 11 日まで）
 3 月 12 日 1996 年度第 2 回神奈川県博物館協議会
 3 月 20 日 開館 2 周年記念講演会「3 年目を迎える博物館の新しい活動・博物館をこんなふう利用してみませんか」浜口哲一・濱田隆士
 バリアフリー音声ガイドサービス開始
 3 月 21 日 日本植物分類学会第 27 回大会（3 月 23 日まで）
 7 月 20 日 特別展「地球再発見」（11 月 3 日まで）
 7 月 23 日 入館者 100 万人到達（開館 705 日目）
 11 月 12 日 1997 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
 11 月 15 日 日本鞘翅学会第 10 回記念大会（11 月 16 日まで）
 12 月 20 日 「ゆく年くる年展」（1 月 31 日まで）

1998 年

1 月 30 日 日本古生物学会 1998 年年会（2 月 1 日まで）
 2 月 1 日 特別展「フランチ・ヒルゲンドルフ展」(3 月 31 日まで)
 3 月 12 日 1997 年度第 2 回神奈川県博物館協議会
 3 月 21 日 開館 3 周年記念事業 生命の星・地球フェスタ'98」(3 月 29 日まで)
 3 月 30 日 天皇陛下・皇后陛下行幸啓
 4 月 4 日 日本動物分類学会第 34 回大会（4 月 5 日まで）
 4 月 25 日 企画展「植物画で観る山の花」（5 月 24 日まで）
 7 月 18 日 特別展「オオカミとその仲間たち」（9 月 27 日まで）
 8 月 26 日 日本第四紀学会 1998 年大会（8 月 28 日まで）
 9 月 12 日 中国遼寧省友好代表団来館
 10 月 24 日 企画展「ふれる彫刻展 Part 2」（11 月 23 日まで）
 10 月 29 日 1998 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
 11 月 3 日 入館者 150 万人到達（開館 1,090 日目）
 12 月 12 日 「新収集資料展」（1 月 10 日まで）

1999 年

1 月 30 日 特別展「カニの姿」（3 月 31 日）
 3 月 19 日 1998 年度第 2 回神奈川県博物館協議会
 3 月 20 日 「トーキングサイン・ガイドシステム」発表会
 4 月 24 日 企画展「北アルプスの四季」（5 月 30 日まで）
 7 月 17 日 特別展「海から生まれた神奈川」開催(9 月 5 日まで)
 8 月 4 日 中国科学院南京地質古生物学研究所所長ほか視察
 10 月 1 日 特別展「のぞいてみよう！5 億年前の海」（11 月 28 日まで）

11 月 6 日 日本蜻蛉学会大会（11 月 7 日まで）
 11 月 12 日 天皇陛下ご在位 10 周年慶祝事業 無料公開
 11 月 14 日 みなかんネットワーク大会
 11 月 25 日 1999 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
 11 月 27 日 常設展示化石標本 3 点の盗難を確認
 12 月 9 日 常設展示化石標本 10 点の盗難を確認
 12 月 11 日 企画展「カラー魚拓の世界」（1 月 16 日）

2000 年

3 月 18 日 開館 5 周年記念 活動報告展「開かれた博物館をめざして」（5 月 14 日）
 3 月 20 日 開館 5 周年記念講演会「博物館は宝の山」
 3 月 23 日 Xu Daosheng（湖北省博物館）・Jang, Sang-Hoon（韓国国立中央博物館）ほか視察
 3 月 31 日 濱田隆士館長退任
 4 月 1 日 青木淳一館長就任
 5 月 13 日 日本土壌動物学会第 23 回大会（5 月 14 日まで）
 7 月 15 日 特別展「サルがいて、ヒトがいて」（9 月 3 日まで）
 8 月 6 日 入館者 200 万人到達（開館 1,613 日目）
 9 月 23 日 企画展「切手で語る魚類の世界」（11 月 5 日まで）
 10 月 6 日 2000 年度日本魚類学会年会年会（10 月 9 日まで）
 10 月 15 日 200 万人達成記念展示「写真コンテスト応募作品」
 11 月 30 日 2000 年度第 1 回神奈川県博物館協議会

2001 年

2 月 10 日 特別展「ふしぎ大陸 南極展」（4 月 8 日）
 3 月 20 日 開館 6 周年記念講演会「自然史（誌）を楽しむ～いま箱根の自然は～」
 3 月 27 日 2000 年度第 2 回神奈川県博物館協議会
 3 月 27 日 神奈川県博物館協議会協議会を廃止
 4 月 15 日 青木淳一館長が南方熊楠賞を受賞
 7 月 20 日 特別展「神奈川の植物・その 10 余年の変化」（9 月 16 日まで）
 10 月 19 日 中国遼寧省職員視察
 10 月 20 日 特別展「地球を見る～宇宙からみた神奈川」（12 月 16 日まで）
 11 月 9 日 ミュージアム・リレー第 50 走達成記念講演会
 11 月 22 日 ミュージアム・リレー第 50 走達成記念シンポジウム
 11 月 23 日 日本蜻蛉学会（11 月 25 日まで）

2002 年

1 月 4 日 企画展「地球の息吹・富士彩彩」（1 月 27 日まで）
 2 月 16 日 企画展「みんなの手づくり恐竜展」（3 月 17 日まで）
 2 月 21 日 博物館課題研究会「博物館のめざすべき方向」
 3 月 19 日 箱根フリーパス対象施設に参加
 3 月 21 日 開館 7 周年記念シンポジウム「触まれるかながわの生物」
 4 月 27 日 「新収集資料展」（6 月 2 日まで）
 7 月 19 日 入館者 250 万人到達（開館 2,206 日目）
 250 万人達成感謝ウィーク
 7 月 20 日 特別展「人と大地と」（9 月 29 日まで）

7月21日	「自然を楽しむみち」案内板贈呈式	の企画普及課、情報資料課及び学芸部の2部3課となる。	
12月7日	特別展「ザ・シャーク」(3月2日)	斎藤靖二館長就任	
2003年		4月29日	活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月28日まで)
1月30日	博物館課題研究会「博物館の独立行政法人化の動きと現状について」	7月15日	特別展「ふしぎな生きもの 菌類」(11月5日まで)
3月11日	全国科学博物館協議会総会(3月12日まで)	7月8日	入館者350万人到達(開館3,409日目)
3月21日	ミュージ・フェスタ2003(3月22日まで)	7月17日	夏休み期間中無休(8月28日まで)
3月28日	青木淳一館長が小田原城下町大使に就任	11月12日	自然史学会連合講演会「教科書で学べない自然史」
4月26日	企画展「活動報告展・学芸員のお仕事」(6月8日まで)	12月9日	企画展「パノラマにつぼん」(2月25日まで)
7月19日	特別展「侵略とかく乱のはてに」(9月15日まで)	2007年	
7月20日	夏休み期間中、17時30分まで開館時間延長(8月31日まで)	2月28日	全国科学博物館協議会理事会総会
8月2日	日本蕨苔類学会(8月3日まで)	3月17日	ミュージ・フェスタ2007(3月18日まで)
8月12日	教育委員視察	3月17日	活動報告展「みんなの活動報告展」(5月6日まで)
10月25日	松沢成文知事来館	3月30日	博物館課題研究会
11月1日	特別展「丹沢の自然」(1月25日)	7月21日	特別展「ナウマンゾウがいた!」(11月4日まで)
2004年		7月21日	夏休み期間中無休(8月31日まで)
3月9日	博物館課題研究会「博物館評価の現状とその実例について」	12月8日	企画展「日本最後の秘境 南硫黄島」(2月24日まで)
3月20日	ミュージ・フェスタ2004(3月21日まで)	2008年	
4月24日	企画展「きのこアート展」(6月6日まで)	3月11日	博物館課題研究会
5月25日	入館者300万人到達(開館3,770日目)	3月15日	ミュージ・フェスタ2008(3月16日まで)
7月17日	特別展「東洋のガラパゴス 小笠原」(10月31日まで)	3月22日	子ども自然科学作品展(4月6日まで)
7月21日	夏休み期間中、17時30分まで開館時間延長(8月31日まで)	4月19日	活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月18日まで)
11月20日	日本鞘翅学会第17回大会(11月21日まで)	7月19日	特別展「箱根火山いま証される噴火の歴史」
12月18日	企画展「+2℃の世界」(2月27日まで)	8月12日	入館者400万人到達(開館4,062日目)
2005年		12月6日	企画展「46億年 地球のしごと」(2月22日まで)
3月8日	博物館課題研究会「指定管理者制度とその導入の動向について」	2009年	
3月20日	ミュージ・フェスタ2005(3月21日まで)	3月10日	博物館課題研究会「展示照明の現状と課題」
4月1日	「博物館10年の歩み」(4月10日まで)	3月14日	ミュージ・フェスタ2009(3月15日まで)
4月29日	「収蔵資料展」(5月29日まで)	3月20日	子ども自然科学作品展(4月5日まで)
7月16日	特別展「化石どうぶつ園」(11月6日まで)	4月18日	活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月31日まで)
7月18日	夏休み期間中無休(8月29日まで)	7月18日	特別展「木の洞をのぞいてみたら」(11月8日まで)
12月10日	企画展「丹沢〜むかし・今・あした〜」(2月12日まで)	7月20日	夏休み期間中無休(8月31日まで)
2006年		12月5日	企画展「押し葉 古瀬 義 植物標本コレクション」(2月21日まで)
1月14日	ミュージアム・リレー第100走達成記念行事(1月15日まで)	2010年	
3月23日	博物館課題研究会「指定管理者の指定を受けて」	3月13日	ミュージ・フェスタ2010(3月14日まで)
3月18日	ミュージ・フェスタ2006(3月19日まで)	3月20日	子ども自然科学作品展(4月4日まで)
3月18日	「マイミュージアム・みんなの活動報告・マイミュージアム写真展」(4月10日まで)		
3月31日	青木淳一館長退任		
4月1日	管理部と経理課が廃止され、管理課、企画情報部		

3. 統計資料

3.1. 利用者状況

3.1.1. 2009 年度の入館者状況

月		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
開館日数		26	25	22	28	31	25	27	24	24	24
入館者数											
有料入館者	成年個人	4,021	6,469	3,051	5,591	11,694	4,181	3,608	3,547	2,227	4,421
	同上特展のみ	0	0	0	141	367	118	105	35	0	0
	未成年・学生個人	126	177	77	141	483	284	125	98	105	113
	同上特展のみ	0	0	0	2	14	31	2	7	0	0
	高校生				143	495	110	72	53	60	84
	同上特展のみ				1	10	7	1	1	0	0
	65 歳以上				1,674	2,453	1,269	1,767	2,062	1,172	954
	同上特展のみ				28	90	38	53	5	0	0
	成年団体	46	301	246	281	190	291	321	591	96	79
	未成年・学生団体	0	0	15	0	23	45	0	90	0	0
	成年割引	104	213	72	445	999	469	196	216	184	267
	未成年・学生割引	3	5	1	11	103	71	12	13	16	25
	小計	4,300	7,165	3,462	8,458	16,921	6,914	6,262	6,718	3,860	5,943
	園児	1,136	1,959	963	4,080	3,348	1,594	1,459	1,333	661	1,520
無料入館者	小学生	4,373	9,670	3,977	5,671	8,009	3,595	10,018	6,922	2,157	2,598
	中学生	506	1,925	437	1,443	1,959	233	702	732	337	158
	高校生	668	207	397	55	20	67	51	692	2	2
	65 歳以上	1,971	2,036	1,657	27	106	25	24	160	25	0
	障害者	353	466	588	733	827	566	803	869	359	439
	その他	1,685	1,722	992	1,862	2,452	1,449	2,181	2,152	864	286
	小計	10,692	17,985	9,011	13,871	16,721	7,529	15,238	12,860	4,405	5,003
合計		14,992	25,150	12,473	22,329	33,642	14,443	21,500	19,578	8,265	10,946
1 日平均 (人)		576.6	1,006.0	567.0	797.5	1,085.2	577.7	796.3	815.8	344.4	456.1
前年比 (%)		76.6	86.0	52.8	116.1	86.4	98.3	81.5	86.7	93.2	113.4
特別展示室の入室者数											
有料	成年				2,336	7,177	2,409	2,118	565		
	未成年・学生				55	316	214	77	31		
	高校生				53	264	74	39	13		
	65 歳以上				512	1,479	536	689	152		
	小計				2,956	9,236	3,233	2,923	761		
無料		4,608	12,880		9,043	23,957	10,640	15,689	4,316	2,647	3,621
合計		4,608	12,880		11,999	33,193	13,873	18,612	5,077	2,647	3,621

(右ページへ続く)

3.1.2. 2009 年度特別展示室入場者状況

企画名	期間	日数	入場者数						
			有料					無料	計
			20 歳以上 学生を除く	20 歳未満 学生	高校生	65 歳以上	小計		
子ども自然科学作品展 (2008 年度)	4/1 (水) ～ 4/5 (日)	5						1,136	1,136
学芸員の活動報告展	4/18 (土) ～ 5/31 (日)	37						16,352	16,352
木の洞をのぞいてみたら ～樹洞の生きものたち～	7/18 (土) ～ 11/8 (日)	105	29,210	1,386	886	6,736	38,218	63,645	101,863
押し葉 ～古瀬 義 植物標本コレクション～	12/5 (土) ～ 2/21 (日)	60						9,553	9,553
子ども自然科学作品展 (2009 年度)	3/20 (土) ～ 3/31 (水)	11						3,489	3,489
計		218	29,210	1,386	886	6,736	38,218	94,175	132,393

月		2月	3月	計	1日平均	構成比	前年比	累計(*)	1日平均	構成比
開館日数		24	26	306				4,562		
入館者数					(人)	(%)	(%)		(人)	(%)
有料入館者	成年個人	4,231	6,658	59,699	195.1	27.4	94.6	1,421,729	311.6	32.6
	同上特展のみ	0	0	766	2.5	0.4	103.5	24,862	5.4	0.6
	未成年・学生個人	232	380	2,341	7.7	1.1	104.6	50,324	11.0	1.2
	同上特展のみ	0	0	56	0.2	0.0	105.7	1,375	0.3	0.0
	高校生	82	272	1,371	4.5	0.6		1,371	0.3	0.0
	同上特展のみ	0	0	20	0.1	0.0		20	0.0	0.0
	65歳以上	1,527	2,740	15,618	51.0	7.2		15,618	3.4	0.4
	同上特展のみ	0	0	214	0.7	0.1		214	0.1	0.0
	成年団体	197	180	2,819	9.2	1.3	105.3	143,008	31.3	3.3
	未成年・学生団体	0	9	182	0.6	0.1	123.8	5,763	1.3	0.1
	成年割引	316	571	4,052	13.2	1.9	117.7	31,302	6.9	0.7
	未成年・学生割引	89	141	490	1.6	0.2	117.5	3,391	0.7	0.1
	小計	6,674	10,951	87,628	286.4	40.3	120.4	1,698,977	372.4	39.0
	無料入館者	園児	2,297	2,987	23,337	76.3	10.7	98.0	342,688	75.1
小学生		2,762	3,920	63,672	208.1	29.2	93.2	1,117,092	244.9	25.7
中学生		230	573	9,235	30.2	4.2	96.1	204,232	44.8	4.7
高校生		39	90	2,290	7.5	1.1	43.3	119,499	26.2	2.7
65歳以上		28	65	6,124	20.0	2.8	23.0	496,927	108.9	11.4
障害者		528	674	7,205	23.5	3.3	100.3	118,994	26.1	2.7
その他		974	1,580	18,199	59.5	8.4	98.4	257,794	56.5	5.9
小計		6,858	9,889	130,062	425.0	59.7	81.6	2,657,226	582.5	61.0
合計		13,532	20,840	217,690	711.4	100.0	93.8	4,354,681	954.6	100.0
1日平均(人)		563.8	801.5	711.4	(*) 一般公開開始(1995年3月21日)からの累計					
前年比(%)		119.2	108.5	93.8						
特別展示室の入室者数										
有料	成年			14,605	入館者数記録 最高入館者数： 2,039人 4月24日(木) 最低入館者数： 130人 6月10日(火)					
	未成年・学生			693						
				443						
				3,368						
	小計			19,109						
無料		3,285		84,418						
計		3,285	0	103,527						

3.1.3. その他の博物館利用者

施設利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ライブラリー利用者	7,257	10,212	5,722	9,668	13,417	5,852	7,759	6,510	3,674	4,852	5,393	7,054	87,370
講座・講演会	292	440	224	177	619	231	189	203	241	17	208	333	3,174
サロン・ド・小田原		40		36		30				44		74	224
研修・実習・学校	0	60	266	181	190	333	517	180	259	36	34	317	2,373
その他	75					0	283	27			60	4,128	4,573
計	7,624	10,752	6,212	10,062	14,226	6,446	8,748	6,920	4,174	4,949	5,695	11,906	97,714

- ・「講座・講演会」には、博物館主催または共催の講座や講演会、友の会主催または共催の講座や講演会など、観覧券の発券を伴わない利用者を含む。
- ・「研修・実習・学校」には、職場体験研修、新採用研修、博物館実習や、学校の課外活動など、観覧券の発券を伴わない利用者を含む。
- ・「その他」には、ミュージ・フェスタの参加者および、博物館が開催に協力した各種催し物の利用者の人数を示した。
- ・利用人数は、実際に利用した人数(延べ人数)によって算出している(3日間の講座で各日40人参加した場合、120人と算出)。

3.2. 入館者実績

年度		1994 年度	1995 年度	1996 年度	1997 年度	1998 年度	1999 年度	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度
開館日数		10	297	301	301	299	298	301	307	307	303
有料入館者	成年個人	10,541	176,762	138,362	131,314	121,257	98,259	88,236	82,620	84,153	84,090
	同上特展のみ			1,725	1,614	1,297	1,005	2,413	2,406	4,114	2,118
	未成年・学生個人	501	5,365	4,942	5,190	4,470	3,497	3,181	2,826	2,918	2,588
	同上特展のみ			66	70	61	43	123	101	352	123
	高校生										
	同上特展のみ										
	65歳以上										
	同上特展のみ										
	成年団体	177	18,745	20,670	19,615	16,159	13,232	10,534	7,784	7,761	6,509
	未成年・学生団体	23	629	496	431	1,119	523	394	204	377	214
	成年割引				93	138	63	68	239	3,428	4,258
	未成年・学生割引				18	2	1	5	29	281	458
	小計	11,242	201,501	166,261	158,345	144,503	116,623	104,954	96,209	103,384	100,358
無料入館者	園児	2,078	27,035	22,416	25,164	26,034	21,311	19,741	18,829	22,267	22,384
	小学生	5,921	90,094	80,892	82,556	81,453	75,182	72,144	69,195	71,091	79,289
	中学生	1,095	23,232	20,076	19,751	15,591	13,965	12,234	11,260	12,992	11,165
	高校生	470	12,341	14,130	12,493	10,068	7,892	7,167	7,510	7,014	6,678
	65歳以上	1,811	49,686	52,755	50,878	45,155	38,380	33,293	29,579	29,868	28,599
	障害者	235	10,535	8,991	8,776	8,555	6,615	7,284	8,899	7,818	8,117
	その他	1,522	38,786	28,411	19,224	18,066	15,150	13,349	12,997	13,191	12,261
	小計	13,132	251,709	227,671	218,842	204,922	178,495	165,212	158,269	164,241	168,493
計		24,374	453,210	393,932	377,187	349,425	295,118	270,166	254,478	267,625	268,851
平均入館者数		2,437.4	1,526.0	1,308.7	1,253.1	1,168.6	990.3	897.6	828.9	871.7	887.3
指数 (95 年度 = 100)		5.4	100.0	86.9	83.2	77.1	65.1	59.6	56.2	59.1	59.3
最高入館者数 日付			6,152	5,007	4,148	4,221	3,324	3,110	2,722	2,899	2,899
最低入館者数 日付			5/4	5/5	5/4	5/3	5/4	7/25	4/30	5/31	8/17
			148	147	94	153	107	113	72	149	91
			1/12	12/24	1/15	1/14	1/14	2/6	9/11	12/10	12/18

(右ページへ続く)

年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	計	比率 (%)	
開館日数	299	305	309	311	308	306	4,562		
有料入館者	成年個人	73,639	69,510	73,266	66,940	63,081	59,699	1,421,729	32.65
	同上特展のみ	1,140	1,818	1,911	1,795	740	766	24,862	0.57
	未成年・学生個人	2,591	2,426	2,562	2,433	2,239	2,341	50,070	1.15
	同上特展のみ	75	68	125	59	53	56	1,375	0.03
	高校生						1,371	1,371	0.03
	同上特展のみ						20	20	0.00
	65歳以上						15,618	15,618	0.36
	同上特展のみ						214	214	0.01
	成年団体	5,011	4,201	4,126	3,243	2,676	2,819	143,262	3.29
	未成年・学生団体	242	304	235	242	147	182	5,762	0.13
	成年割引	4,178	3,806	3,688	3,847	3,444	4,052	31,302	0.72
	未成年・学生割引	416	422	400	453	417	490	3,392	0.08
	小計	87,292	82,555	86,313	79,012	72,797	87,628	1,698,977	39.01
無料入館者	園児	19,999	21,090	23,182	24,015	23,806	23,337	342,688	7.87
	小学生	73,015	67,324	68,475	68,457	68,332	63,672	1,117,092	25.65
	中学生	9,253	11,406	12,044	11,321	9,612	9,235	204,232	4.69
	高校生	8,050	6,617	6,862	4,631	5,286	2,290	119,499	2.74
	65 歳以上	26,751	26,968	26,683	23,733	26,664	6,124	496,927	11.41
	障害者	6,853	7,753	7,346	6,832	7,180	7,205	118,994	2.73
	その他	11,155	10,299	10,644	14,649	18,369	18,199	256,272	5.88
	小計	155,076	151,457	155,236	153,638	159,249	130,062	2,655,704	60.99
計	242,368	234,012	241,549	232,650	232,046	217,690	4,354,681	100.00	
平均入館者数	810.6	767.3	781.7	748.1	753.4	711.4	954.6		
指数 (95 年度 = 100)	53.5	51.6	53.3	51.3	51.2	48.0			
最高入館者数 日付	2,979	2,482	2,316	2,681	2,039	2,836	6,152		
	5/4	10/27	7/23	10/26	4/24	5/5	95/5/4		
最低入館者数 日付	83	77	72	66	130	106	66		
	1/14	12/20	1/12	1/9	6/10	12/4	08/1/9		

3.3. 特別展・企画展開催実績

年度	種別	タイトル	開期	日数	入館者		
					有料	無料	計
1995	特別展	チョウとガの世界	1995 年 10 月 7 日～11 月 26 日	41	3,247	13,655	16,902
1996	特別展	日本最古の霊長類・中津層出土のサル化石	1996 年 3 月 1 日～5 月 12 日	63	—	94,566	94,566
	企画展	新収資料展	1996 年 6 月 8 日～6 月 23 日	13	—	10,501	10,501
	特別展	追われる生きものたち	1996 年 7 月 20 日～9 月 23 日	58	19,011	33,475	52,486
	企画展	文化財保護ポスター展	1996 年 12 月 5 日～12 月 15 日	10	—	1,471	1,471
	企画展	ゆく年くる年展	1996 年 12 月 20 日～1997 年 1 月 31 日	30	—	10,194	10,194
	特別展	櫻井コレクションの魅力 —偉大なアマチュア自然科学者の軌跡—	1997 年 3 月 1 日～5 月 11 日	61	—	40,848	40,848
1997	企画展	ふれる彫刻 100 展	1997 年 5 月 23 日～6 月 22 日	25	—	—	—
	特別展	地球再発見—新しい地球像をもとめて—	1997 年 7 月 20 日～11 月 3 日	92	18,033	46,886	64,919
	企画展	文化財保護ポスター展	1997 年 12 月 6 日～12 月 14 日	8	—	—	—
	企画展	新収集資料展	1997 年 11 月 15 日～11 月 24 日	9	—	6,374	6,374
	企画展	ゆく年くる年展	1997 年 12 月 20 日～1998 年 1 月 11 日	12	—	2,997	2,997
	特別展	日本の魚学・水産学事始め —フランチ・ヒルゲンドルフ展—	1998 年 2 月 1 日～3 月 31 日	48	1,557	7,398	8,955
1998	企画展	植物画で観る山の花—小林政紘作品集より—	1998 年 4 月 25 日～5 月 24 日	26	—	13,375	13,375
	特別展	オオカミとその仲間たち—イヌ科動物の世界—	1998 年 7 月 18 日～9 月 27 日	61	17,714	30,588	48,302
	企画展	ふれる彫刻 Part 2 —地球の心を彫る！	1998 年 10 月 24 日～11 月 23 日	26	—	14,316	14,316
	企画展	新収集資料展	1998 年 12 月 12 日～1999 年 1 月 10 日	12	—	4,168	4,168
	特別展	カニの姿—酒井コレクションから—	1999 年 1 月 30 日～3 月 31 日	51	3,746	14,228	17,974
1999	企画展	北アルプスの四季—岳をめぐりて	1999 年 4 月 24 日～5 月 30 日	32	—	15,119	15,119
	特別展	海から生まれた神奈川 —伊豆・小笠原弧の形成と活断層—	1999 年 7 月 17 日～9 月 5 日	43	8,585	16,807	25,392
	特別展	のぞいてみよう！5 億年前の海 —三葉虫が見た世界—	1999 年 10 月 1 日～11 月 28 日	49	4,690	21,470	26,160
	企画展	カラー魚拓の世界	1999 年 12 月 11 日～2000 年 1 月 16 日	24	—	6,082	6,082
	企画展	平成 11 年度活動報告展 開かれた博物館をめざして —生命の星・地球博物館の 5 年間の歩み—	2000 年 3 月 18 日～5 月 14 日	52	—	17,647	17,647
2000	特別展	サルがいて、ヒトがいて —野生動物との共存を考える—	2000 年 7 月 15 日～9 月 3 日	43	9,949	24,359	34,308
	企画展	切手で語る魚類の世界	2000 年 9 月 23 日～11 月 5 日	42	—	11,797	11,797
	企画展	田中茂穂博士と魚学研究ゆかりの品々	2000 年 10 月 7 日～10 月 8 日	2	—	600	600
	特別展	ふしぎ大陸 南極展	2001 年 2 月 10 日～4 月 8 日	49	2,141	11,643	13,784
2001	特別展	神奈川の植物 その 10 余年の変化	2001 年 7 月 20 日～9 月 16 日	51	6,197	10,886	17,083
	特別展	地球を見る～宇宙から見た神奈川～	2001 年 10 月 20 日～12 月 16 日	50	6,511	13,628	20,139
	企画展	地球の息吹 富士彩々	2002 年 1 月 4 日～1 月 27 日	22	—	7,708	7,708
	企画展	みんなの手づくり恐竜展	2002 年 2 月 16 日～3 月 17 日	25	—	14,003	14,003
2002	企画展	神奈川の自然を蝕む移入生物たち	2002 年 3 月 21 日～4 月 21 日	26	—	13,029	13,029
	企画展	新収資料展	2002 年 4 月 27 日～6 月 2 日	34	—	3,363	3,363
	特別展	人と大地と— Wonderful Earth —	2002 年 7 月 20 日～9 月 29 日	64	12,891	23,674	36,565
	特別展	ザ・シャーク ～鯨の進化と適応・ケースコレクションより～	2002 年 12 月 7 日～2003 年 3 月 2 日	68	11,840	19,211	31,051
2003	企画展	日本の自然にヘラクレスはいる —移入昆虫がもたらす諸問題を考える—	2003 年 3 月 21 日～4 月 6 日	17	—	9,442	9,442
	企画展	友の会活動報告および活動紹介展					
	企画展	活動報告展—学芸員のお仕事	2003 年 4 月 26 日～6 月 8 日	38	—	18,711	18,711
	特別展	侵略とかく乱のはてに—未来へつなげる自然とは—	2003 年 7 月 19 日～9 月 15 日	51	14,109	25,477	39,586
	特別展	丹沢の自然	2003 年 11 月 1 日～2004 年 1 月 25 日	69	6,186	11,376	17,562
	企画展	きらわれものだよ、全員集合！ —きらわれものたちの意外な素顔—	2004 年 3 月 20 日～4 月 4 日	14	—	8,263	8,263
2004	企画展	博物館友の会活動報告および活動紹介展					
	企画展	活動報告展—学芸員の腕自慢	2004 年 4 月 24 日～6 月 6 日	33	—	28,714	28,714
	企画展	きのこアート展					
	特別展	東洋のガラパゴス 小笠原 —固有生物の魅力とその危機—	2004 年 7 月 17 日～10 月 31 日	93	17,602	31,862	49,464
	企画展	+2℃の世界～縄文時代に見る地球温暖化～	2004 年 12 月 18 日～2005 年 2 月 27 日	56	—	23,669	23,669
	企画展	博物館 10 年の歩み・友の会活動紹介	2005 年 3 月 20 日～4 月 10 日	20	—	5,180	5,180
2005 (続く)	企画展	収蔵資料展	2005 年 4 月 29 日～5 月 29 日	26	—	15,925	15,925
	特別展	化石どうぶつ園—北アメリカ漸新世の哺乳類—	2005 年 7 月 16 日～11 月 6 日	105	22,243	54,988	77,231

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

年度	種別	タイトル	開期	日数	入館者		
					有料	無料	計
2005	企画展	丹沢～むかし・今・あした～	2005 年 12 月 10 日～2006 年 2 月 12 日	51	—	14,785	14,785
(続き)	企画展	マイミュージアム・みんなの活動報告展	2006 年 3 月 18 日～4 月 9 日	19	—	9,997	9,997
2006		・マイミュージアム写真展					
	企画展	学芸員の活動報告展	2006 年 4 月 29 日～5 月 28 日	26	—	12,716	12,716
	特別展	ふしぎな生きもの菌類—動物?植物?それとも?—	2006 年 7 月 15 日～11 月 5 日	106	18,408	54,099	72,507
	企画展	パノラマにっぽん 地球観測衛星の魅力	2006 年 12 月 9 日～2007 年 2 月 25 日	64	—	15,939	15,939
	企画展	みんなの活動報告展	2007 年 3 月 17 日～5 月 6 日	45	—	16,883	16,883
2007	特別展	ナウマンゾウがいた! ～温暖期の神奈川～	2007 年 7 月 21 日～11 月 4 日	100	20,016	57,007	77,023
	企画展	日本最後の秘境 南硫黄島	2007 年 12 月 8 日～2008 年 2 月 24 日	65	—	24,476	24,476
2008	企画展	学芸員の活動報告展	2008 年 4 月 19 日～5 月 18 日	27	—	15,041	15,041
	特別展	箱根火山 いま証される噴火の歴史	2008 年 7 月 19 日～11 月 19 日	106	20,312	44,001	64,313
	企画展	46 億年 地球の仕事 ～地質写真家がみた世界の地形～	2008 年 12 月 6 日～2009 年 2 月 22 日	62	—	14,954	14,954
2009	企画展	学芸員の活動報告展	2009 年 4 月 18 日～5 月 31 日	37	—	16,352	16,352
	特別展	木の洞をのぞいてみたら～樹洞の生きものたち～	2009 年 7 月 18 日～11 月 8 日	105	19,109	84,418	103,527
	企画展	押し葉 古瀬 義 植物標本コレクション	2009 年 12 月 5 日～2010 年 2 月 21 日	60	—	9,553	9,553

3.4. 資料登録実績

分野	1994 年度	1995 年度	1996 年度	1997 年度	1998 年度	1999 年度	2000 年度	2001 年度	2002 年度
哺乳類		1,432	65	1	0	0	0	417	170
鳥類									
魚類		846	733	3,108	1,621	640	428	1,343	1,722
魚類写真	1345	* 6,248	3,492	5,364	6,005	6,440	7,110	3,402	7,211
昆虫		26,839	817	742	623	6	0	0	0
軟体動物		3,390	1	114	705	2,616	0	36	147
甲殻類		0	0	0	4,218	0	12	0	0
甲殻類細密画									
両生・爬虫類									
動物その他		0	0	0	28	4	2	11	0
維管束植物		167,334	2,310	4,003	4,494	5,352	3,754	0	1,333
コケ		2,670	14	83	6	7	61	0	0
菌類・地衣類		0	2	459	218	1,717	1,001	0	0
藻類									
植物その他		0	0	5	0	0	2	0	0
植生									10
化石		2,220	3,477	21	594	2,304	0	72	24
岩石		0	492	259	52	32	0	0	1,173
鉱物		181	0	92	0	0	0	0	1,472
地質・ボーリング		1	0	0	0	0	0	0	0
衛星画像									
衛星処理画像									
景観画像									
小計	1345	211,161	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262
図書									
雑誌									
小計									
計	1345	211,161	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262

* 1995 年度の魚類写真の登録件数は、1994 年度の登録件数と分割して掲載したため、年報第 13 号までの数値とは異なる。

分野	2003 年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	合計
哺乳類			64	194	634	482	178	2,765
鳥類	8	21	4	149	212	281	76	1,623
魚類	879	1,635	2,583	3,127	2,377	2,207	2,908	26,157
魚類写真	13,361	3780	813	1,986	6,253	4,990	4,025	81,825
昆虫	0	0	1	0	0	0	0	29,028
軟体動物	9	93	12	397	136	314	4,626	12,596
甲殻類	0	15	439	559	1,520	1,237	231	8,231
甲殻類細密画			6	142	152	0	48	348
両生・爬虫類						4	644	648
動物その他	0	0	0	0	8	3	0	56
維管束植物	1,281	1,507	1,981	9,879	10,136	13,677	5,429	232,470
コケ	0	0	0	0	0	0	0	2,841
菌類・地衣類	0	0	0	0	0	0	13,174	16,571
藻類						2,062	0	2,062
植物その他	0	0	0	0	0	0	0	7
植生	40	64	0	58	0	0	0	172
化石	3	0	86	1	17	19	1,331	10,169
岩石	128	0	434	0	0	1,008	2,266	5,844
鉱物	0	0	5	11,061	0	0	0	12,811
地質・ボーリング	0	0	0	1	0	0	0	2
衛星画像	401	0	27	0	234	81	36	779
衛星処理画像				70	42	17	0	129
景観画像				378	983	0	0	1,361
小計	16,110	7,115	6,455	28,002	22,704	26,382	34,972	448,495
図書	11,355	886	772	900	970	1,299	531	16,713
雑誌	2,730	95	51	58	107	57	140	3,238
小計	14,085	981	823	958	1,077	1,356	671	19,951
計	30,195	8,096	7,278	28,960	23,781	27,738	35,643	468,446

3.5. ホームページアクセス実績

月\年度	1994 年度	1995 年度	1996 年度	1997 年度	1998 年度	1999 年度	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度
4 月				186	1,237	2,574	3,549	*	7,541	11,979
5 月				282	1,916	2,908	4,954	5,211	8,468	11,848
6 月				441	1,598	2,885	4,709	5,852	*	14,055
7 月				655	1,807	2,334	4,836	8,717	9,025	16,531
8 月				774	1,847	4,083	6,514	*	15,503	20,083
9 月				683	1,960	3,197	5,412	*	11,642	12,989
10 月				497	1,784	3,070	6,496	7,801	9,031	14,232
11 月				513	1,721	3,137	5,280	8,632	7,231	11,960
12 月				582	1,648	3,116	4,486	6,154	7,414	9,984
1 月				919	1,913	3,781	6,052	7068	11,210	11,551
2 月				834	1,954	3,623	6,053	6,471	12,125	9,583
3 月				1,136	2,413	3,845	5,878	5,319	11,185	9,405
計				7,502	21,798	38,553	64,219	61,225	110,375	154,200
1 日平均				20.55	59.72	105.34	175.94	223.45	329.48	421.31

* 2001 年 4・8・9 月と 2002 年 6 月はマシントラブルのためカウントできなかった。

月\年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
4 月	11,071	15,489	15,131	15,404	17,371	13,374	
5 月	13,215	11,870	15,950	16,176	18,322	16,241	
6 月	15,225	14,086	12,910	14,200	15,401	14,482	
7 月	14,975	14,781	16,799	19,207	18,089	19,499	
8 月	16,654	19,838	22,899	25,040	26,442	23,293	
9 月	13,885	13,081	17,050	17,456	16,232	17,184	
10 月	13,843	14,690	17,037	18,089	16,157	16,240	
11 月	12,685	10,995	13,615	14,307	13,131	13,204	
12 月	11,129	9,720	11,474	12,054	11,249	11,230	
1 月	12,471	12,993	14,008	15,464	13,281	16,388	
2 月	11,680	11,580	13,607	14,965	12,386	15,478	
3 月	10,523	13,494	13,934	16,465	14,377	19,352	
計	157,356	162,617	184,414	198,827	192,438	195,965	1,549,489
1 日平均	431.11	445.53	505.24	543.24	527.23	536.89	

魚類写真資料データベースのアクセス実績

月\年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
4 月	47,255	46,780	45,922	57,539	137,916	150,817	
5 月	74,039	104,956	58,909	71,761	150,828	195,644	
6 月	91,066	69,723	122,279	78,758	178,587	200,873	
7 月	67,637	70,072	69,243	81,354	159,772	234,499	
8 月	83,478	65,143	88,351	74,106	176,301	253,014	
9 月	73,094	62,263	67,073	124,548	181,762	264,911	
10 月	75,888	58,384	72,178	80,681	181,160	229,439	
11 月	96,733	52,493	119,373	67,337	210,195	204,631	
12 月	62,898	46,019	183,592	59,725	176,321	224,470	
1 月	71,109	51,530	131,002	74,547	189,893	189,218	
2 月	52,646	50,628	57,062	89,859	180,884	192,874	
3 月	52,297	69,560	92,281	135,013	167,672	209,858	
計	848,140	747,551	1,107,265	995,228	2,091,291	2,550,248	8,339,723
1 日平均	2,323.67	2,048.08	3,033.60	2,719.20	5,729.56	6,986.98	

FishPix のアクセス実績

月\年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
4 月	2,582	3,628	6,025	23,322	93,407	198,882	
5 月	1,815	3,241	19,151	20,875	97,873	190,396	
6 月	1,632	2,847	26,860	11,711	105,304	193,091	
7 月	2,256	3,085	5,211	36,591	105,263	245,872	
8 月	2,325	3,552	6,187	17,546	72,746	243,776	
9 月	2,594	11,439	11,383	13,313	99,085	256,904	
10 月	3,014	12,151	5,025	13,082	111,006	168,057	
11 月	1,886	19,552	31,976	12,701	152,864	203,718	
12 月	2,023	11,909	115,316	15,835	138,370	224,076	
1 月	2,977	10,533	77,525	27,230	159,608	199,485	
2 月	2,845	6,826	11,527	35,556	243,747	177,801	
3 月	3,843	22,504	48,529	103,001	332,195	215,838	
計	29,792	111,267	364,715	330,763	1,711,468	2,517,896	5,065,901
1 日平均	81.62	304.84	999.22	903.72	4,688.95	6,898.35	

4. 調査研究関連資料

4.1. 研究成果

葉山ー嶺岡構造帯の地球科学的研究～神奈川最古の岩石を探る～

〔研究の種類〕 博物館基礎研究（総合研究）

〔研究期間〕 2007～2010 年度（4 年計画の 3 年目）

〔研究担当者〕 平田大二・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子・高橋直樹・河尻清和・谷口英嗣・蛸子貞二・川手新一・小田原啓・柴田健一郎

〔研究内容〕

三浦半島中央部の葉山から横須賀にかけて、さらに房総半島中央部の嶺岡山地にかけて続く隆起帯は葉山ー嶺岡構造帯とよばれており、5000 万～1500 万年前に形成された堆積岩類と、4500 万～4000 万年前に噴出した玄武岩質枕状溶岩、4000 万年前から 1600 万年前に形成された石灰岩、2000 万年前に形成された安山岩、時代未祥の蛇紋岩などのさまざまな岩石が複雑に入り混じって分布している。

本研究においては、房総半島の超苦鉄質岩体の岩石学的検討や、三浦半島の葉山層群や小仏山地の相模湖層群・小仏層群、および大磯丘陵の新第三系のジルコン年代測定や、葉山ー嶺岡構造帯とその西方延長である大磯丘陵、相模湖層群および小仏層群（四十万帯）の岩石類の分布と記載、年代論など再確認を進めている。

1) ジルコン年代測定用の凝灰岩試料については、三浦半島の葉山層群と小仏山地の相模湖層群および小仏層群、大磯丘陵の高麗山層群について収集を行い、ジルコン試料の抽出とウランー鉛年代の測定を実施中である。今後、房総半島の鴨川層群、嶺岡層群の試料収集と年代測定を実施する計画である。

2) 三浦半島の葉山層群中に、これまでは報告されていない火成岩礫を発見した。その岩石学的検討を進めている。関東地方の基盤岩類との比較検討を予定している。

3) 数値情報地図 (DEM) を使い、地表面の傾斜量を表現した傾斜量図の作成した。今後、断層分布や地質図等の他のデータとのレイヤーリング作業を行い、当該地域の隆起変動地形について判読を行う。

なお、本研究は生命の星・地球博物館外の研究者との共同研究として進めており、その成果を 2010 年度開催予定の日本列島形成史をテーマとした特別展にて公開するとともに、関係博物館等の展示や普及事業等においても活用する予定である。

神奈川県植物相の特徴と変遷に関する研究
一次の「神奈川県植物誌」へ向けてー

〔研究の種類〕 博物館基礎研究（グループ研究）

〔研究期間〕 2007～2009 年度（3 年計画の 3 年目）

〔研究担当者〕 田中徳久・勝山輝男

〔研究内容〕

総合研究「神奈川県植物誌 2001」により収集された膨大な標本データをもとにし、神奈川県産の維管束植物の分布特性や植物地理学的な位置づけ、生態的特徴などを明らかにする。また、その過程で収集された未同定標本の整理を進めるとともに、「2001」刊行以降の神奈川県の維管束植物相の現状とその変遷を記録し続けることも本研究の重要な目的の一つである。平成 19 年度よりの 3 ケ年（平成 19～21 年度）計画で、これらの目的を達するとともに、これまでの解析の過程で明らかになったデータベース上の課題などを整理し、次の「神奈川県植物誌」改訂へ向けての問題を精査する。なお、本研究は、総合研究で共同研究者であった神奈川県植物誌調査会ほかの諸機関とも連携して研究を進めている。

1) 植物相の解析

神奈川県全体の植物地理学的解析（田中，2003）やレッドデータ植物の分布の解析（田中，2005）に続き、県内の帰化植物の分布の拡大について解析した（田中・勝山，2008）。その結果を以下に示す。

①『神奈川県植物誌 1988』、『神奈川県植物誌 2001』のための調査で採集された帰化植物は、標本点数、分類群ともに増大している。

②オニウシノケグサ *Festuca arundinacea*、アリタソウ *Chenopodium ambrosioides* var. *ambrosioides*、メマツヨイグサ *Oenothera biennis*、ハルジオン *Erigeron philadelphicus*、ヒメジョオン *Stenactis annuus*、コヌカグサ *Agrostis gigantea*、シロツメクサ *Trifolium repens* などは、『神奈川県植物誌 1988』のための調査の際に、すでに神奈川県内に広く分布しており、その後、分布を拡大していない。ただし、これらの帰化植物は、近年、分布を拡大していないことは明らかだが、減少しているかどうかは、標本データベースからは検証できない。

③ウラジロチチコグサ *Gnaphalium spicatum*、タチチチコグサ *Gnaphalium calviceps*、ユウゲショウ *Oenothera rosea*、ミチタネツケバナ *Cardamine hirsuta*、アメリカフウロ *Geranium carolinianum* などは、『神奈川県植物誌 2001』のための調査以降、急速に分布を広げた。

2) 植物相の現状と変遷の記録

この研究期間中、神奈川県内で新たに記録された植物や古い記録のみが知られていて再発見された植物の主なものは以下の通りである。

①タンザワサカネラン *Neottia inagakii* Yagame, Katsuy et Yukawa（ラン科）：2008 年に新種として記載された。神奈川県の固有種としては、サガミジョウロウホトトギスが知られていたが、これはスルガジョウロウホトトギスの変種ともされるので、「種」レベルでは、唯一の神奈川県固

有種。

②ホシケチドメグサ *Bowlesia incana* Ruiz et Pav(セリ科)：2009年3月、藤沢市で採集された南米～アメリカ合衆国南西部原産の日本新産の帰化植物。テキサス州北部では芝生の雑草として急速に広がったと言われ、広がらないうちに駆除した方が良いかもしれない。

③ツレサギソウ *Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl. (ラン科)：2009年、横浜市青葉区で記録された。横浜市内のツレサギソウの記録は、『神奈川懸植物目録』(1933)にあるのみで、標本や写真等の資料は残されておらず、75年振りの記録である。神奈川県内では、津久井町と箱根町、愛川町の標本がある。

④ムラサキナギナタガヤ *Vulpia octoflora* (Walt.) Rydb(イネ科)：海老名市で2005年6月に採集された。北アメリカ原産で、西日本を中心に関東以西の各地で記録されている帰化植物。相模原市でも記録された。

⑤ツルコウゾ *Broussonetia kaempferi* Siebold (クワ科)：藤沢市で2007年4月に採集された。本州の山口県、四国、九州に分布が知られていたが、藤沢市に出現した。

⑥コゴメカゼクサ *Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin. (イネ科)：秦野市で2006年9月に採集された。これまで小田原市と大井町の1980年代以前の標本のみがあり、『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』では絶滅種とされていた。

⑦オオアゼテンツキ *Fimbristylis bisumbellata* (Forsk.) Bubani (カヤツリグサ科)：藤沢市で2006年10月に採集された。国内では古くから沖縄県に知られ、近年、千葉県から報告されている。人や水鳥による移入の可能性もあるが、攪乱により埋土種子から発芽、出現したと思われる。

⑧シマツユクサ *Commelina diffusa* Burm. (ツユクサ科)：伊勢原市で2008年9月に採集された。熱帯に広く分布し、国内では、鹿児島県以南の分布が知られていたが、近年、静岡県、千葉県、埼玉県、熊本県などから報告されている。

⑨トウゴクシソバタツナミ *Scutellaria abbreviata* H.Hara (シソ科)：相模原市で2008年7月に記録された。これまで『神奈川県植物誌』(1958)などに記録はあったが、長く証拠となる標本や写真が確認できなかった。

3) 次の「神奈川県植物誌」改訂へ向けて

総合研究で共同研究者であった神奈川県植物誌調査会ほかの諸機関と検討を続けている。「印刷物」としての「植物誌」の必要性や、『神奈川県植物誌1988』、『神奈川県植物誌2001』のための調査と同等の調査レベルが維持できるかの人的動員力、県内各機関の標本処理能力、収容力などからの再検討、標本採集地を記録する際の緯度・経度、国土基本メッシュ(3次メッシュ)の測地系の移行問題などが現状の課題である。これらに関しては、さらに今後も検討を進め、新「神奈川県植物誌」の調査の体制づくり、新「神奈川県植物誌」のイメージの決定と進めて行く予定である。

博物館周辺の哺乳類生息状況について(その2)

一過去の分布状況との対比を中心にー

[研究の種類] 博物館基礎研究(個別研究)

[研究期間] 2007～2009年度(3年計画の3年目)

[研究担当者] 広谷浩子

[研究内容]

当館には、1960年代より収集された小型哺乳類の標本が多数あり、また1999年には箱根町の強羅博物館より多数の標本が移管された。本研究では、これらを整理し、希少種のチェックや当時の生息状況の把握をおこなった。

(1) 当館の標本から

当館には、1980年代までの標本が1,200点余りある。このうち、食虫・翼手・げっ歯類は1,080種で、全体の約90%にあたる。神奈川県内標本に限り、種別・年度別に整理した。1960年代・70年代の標本が多く、アカネズミ、ヒメネズミ、ヒミズの点数が圧倒的に多かった。採集地は、藤野・津久井から丹沢地域、箱根地域、三浦半島にまで及ぶ。

(2) 強羅博物館標本から

全部で600点の哺乳類標本が寄贈された。このうち、食虫・翼手・げっ歯類が550点と全体の90%以上を占めていた。採集年は1950年代から1980年代までにわたっていた。これを種別・年度別に整理して、箱根地域の小型哺乳類の分布状況の標準版を作成することにした。強羅博物館の標本は、1970年代・80年代に採集されたものが多く、アカネズミ、ヒメネズミ、ヒミズ、アズマモグラの点数が多かった。また、コウモリ類も比較的多く認められた。現在、同定作業を進めているが、少なくとも5種以上が生息していたようだ。

(3) まとめ

今回は、過去の分布状況の把握だけに終わったが、この結果を現況と対比させるためには、小型哺乳類の生息状況把握が急務である。

本研究の前に行なった現況把握の研究(その1)及びレッドデータ生物調査から、西湘地域の哺乳類の分布状況は、近年大きく変化していることが明らかになっている(神奈川県レッドデータ生物調査報告書、1995・2006)。ニホンジカやイノシシなどの大型哺乳類が分布を拡大し、アラゲマ、タイワンリスなどの移入哺乳類の定着も確実となった。このような変化が、在来の中小型哺乳類の生息状況にどのように影響するのか、現況把握のための調査を継続しながら、さらに解析を進めていきたい。

キサゴ類にみられる対捕食戦略の違い

[研究の種類] 博物館基礎研究(個別研究)

[研究期間] 2007～2009年度(3年計画の3年目)

[研究担当者] 佐藤武宏

[研究内容]

ニシキウズガイ科サラサキサゴ属に分類される、キサゴ *Umbonium costatum*、イボキサゴ *U. moniliferum*、ダンベイキサゴ *U. giganteum* は、共に関東地方とその周辺の

潮間帯～潮下帯に著しく高密度な群集を形成して生息し、肉食性生物にとっての餌生物としての地位を持つ。

一般に被食者となる生物は、捕食から身を守るために何らかの対捕食戦略を持つとされ、進化の過程でその戦略を発展させたり、戦略の取捨選択をおこなったりしてきていると考えられている。しかし、比較的近縁な巻貝の種間でこのような対捕食戦略の一致や相違について比較をおこなった例はほとんどない。そこで、キサゴ類 3 種についてその対捕食戦略の比較をおこなった。

神奈川県湘南海岸潮下帯において採集されたキサゴ、ダンベイキサゴと、千葉県の盤洲干潟潮間帯において採集されたイボキサゴを対象に、それぞれの生息密度、生殖腺の観察による繁殖期の推定、殻サイズ組成の混合正規分解による成長解析、捕食修復痕と破壊性捕食痕の計数による捕食頻度と捕食回避能力の推定、殻強度測定をおこない、相互に比較した。

その結果、イボキサゴとダンベイキサゴの対捕食戦略はよく似ているものの、キサゴの対捕食戦略は他の 2 種の対捕食戦略とはまったく異なることが明らかになった。すなわち、イボキサゴとダンベイキサゴは捕食に対して、多産多死で短い世代時間と早い成長スピードという戦略、いわば質より量という戦略で個体群を維持していた。一方で、キサゴはゆっくり時間をかけて成長し物理的に強固な殻を持つことによって捕食に対して抵抗するという戦略、いわば量より質という戦略で個体群を維持していた。

先行研究と照らし合わせてみたところ、形態による系統推定ではキサゴとイボキサゴがより近縁であるとされ、分子科学的手法を用いた系統推定ではキサゴとダンベイキサゴがより近縁であるとされているが、今回の結果はイボキサゴとダンベイキサゴの対捕食戦略がよく似ているというものであり、推定されていた双方の系統とも調和的な結果にはならなかった。このことについては更に詳しく研究を進める必要があると考えられる。

三浦半島北部における化学合成群集化石～鎌倉天園シロウリガイ化石～

〔研究の種類〕 博物館基礎研究（個別研究）

〔研究機関〕 2006～2009 年度（4 年計画の 4 年目）

〔研究担当者〕 田口公則

〔研究内容〕

神奈川県鎌倉の天園には、シロウリガイ化石が密集して産することが知られている。大型二枚貝のシロウリガイ類（*Calypptogena*）は、海底からの硫化水素やメタンを含む湧水域に生息する、いわゆる化学合成群集の構成生物である。

三浦・房総地域の新生界からシロウリガイの化石産出が知られ、三浦半島では三浦層群三崎層、池子層、上総層群浦郷層、野島層からの産出報告がある。この中で、鎌倉天園のシロウリガイ化石は密集した産状を示し、上総層群下部に知られるシロウリガイ産地の中で唯一自生的産状を示していると報告されてきたが、その詳細は明らかでは

なかった。

鎌倉天園のシロウリガイ化石産地周辺の地表地質調査と横浜国立大学間嶋研究室により掘削されたボーリングコア資料を用いて、鎌倉天園の地質について詳細な調査を行った。鎌倉天園のシロウリガイ化石が密集層の下位（ボーリング深度約 20m）に、ザクロ石を含む白色のテフラ層を見出した。これは、稲垣ほか（2007）で報告された KGP に対比されるほか、中津層群大塚層下部の Mk19（野田・奥村 2002）とも対比される鍵層となる。このテフラから推測される年代は、約 250 万年前である。

鎌倉天園には上総層群浦郷層が分布し、天園の露頭では下部に斜交層理の発達した凝灰質中粒～粗粒砂岩が見られる。露頭上部には、斜交層理が少なくなり、シロウリガイ類等大型二枚貝化石を含む凝灰質中粒～粗粒砂岩が見られる。大型二枚貝化石の高い密集は、天園の岩場周辺に限られている。

天園の岩場の炭酸塩コンクリーションについて、自生炭酸塩の同位体組成分析の結果は、炭素同位対比は低い値を示した。このことは、自生炭酸塩が嫌氣的メタン酸化の影響を受けて沈殿したことを示唆している。

上記の内容の一部は、日本地球惑星科学連合大会において田口・間嶋（2007）、宇都宮ほか（2009）にて発表した。

伊豆・小笠原弧北端部（伊豆箱根地域）の地殻物質と基盤地質構造

〔研究の種類〕 博物館基礎研究（個別研究）

〔研究機関〕 2007～2009 年度（3 年計画の 3 年目）

〔研究担当者〕 平田大二

〔研究内容〕

北部伊豆・小笠原弧の地殻構造は、海域では地震波速度により下部、中部、上部の地殻に分けられている。陸域では伊豆・小笠原弧北端部の丹沢山地に、中部地殻を構成していた複合深成岩体が表れている。しかし、プレート境界より南の箱根を含む伊豆地域では、深成岩体の露出はなく火山岩中の捕獲岩や、堆積岩中の礫岩に限られていて、地殻物質に関する岩石学的なデータも少ない。また、地震波速度解析の解像度も不十分であり、地殻構造はまだよくわかっていない。本研究では、伊豆箱根地域の地質構造を解明することを本研究の目的として、箱根火山の基盤岩類や箱根火山起源の火山灰層に含まれる深成岩礫について岩石学的検討とジルコン年代測定を行った。

箱根町宮ノ下に露出する凝灰角礫岩中と、箱根町塔ノ沢で掘削されたボーリング試料の凝灰角礫岩中に、複数の深成岩礫を確認した。鉬物組み合わせと鉬物モード組成から、いずれも斑レイノライトであることが判明した。両試料の全岩化学分析値の平均値（wt.%）は SiO₂=48.8, Al₂O₃=17.8, Fe₂O₃=9.7, MgO=8.8, Na₂O=0.8, K₂O=0.02 であった。両試料についてフィッシュン・トラック法および U-Pb 法によるジルコン年代測定を行った結果、いずれも形成時期は 500 万～400 万年前を示した。

これらの結果から、箱根・伊豆地域の地下には 500 万

～400 万年前に形成された斑レイノライトがあることが判明した。しかし、この斑レイノライトが中部地殻を構成するものなのか、あるいはほぼ同時代に形成された早川凝灰角礫岩をもたらした火山活動のマグマの痕跡なのかについては、今後の検証が必要である。また、本地域周辺の伊豆半島北部の白浜層群や、三浦・房総半島に分布する三浦層群などに含まれる多量の火山噴出物の起源の可能性もある。

丹沢の森林・溪流生態系における哺乳類の研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究機関〕 2009 年度（1 年間）

〔研究担当者〕 若代彰路

〔研究内容〕

2006 年以来、西丹沢の大又沢周辺において、シャーマントラップによる捕獲調査や自動撮影カメラを用いて、種々の環境における小型哺乳類の生息状況を調査研究している。

今年度は、樹洞生態系のうち、特に地上に近い樹洞に着目して、樹洞の中と周辺に集まる動物の生息状況を自動撮影カメラにより調査した。

自動撮影カメラによって確認できた哺乳類は、以下の 8 種であった。

食虫類：ヒミズ、ジネズミ

げっ歯類：リス、モモンガ、ヤマネ、スミスネズミ、ヒメネズミ

食肉類：テン

このうち、樹洞の中に生息していたのは、ヒメネズミとスミスネズミの 2 種で、互いに近くに巣穴を掘って生活していた。スミスネズミは、地上だけでなく木の幹にも上っていることが確認された。

これら 2 種以外の哺乳類は、樹洞の周辺から訪問していたものと思われる。自動撮影により、各種のさまざまな生態が記録された。

リスは秋になると、樹洞の入り口付近に球果を運びこみ、貯食していた。

モモンガは樹洞の中に生息するカマドウマだけでなく木の芽も採食していた。本種はこれまで樹上性の強い動物と考えられていたが、かなり頻繁に地上に下りて採餌することが調査により明らかになった。

ヤマネは調査した樹洞の周辺に少なくとも 3 頭生息していると推定された。体サイズから判断してすべてが成獣であった。これだけ多くの成獣が接近して過ごすことは大変珍しく、今後も観察を続けたい。

ヒミズ、ジネズミが樹洞を訪問して、何をしていたのか、写真からは判断できなかった。

小型哺乳類が樹洞を訪問する大きな目的は、採食である。樹洞の中には、カマドウマなどのさまざまな昆虫が生息するため、これにひかれたものと思われる。一方、食肉類のテンは、このようにして集まってくる小型哺乳類を捕食する目的で樹洞に近づいてきたものと考えられる。

哺乳類に加え、カメラには様々な鳥類の画像も残っていた。現在種名等を同定中である。調査場所を上手に選択すれば、哺乳類だけでなく鳥の生態、生息状況をも観察することができることが明らかになった。

以上より、自動撮影調査は哺乳類・鳥類の野外調査の方法として優れており、他の調査方法を組み合わせることによって、動物種の多様性や生態を把握できるものと考えられる。

上記研究成果の一部は、特別展図録「樹洞」のおよび「自然科学のとびら」（2009 年第 4 号）に掲載された。

神奈川県におけるコウモリ類の生息状況

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究機関〕 2009 年度（9 ヶ月）

〔研究担当者〕 山口喜盛

〔研究内容〕

神奈川県では、著者らによってこの約 10 年間に行われた調査で、コウモリ類の生息状況が少しずつ明らかになってきた。しかし、コウモリ類は夜行性で、人の耳に聞こえる声をほとんど出さずに飛翔するため、調査はなかなか進まない。コウモリ類は昼間の休息所に、トンネルを利用することがわかっているため、今回は、丹沢山地において、4 地域 10 のトンネルを調べた。調査を行ったのは、宮が瀬湖畔の清川トンネル、神の川の四つのトンネル、丹沢湖畔の四つのトンネル、大山の阿夫利トンネルであった。

調査の結果、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、ウサギコウモリの 5 種を確認した。ウサギコウモリは神奈川県初記録である（未発表）。

コウモリが確認されたのは、宮ヶ瀬湖畔の清川トンネル、神の川の三つのトンネル、丹沢湖畔のひとつのトンネルであった。清川トンネルで確認されたモモジロコウモリの数約 108 頭で、丹沢では最大の生息地になり、神奈川県内では箱根芦ノ湖の箱根用水に次ぐものである。このトンネルは一般車が通行できないため、多くのコウモリが集まっていたものと考えられる。このモモジロコウモリは、丹沢においては、これまで西丹沢の酒匂川流域のみの記録であったが、今回の調査で東丹沢と北丹沢で初めて記録された。ユビナガコウモリの確認された宮ヶ瀬と神の川は本種の県内最北の記録であった。神の川のトンネルには、天井部に円筒状の穴がいくつか空いており、この穴が休息場利用されていた。ここで確認されたテングコウモリは、県内では記録がきわめて少なく、環境省 RDB においても絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。今回は秋期と冬期に確認された。テングコウモリの県内における冬眠記録は初めてである。ウサギコウモリは、冬期に 1 頭が確認された。

本州中部地域におけるセスジアカムカデの分類学的研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究機関〕 2009 年度（1 年間）

[研究担当者] 佐久間 将

[研究内容]

セスジアカムカデ *Scolopocryptops rubiginosus* L. Koch, 1878 (オオムカデ目: メナシムカデ科) は、日本では北海道から沖縄にかけて分布する、最も普通なムカデ類の一種であり、国内では台湾、中国および北米にも産する分布の大変広い種である。日本産のものは、その形態から *S. r. rubiginosus* (L. Koch, 1878) および *S. r. kasimensis* (Miyoshi, 1957) の二亜種に分類されている。ムカデ類を含む多足類は、一般的に土壌棲で拡散能力が低く、種内の地域集団化や遺伝的な分化が生じている可能性が考えられる。しかしながら、日本のムカデ類相は、これまでに多くの種が分類、記載されているものの、分子系統学的手法を導入した研究は少ないのが現状である。そこで本研究では、神奈川県を含む本州中部地域に生息する本種集団において、その形態および遺伝的構造から、集団の分化と集団内の多様性の程度を明らかにし、本種を分類学的に再検討することを目的とする。本州中部地域(長野県、静岡県、山梨県、神奈川県)各地で採集を行い、採集した個体はエタノール液浸標本とし、形態観察および遺伝子解析に用いた。

現在までに、長野県、静岡県および神奈川県で本種個体を採集した。得られた標本の観察から、長野県産個体と静岡県産個体の間では体色と体長に明瞭な差異が認められたが、16SrRNA 遺伝子の解析では有意な結果は得られていない。また、他の地域における標本数は不十分であり、特に山梨県における本種の多産地は未だ見つからない。引き続き、山梨県および神奈川県で重点的に採集を行う必要がある。また、16SrRNA 遺伝子以外の遺伝子も解析に導入することも検討している。

酒匂川流域におけるツチガエルの集団間変異

[研究の種類] 外来研究員による研究

[研究機関] 2009 年度(1 年間)

[研究担当者] 長谷川嘉則

[研究内容]

ツチガエル *Rana rugosa* は、極東ロシアから中国、韓国まで広範囲に生息しており、日本においても北海道から鹿児島まで広範囲に分布している。神奈川県における 2006 年のレッドデータ生物報告書では、県カテゴリーとして要注意種に判定されており、減少が報告されている(新井、2006)。一方、本邦産のツチガエルについては大きな集団間変異があることが報告され、性決定機構が同一種内の地域集団によって XY 型と ZW 型が存在する世界で唯一の両生類である(Ogata et al., 2006)。さらに、Mating call の集団間変異の幅も大きく、一鳴きの継続時間が集団間で 5 倍も異なることが報告されている(Hasegawa et al., 1999)。Kanto group として分類されている関東地域のツチガエルは性染色体の形態が分化しておらず古い形態をとどめているが、静岡以西の三重までの XY group は性染色体の形態が分化している。私は、上記 2 groups の変異

の境界を詳細に調べるために、Kanto group と XY group の境界に近い酒匂川流域におけるツチガエルの集団間変異を調査する。また、この研究を通じて減少が報告されているツチガエルの分布域調査にも寄与したい。

今年度はその研究の端緒として、繁殖地の確認を行った、その結果、南足柄市、狩川の上山下橋上流側、上山下橋下流側、神崎橋の周辺の 3 箇所において個体又は鳴き声を確認した。来年度は引き続き繁殖地の調査を行い、個体の捕獲が出来たならば、形態計量形質や染色体の調査を行う。

- (1) 路上死体に基づくヘビ分布記録
- (2) ホタル個体群の 5 年間の変動
- (3) アカハライモリ腹部斑紋の解析
- (4) 下北半島のカジカガエルの生息状況

[研究の種類] 外来研究員による研究

[研究機関] 2009 年度(1 年間)

[研究担当者] 丸野内淳介

[研究内容]

- (1) 路上死体に基づくヘビ分布記録

2003 年 8 月 10 日に小田原市入生田の箱根登山鉄道入生田駅入口の西側の線路に沿った路上でタカチホヘビ *Achalinus spinalis* の死体が発見された。県内の事例などにより周辺の人家の庭、山林、あるいは線路の砂利の間隙に生息していた可能性が考えられた。(丸野内淳介(2009)小田原市入生田におけるタカチホヘビ *Achalinus spinalis* の記録. 神奈川自然誌資料(31):73-74.)

なお、平成 20 年度にまとめた結果については、下記のように発表した。

丸野内淳介(2009) 広島県東広島市二神山山麓におけるシロマダラとヤマカガシの路上死体の記録. 爬虫両棲類学会報. 2009(2):106-108.

本研究課題について特徴的なものがまとめられたので、平成 21 年度において終了する。

- (2) ホタル個体群の 5 年間の変動

広島県東広島市の広島大学構内の川と湿地において生息するゲンジボタル *Luciola cruciata* とヘイケボタル *Luciola lateralis* 成虫の出現状況を 1997 年から 2001 年まで 5 年間記録した。ゲンジボタルの出現期間内の最多出現個体数は 5 年間で 5 個体から 20 個体の間で変動し、一方的な増加ないし減少傾向になかった。上流部のコンクリート三面張りの区間におけるゲンジボタルの出現数が下流側に隣接する底面が砂礫である区間よりも高い傾向にあった。条件によっては人工的な河川環境においてもゲンジボタルは生息し、多自然工法などへの改修へも慎重な対策が求められる。

ヘイケボタルの最多出現個体数は、上流側の湿地では 2 個体から 8 個体の間で変動した。一方で下流側の菖蒲園においては、記録を始めた 1999 年の 2 個体から 2001 年は 58 個体と増加した。両湿地の環境の違いについて調べる必要があるが、上流側の湿地に生息するアメリカザリガ

ニ *Procambarus clarkii* がヘイケボタル密度を抑制している可能性がある。

(3) アカハライモリ腹部斑紋の解析

1993年から1995年に愛媛県と広島県で採集されたアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* の腹部斑紋は、黒斑が縦2列に並ぶ型が多数を占め、腹部を黒く波状に縁取る型、黒点が点在する型、ほとんど斑紋の無い型が見られた。1956年から1960年に採集された愛媛県と広島県のアカハライモリの斑紋(Sawada, 1963, J. Sci. Hiroshima Univ. B-1 21:135-165.)と同様の傾向にあると思われるが、斑紋の雌雄差、各県内ならびに県間の個体群間の違いなど調査していく必要がある。

(4) 下北半島のカジカガエルの生息状況

カジカガエル *Buergeria buergeri* の分布北限である下北半島において、下北郡大間町の奥戸川を1996年に調査した。河口から500-1500 m 上流の区間においてカジカガエルを確認した。それより上流の林間を流れる区間においてはカジカガエルを確認できなかった。カジカガエルが確認された区間では川の水面は開放された日光のあたる状態であり、上流側の水面は樹冠に覆われていた。今後は奥戸川におけるダム建設により川の環境が変化し、カジカガエルの生息状況も変化することが予測される。(投稿準備中)

テフロクロノロジーから見た箱根火山古期火山体の形成史

[研究の種類] 外来研究員による研究

[研究機関] 2009年度(1年間)

[研究担当者] 袴田和夫

[研究内容]

足柄山地足柄層群産出の貝化石群

[研究の種類] 外来研究員による研究

[研究機関] 2009年度(1年間)

[研究担当者] 奥村 清

[研究内容]

私は昨年に引き続き、表題の課題を中心に研究を行った。研究成果は、研究の途中で、示唆や助言をいただいた田口公則・小柳建興両氏との共同研究として近く発表する予定である。今回の中間報告は紙面の都合で比較的多数の貝化石が採集できた Loc.3(谷峨)と Loc.6(清水小裏)の化石群の特徴とそれから推定される堆積環境について主として述べる。

この両地点間は1,130m、両地点を結ぶ直線の方法は地層の走向と大略直交し、この間における地層の平均傾斜角は40°であるから、層準の上では720mの隔たりがある。Loc. 3(谷峨)の泥岩・細粒砂岩から産出する化石の多くは自生的な産状を示し、産出個体数の多い(5個体以上)ものは *Acila divaricata* (50-335m, fm) など8種。もっとも浅い海底に生息できる種は *Acila insignis* で0 m、もっとも深いところに生息できるのは *Ennucula nipponica*

の1,460mである。100-200mにはすべての種が生息可能であるから、本層が形成された深さとして100 - 200mを推定することができる。

本層に部分的に発達している泥岩・礫岩互層の境界の礫岩層の部分(ポケット状)から浅海性の *Atrina japonica* (0-20m, fsm)、*Pinna bicolor* (0-10m, fs)、*Umbonium costatum* (0-20m, s)、*Meretrix lusoria* (0-20m, sm) を採集した。これらのうち *Atrina japonica*、*Pinna bicolor* は薄質で大きな殻を有するにもかかわらず、殻の破損程度は軽微であることから、これらの種は急激な海底の落ち込みによって20m以浅の海から100 - 200mの海底に一挙に移動したものであることが考えられる。殻の内部には礫岩層と同質の小礫が充填していた。*Umbonium costatum*、*Meretrix lusoria* は泥岩の部分から採集された。キサゴは小型で、変形が著しい。また、ハマグリはほとんど原形をとどめていない。この2種は生息場所から堆積場所までかなりの時間をかけて移動したものと考えられ、*Atrina japonica*、*Pinna bicolor* とは海底における移動の形態が異なっていたものと思われる。

Loc. 6(清水小裏)は細砂泥からなっている。ここから産出する化石のうち産出個体数が5個以上のものは *Cryptonatica janthostomoides* (10-50m, fs)、*Dosinella peniculata* (5-30m, m) など9種である。これらの化石の生息深度レンジは0-50 mで、50 m以深生息種は含まれていない。最も浅いところに生息する *Mya arenaria oonogai* (0-10m) を除くすべての種が生息可能な深度は10-20mである。完全な自生的産状を示すものは少なく、多くは半自生的であるが、殻が破損したものや殻表の彫刻が失われているものは少ないので底流による移動は短距離・短時間に限られていたものと思われる。本産地から採集した種は、縄文時代の貝類遺骸について松島(1979)が提唱した種の組み合わせと環境との関係による、B群集およびC群集の構成種が一部の種を除いて含まれている。縄文時代の貝類の組み合わせと環境との対応が足柄層群堆積時代にまで敷衍できるものと仮定すると、Loc. 6の堆積環境は内湾水域、湾の中央部、砂質底、またはシルト～泥底、上部浅海底～潮間帯下部であったことが推定できる。

神奈川県下の現生哺乳類の形態変異に関する研究—イノシシ、ニホンザル、ニホンジカを中心に—

[研究の種類] 外来研究員による研究

[研究機関] 2009年度(1年間)

[研究担当者] 姉崎智子

[研究内容]

本年度は、ニホンザル (*Macaca fuscata*) 骨形態を神奈川県内の資料と他地域について、地理的変異を時空間的に検討した。本年度は、特に下顎小白歯・大白歯の頬舌径に着目し、分析を行った。

分析の対象としたのは、考古遺跡11カ所、現生個体群7カ所である。小白歯、大白歯頬舌径8項目に基づきLSI

法を用いて分析を行った。なお、今回はオスの資料に限って比較を行った。

分析の結果、神奈川県、福井県、長野県の考古資料は現生資料よりも臼歯頬舌径が比較的大きい傾向が示された。一方で、鹿児島県の考古資料は、現生大分県資料の大きさの範囲内であった。また、千葉県の考古資料は、遺跡間で大きさに差異が認められ、現生資料よりも大きい、あるいは、小さい資料が認められた。

このことから、ニホンザルの臼歯サイズに認められる相違は、地理的な要因に大きく起因していることが想定され、九州地域のニホンザルは縄文時代から小さい傾向がある一方で、本州地域においては、現生と比べて比較的大きい頬舌径を有するサルが縄文時代には生息していたことが推定される。

今後の課題であるが、日本列島におけるニホンザルの地理的変異の成立過程について検討するには、今後さらに各地域において資料を蓄積する必要がある。また、臼歯のサイズと身体サイズの相関性についても、これまで十分な研究が成されてきていない。

今後は、神奈川県のカル个体群を中心に現生および考古資料のデータを増加させるとともに、現生資料については、外部計測値などの相関性についても検討を行っていく予定である。

伊豆の中新世サンゴ礁生物化石から古環境を知る

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究機関〕 2009 年度（1 年間）

〔研究担当者〕 門田真人

〔研究内容〕

調査は 5 年目となった、平成 21 年度は、これまでの成果を調査地の地元に還元する地学的歴史観の普及活動に積極的に取り組んだ。その活動を通して新たな情報が地元の方から沢山寄せられた。H21 年度に伊豆半島で実施した巡検は 3 回、そのうち 2 回は静岡県地学会の依頼であった。学校での授業は 4 回、地元の自然愛好家の方々との化石調査は 6 回、市民対象の講演を 2 回実施した。

それらの活動を経て得られた「伊豆半島生い立ち」のイメージと地学的教材資源の概略は次のようである。

伊豆半島の化石産出露頭は、下田の白浜地域の白浜層を除いて他はいずれも小規模であり、多数回繰り返しての巡検や化石採集活動は地学的資源保全面から考えると継続が難しいことが分かってきた。その中でも、湯ヶ島層から得られる「南の海にあった伊豆」の証拠は小さな石灰岩露頭からで、日本列島のどの地域にもない貴重な熱帯性サンゴ礁生物群が見つかった。しかし規模の小さな露頭は道路工事や自然災害などで消失や、養護壁で覆われて観察ができなくなっていた。

そんな中で新たに見つかった化石をいくつかをあげる。伊豆市修善寺牧ノ郷の湯ヶ島層群加殿層石灰岩から、伊豆半島では 3 個目のオウムガイ類 *Aturia cubaensis* を採

集した。松崎町江奈の湯ヶ島層桜田層石灰岩よりサザエ類の仲間でこれまでに日本列島では産出していないタイプが複数種見つかり更に精査中であり熱帯性巻貝の専門家に同定いただいている。

今年度は伊豆半島の基盤をなす地層の中で最下部の仁科層群からの化石発見にも挑戦した、しかし露頭で確認できる化石は見つからなかった、代わりに枕状溶岩を 3 地点で新たに見つけることができた。仁科層群堆積の 20 – 17Ma 頃の伊豆は海底火山の時代であり、火山島はまだ誕生していなかったと思われる。仁科層群の岩石相は火山角礫岩や溶岩または沖合性堆積物が主であり円礫層はない。そこからは浅い海がまだ存在していなかったことが見えてくる。古伊豆の火山島が誕生するのはやはり湯ヶ島層の石灰岩が示している 16-15Ma・中新世前期末–中期にかけてであることを追認できた。

以上の知見は、「丹沢山地の生い立ち」に重なる部分が多くあり、フィリピン海プレートの活動が丹沢・伊豆をセットにして南の海底で誕生させていたと思わせるものである。

以上のような物語を、伊豆新聞からの依頼でコラム「伊豆路」欄へ 6 回の連載で書いた。地元の皆さんに分かりやすく書いたつもりであるが「化石が語る伊豆半島物語・1500 万年前の伊豆火山島」のイメージをお伝えできたなら幸甚である。

四肢動物の前肢における、運動時の姿勢と骨格形態・筋重量比との関係

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究機関〕 2009 年度（1 年間）

〔研究担当者〕 藤原慎一

〔研究内容〕

四肢動物の関節面の立体形状は、その関節の可動範囲を制限する重要な要素のひとつである。そのため、絶滅四肢動物においても四肢の関節面形状を把握することができれば、関節の可動性をより確からしく復元することができ、その動物の生態の復元につながると期待される。しかし、ワニや鳥類を含めた主竜類の仲間は、骨端が厚い軟骨で覆われるため、骨表面の形状と軟骨で覆われた関節面の形状を対応させることが困難である。さらに、ワニ類では肘関節の関節面の記載もなされていない。本研究では、アメリカアリゲーター（KPM-NFR16）を用いて肘関節の観察を行なった。その他多くの四肢動物との比較の結果、ワニ類は下記に挙げるような鳥類の肘関節と類似した関節面の形状をしていることが判明した。上腕骨遠位には外側顆と内側顆の間に olecranon fossa と呼ばれる凹部が確認され、それが関節面の後端の位置を規定していた。一方の前腕近位では、上腕の凹凸に対応するように、尺骨近位の関節面中央部に intercotylar process と呼ばれる突起が観察された。肘関節を伸展させると、intercotylar process が olecranon fossa にはまることで、それ以上の伸展を抑制する。軟組織を除去した後に骨表面を観察すると、上述の構造に対応すると思われるわずかな凹凸は認識

されたが、構造を対応させることは非常に困難である。非鳥類恐竜や翼竜はワニや鳥類と同様に主竜類の仲間であり、彼らもワニや鳥類と同様の肘関節構造をしていたと考えられる。絶滅主竜類で四肢の可動範囲を復元するには大きな注意が必要である。また、現生の主竜類においても軟組織の立体形状に対する知識は不十分であり、現生・化石を問わず、主竜類の運動機能を理解するためには、それらの構造を保存していく試みが今後重要になってくる。

研究成果

Shin-ichi Fujiwara, Hajime Taru and Daisuke Suzuki.
2010. Shape of articular surface of crocodilian (Archosauria) elbow joints and its relevance to sauropsids. *Journal of Morphology*.

付加体発達の間欠性

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究機関〕 2009 年度 (9 ヶ月)

〔研究担当者〕 柴田伊廣

〔研究内容〕

沈み込み帯における物質収支を解明する上で、付加体における付加過程(時間変動)を正確に把握することが重要である。しかしながら、変形著しいメランジュの基質からは、保存のよい微化石はほとんど産出されず、そのため精度良く年代決定するのは困難であった。そこで本研究では、火山灰層に含まれるジルコンを、レーザーアブレーション質量分析装置(以下 LA-ICPMS)を用いた U-Pb 手法を改良し、80 Ma から 3-5 Ma までの年代レンジにわたって、同じ精度・確度で統一的に決定することを目的とし、得られた結果を陸上の付加体に適用してその変動過程の再現を試みた。

まず LA-ICPMS を用いた U-Pb 手法を初めて付加体に適用した。三浦・房総の新しい付加体堆積層において、化石年代と本手法年代がよく整合していることから、本手法の信頼性が確認された。その結果、これまで 120-15 Ma 程度で用いられていた手法が、3-5 Ma まで適用できることが分かった。ただし付加体では火山灰の含有量が少ないために信頼性が減少するので、今後より慎重なサンプリングにより確度の向上を図ることが必要である。また、加重平均を用いた年代について、これまでガウス分布を仮定して誤差を評価していたのを、天然のジルコン結晶の生成過程を考慮した分布に基づいた TuffZirc 年代へと改善した。

本手法を過去の付加体に適用した。牟岐メランジュ試料の年代決定により、沈み込み・付加が断続的に起こっていることが示された。一方、延岡の順序外断層(OOST)の下盤は 45 Ma、上盤は 80 Ma とそれぞれの堆積年代が見積もられた。これは化石による上盤年代(50-60 Ma)よりも古い。新たな手法(TuffZirc 年代)を導入し、誤差の見積もりを試みた。サンプルされた岩石が火山性のものでない可能性があるため、80 Ma の信頼性は検証するにいたらなかったが、今後付加体中の OOST の発達過程に重要な示唆を与える可能性がある。

現在進行中の IODP 南海トラフ地震発生帯掘削(NanTroSEIZE)では、熊野前弧海盆の堆積層下部、過去の付加体との境界付近で、2-5 Ma に hiatus があることが示された。その後分岐断層(OOST が活動したものと考えられる)が活動を開始してその上盤が傾斜し、堆積が開始されたことが分かっている。過去においても、このような間欠的なテクトニクス活動が起こっていることが、本研究から示唆された。

4.2. 研究成果（外部資金助成・共同研究等）

子どもの科学的表現を高める環境学習プログラム作成—自然のパターン把握を通して

〔助成金の種類〕 日本学術振興会科学研究補助金 基盤研究 (B)

〔研究期間〕 2007～2009 年度（3年計画の3年目）

〔研究組織〕 下野 洋（研究代表者：星槎大学）・遠藤 忠（宇都宮大）・大塚 豊（広島大）・岡本弥彦（麻布大）・川野 敏（星槎大）・金 泰勲（星槎大）・五島政一（国立教育政策研）・坂上寛一（星槎大）・境 智洋（北海道教育大）・澤野由紀子（聖心女子大）・関 啓子（一橋大）・田口公則・高橋 修（東京学芸大）・坪内俊憲（星槎大）・鳩貝太郎（国立教育政策研）・藤田郁男（星槎大）・森川和子（星槎大）・谷田部玲生（桐蔭横浜大）・岡田和徳（星槎大）

〔研究内容・成果〕

（1）本研究の重要な位置を占める「自然の環境パターン」と「パターン把握」の定義づけについては、身の周りの自然環境をシステムティック（体系的）に、すなわち事象相互のつながりや時間的・空間的な視点でとらえることができるものを「環境パターン」と呼ぶことにする。その環境パターンとは、自然環境の中に潜む次のような科学的な事象を指す。

- ① 比較観察の対象となる事象
 - ② 関連性をもつ事象
 - ③ 変化を読み取ることが可能な事象などの科学的な事象
- 「パターンの把握」については、自然体験や野外学習で五感を用いて、自然環境にみられる「比較観察の対象となる事象」「関連性をもつ事象」「変化を読み取ることが可能な事象」などの自然事象を通してそこに見られる事実や関連性の発見、比較・類推を行う活動を通して自然の変化に関する科学的知識、概念を獲得し、思考力を高める技法の一つであるというよう共通理解を持った。

このパターン把握により見つけた事実や事象相互の関連性、事象の比較やそれらからの類推によって得られた自然の変化に関する内容を図、スケッチ、簡潔な文章で表現し第三者に伝え互いに意見交流を図ることができるようになることが望ましいのである。

（2）海外の環境学習については、ロシア極東地域と中国の北京、上海地区を対象として調査を行い、そこでのさらなる成果と課題を最終報告書にまとめた。

また、国内の環境教育実施状況調査は岐阜県を中心として行い、その結果は最終報告書に掲載した。

（3）平成 19-21 年度の間に、岐阜県内と北海道芦別市内での実験授業を重ね、環境学習プログラムの枠組みを構成し、研究協力者の手によって 67 例の環境学習事例の指導案をまとめ、それらを最終報告書に収録した。

博学連携による小中学校における地域地学資料展示の取組と子どもの変容

〔助成金の種類〕 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤

研究 (C)

〔課題番号〕 20605018

〔研究期間〕 2007～2009 年度（3年計画の3年目）

〔研究組織〕 田口公則（研究代表者）・大島光春（研究分担者）・露木和男（連携研究者：早稲田大学教育学部）・飯島俊幸（研究協力者）・一寸木肇（研究協力者：大井町立上大井小学校）・斎藤有紀雄（研究協力者：横浜市立森中学校）

〔研究内容・成果〕

本研究の目標は、地学資料の展示実践を通じて「子どもや教師が、モノと接するとき、日常的にモノを展示し触れさせることで、何らかの学習が促進されるか」を知ることである。理科室をはじめとする学校の日常空間にてどのような展示が行えるのか、そして展示は子どもや教師にどのような変容をもたらすのか。本研究では、展示利用者に行動化を促す仕掛けとしての「展示」を多面的に試行した。

学校での展示活動に関して、大井町立上大井小、横浜市立森中、秦野市立本町小等で実践的な取り組みを行った。また、地域の地学的素材、とくに化石等の調査研究に関して、山北町立清水小、山北町立清水中、横浜市立大道中等の学区地域にて自然史調査を行った。

学校ミュージアムと呼べる活動は、自由な博物館活動が可能である。また、学校ミュージアムの場が存在は、児童・生徒、教員が「コミュニケーション」、「探究・発見」、「編集・構成」、「表現」の興味を深めて活動を展開する場の提供につながる有効性が捉えられた。

学校という現場において博物館の活動を活かした学習は可能である。そして、学校ミュージアムの実践は、児童・生徒、教員の興味関心を高め、知的好奇心を育む場となり、また、それぞれの情報発信の場となる。展示情報による興味関心の高まりが、フィールドへの誘いとなり主体な活動へとつながる事例も見出された。学校ミュージアムという営みは、学校現場において新たな活動として捉えられるが、これまでの学校の営みである授業、教材、カリキュラムという視点をふまえると、それらは学校ミュージアムの活動に当てはまることわかった。すなわち、学校ミュージアム活動は、子どもたちのみならず教員にとっても有効な活動の場となることが示唆された。これらの成果は、報告書「博学連携による小中学校における地域地学資料展示の取組と子どもの変容」(田口編, 2010) 等で広く公開した。

子どものための展示開発—自然史博物館にふさわしい展示と展示プラン—

〔助成金の種類〕 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)

〔課題番号〕 19611018

〔研究期間〕 2008～2011 年度（4年計画の2年目）

〔研究組織〕 大島光春（研究代表者）・広谷浩子・田口公則・石浜佐栄子（研究分担者）〔研究内容・成果〕

本研究では対象を特に“子ども”に絞って、展示という博物館がもっとも得意とするメディアを活用して、自然への

興味を喚起する方法を研究し、自然史博物館にふさわしい展示を開発することを目的とする。展示が、子どもとワールドとを結び、自然史科学への入り口となるような展示プランを作成して成果とする。

H21 年度は国内の他博物館における“子どものための展示”事例調査を継続し、各館の方向性や手法を検討した。当館特別展「木の洞をのぞいてみたらー樹洞の生きものたちー」において、体験的展示を試行した。

事例調査では、昨年度に続き歴史系博物館や自動車博物館も含め、科学館、総合博物館、自然史博物館、大型児童館等 20 以上の館を訪れた。また、大手展示業者も訪問し、展示デザインや展示装置のデモンストレーション、ディスプレイ用材料のライブラリなどを見学した。照明製作会社のレクチャーを受ける機会もあり、フィルターを使った色温度の変換等の実習を行えた。これらの経験も加味して、次年度に向けて、調査結果から上記目的の達成に有効な要素を取り出すため、分析を行っている。

特別展「木の洞を～」においては、本編の内容に関連させた 3 つの体験的展示からなる子どものための展示「樹洞であそぼう!」を制作した。「のぞいてみよう!」は特別展のメイキング画像デジタルフォトフレームでスライドショーにした。「ぬりえ de おめん」は、特別展ポスターの作者・菊谷詩子氏の手によるムササビ他全 4 種類のぬり絵を楽しんでもらい、家ではそれをはさみで切り抜いてお面を作れるようにした。「ムササビ飛んでみよう!」は飛行中のムササビの視線(自主製作のロープウェイ)で撮影した映像をモニタに写しだし、着ぐるみを着てうつぶせになって見ると風が送られてくるものである。この試行を通じて、身近な機材の活用、遊びを通じた自然科学への興味喚起など、今後の開発に有効な経験とデータが得られた。

『伊豆半島植物誌』のためのデータベース構築と地球温暖化の影響評価

[助成金の種類] 新技術開発財団 植物研究助成

[研究種別] 特定研究

[研究期間] 2008 ～ 2010 年度(3 年計画の 2 年目)

[研究組織] 田中徳久(研究代表者)・勝山輝男(研究協力者)

[研究内容]

(1) 研究目的

『伊豆半島植物誌』(仮称)作成のためのデータベースを構築し、その一助をなし、その分布情報を解析することで、近年の地球温暖化の影響評価を試みることを目的とする。

(2) 研究方法

神奈川県立生命の星・地球博物館の所蔵標本データおよび文献資料により伊豆半島産維管束植物のデータベースを整備するとともに、熱海市および他の伊豆半島地域の植物相調査を進め、標本資料の収集とデータベース化を行う。さらに、その分布データを解析し、地球温暖化の影響評価を行う。

(3) 研究成果

本研究は、伊豆半島産維管束植物のデータベースの整

備、実際の植物相調査、分布データの解析による地球温暖化の影響評価の 3 つの部分よりなっており、伊豆半島産維管束植物のデータベースの整備は、神奈川県立生命の星・地球博物館の所蔵標本データの精査・整備と文献資料のデータベース化に基づいている。ここでは、伊豆半島産維管束植物のデータベースの整備状況について報告する。

①生命の星・地球博物館の所蔵標本のうち、伊豆半島産のものは、平成 21 年度までに本研究の一環として収集した標本なども加え(一部未登録あり)、約 6,500 点、1,600 分類群になる。これらの標本の採集地は、熱海市岩戸山周辺、下田市須崎周辺を除いてカウントすると、沼ノ川が 300 回近くと圧倒的に多く、浄蓮の滝、八幡野、天城山、十国峠、白川などが 100 回を超える。ただし、万二郎岳や万三郎岳、八丁池なども含めると天城山が圧倒的に多い。

②『静岡県植物誌』(杉本, 1984) および『伊豆の植物』(杉本, 1962) に掲載されている伊豆半島産植物の和名と、これらに記載されている分布記録地(採集地)の情報をデータベース化した。『伊豆の植物』には約 2,000 分類群、『静岡県植物誌』には伊豆半島産として約 2,300 分類群が記載されていた。分布記録地としては、『伊豆の植物』では、天城山が 500 回近く出現し、猫越峠、函南山、稲取などが 100 回を超える。『静岡県植物誌』ではやはり天城山が圧倒的に多いが、広域地名を除くと、『伊豆の植物』とは多少異なり、下田、河津、伊東が多い。

③ここまでに整備したデータベースにより、100 分類群以上が記録・採集された分布記録地(採集地)について、シダ植物、裸子植物、単子葉植物、離弁花植物、合弁花植物の上位分類別に図に示した。赤堀ほか(2009)の熱海市岩戸山周辺地域や近田ほか(2006)の下田市須崎周辺のようなまとまった植物相調査が実施された地域では、各上位分類群が網羅的に記録されているが、他の地域では偏りがある。特に、一部でシダ植物の記録が突出しているのが目立つ。また、植物の記録の空白域(実際には 100 分類群以下の植物が記録)の存在も明らかになった。このような地域が存在については、本研究の成果のひとつでもあるが、今後の植物相調査の重点地域と位置づけ、記録植物の増大に努めたい。

なお、ここで報告した内容の一部は、日本植物分類学会第 9 回大会(愛知教育大学 2010 年 3 月 25 ～ 28 日)において、ポスター発表した。

5. 施設概要

5.1. 土地・建物

[土地概要]		
	本館	連絡橋 EV 棟
所在地	小田原市入生田 499 番地	
敷地面積	22,460.90 m ²	153.60 m ²
地目	宅地	宅地
用途	無指定（一部住居地域）	住居地域
建ぺい率	70%（住居 60%）	60%
容積率	400%（住居 200%）	200%
現況	国道一号線と早川とにはさまれ、交通の便、自然環境ともに恵まれた位置	
[建物概要]		
	本館	連絡橋 EV 棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り	鉄筋コンクリート造り
規模	地下 1 階地上 4 階建て	地上 2 階建て
建築面積	8,218.11 m ²	30.97 m ²
延床面積	19,020.14 m ² (地下駐車場 4,800.14 m ² 含む)	43.86 m ²
最高高さ	23.25 m	
[各階別面積]		
	面積	主要室
地下1階	5,852.14 m ²	駐車場・機械室等
1階	7,427.00 m ²	エントランスホール・ミュージアムシアター・常設展示室・特別展示室・収蔵庫・講義室等
2階	2,166.00 m ²	ミュージアムライブラリー・事務部門等
3階	3,017.00 m ²	常設展示室・ジャンボブック展示室・レストラン・実習実験室等
4階	506.00 m ²	機械室等
塔屋	52.00 m ²	
合計	19,020.14 m ²	
[用途別面積]（本館）		
エントランススペース		984.00 m ²
展示スペース		5,075.00 m ²
学習スペース		867.00 m ²
収蔵スペース		1,433.00 m ²
研究スペース		804.00 m ²
管理・その他		5,057.00 m ²
地下駐車場		4,800.14 m ²
合計		19,020.14 m ²

[建物仕上げ] 外部（本館）	
外部仕上げ	
屋根	(勾配屋根) カラーステンレス (陸屋根) アスファルト防水下地押えコンクリート
外壁	御影石ジェットバーナー仕上げ・二丁掛け磁器質タイル及びカラーアルミタイル張り
建具	カラーアルミサッシ・ステンレスサッシ・スチールサッシ
[建物仕上げ] 内部（本館・主な箇所のみ）	
エントランスホール	
床	御影石ジェットバーナー仕上げパターン張り
壁	大理石本磨き及びカラーアルミパネル張り
天井	カラーアルミ吸音パネル
展示室	
床	カーペットタイル敷
壁	P B 下地ガラスクロス E P
天井	メッシュ天井
シアター	
床	カーペットタイル敷
壁	銘木練付け C L 及び有孔ケイカル板張り
天井	繊維強化石膏ボード貼り
収蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ下地エポキシ樹脂塗り
壁	コンクリート下地吹きつけコート
天井	デッキプレート O P
[設計・施工]（本館）	
設計	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)丹青社
造成	中野設計工務(株)
施工監理	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)日本科学技術振興財団
造成	中野設計工務(株)
施工	
建築	清水・小田急・渡辺・田中特定建設工事共同企業体
電気	東芝プラント・安部・増子特定建設工事共同企業体
空調	トーヨー理研・ナミレイ・新陽特定建設工事共同企業体
衛生	ダイセツ・トウカイ特定建設工事共同企業体
昇降機	(株)日立製作所
展示	(株)丹青社
造成	(株)杉山組・(株)若林組・箱根建設(株)・(株)加藤組 (株)吉沢組・日本鋼管工事(株)・(株)秋山組
外構	土谷建設(株)・(有)菊原建設
植栽	(株)加藤造園・(有)深谷造園・栄立造園土木・緑栄造園 土木特定建設工事共同企業体
工事期間	
建築工事	平成 4 年 10 月 10 日～平成 6 年 12 月 20 日
展示工事	平成 4 年 10 月 10 日～平成 7 年 3 月 1 日
[設計・施工]（連絡橋 EV 棟）	
設計・施工	中野設計工務株式会社
建築	内田建設(株)
電気	(有)昭栄社
昇降機	日本オーチスエレベーター(株)

5.2. 設備

5.2.1. 一般設備

[電気設備]			
受配電設備	受電電圧 3 相 3 線式	6.6kV 50Hz	
	変圧器容量	2,175kVA (乾式モールド形)	
	進相コンデンサー	327kvar	
	高圧母線	5 系統	
自家発電設備	低圧幹線	98 系統	
	原動機 ガスタービンエンジン	360PS (48,738rpm)	
太陽光発電設備	発電機ブラシなし交流発電機	300kVA Pf0.8 (1,500rpm)	
	起動方式 直流電動機起動式		
	出力電気方式 三相3線式	210V	
蓄電池設備	公称出力	7.5KW	
	システム構成	系統連携型	
	種類 シール形ポケット式アルカリ電池		
電話設備	公称電圧	103.2V (86 セル)	
	容量	350Ah (5 時間率)	
	用途 受配電機器操作用・非常灯用		
電気時計設備	交換機 デジタル交換機		
	局線容量	72 回線 (50 回線実装)	
	内線容量	240 回線 (150 回線実装)	
駐車場管理設備	親時計 水晶発振式	(出力 2 回線)	
	子時計		
	アナログ式	29 台	
	デジタル式	5 台	
その他	ソーラー時計	1 台	
	地下駐車場の満・空車表示	1 式	
身障者警報呼出表示装置・避雷針設備・インターホン設備・テレビ共聴設備			
[空調設備]			
空調方式	中央式 定風量 (CAV) 単一ダクト方式		
	中央式 各階ゾーンユニット方式+ 2 管式 FC ユニット併用方式		
	パッケージ式個別空調方式 (特殊用途室)		
熱源機器	ガス吸収冷温水機 200RT	3 台	
空調機等	ユニット型空調機	16 台	
	ファンコイルユニット	53 台	
	ビルマルチエアコン	37 台	
	パッケージエアコン	7 組	
換気設備	第 1 種及び第 3 種	給気ファン	7 台
		排気ファン	44 台
自動制御設備	中央監視装置 1 式		
[衛生設備]			
受水槽	75 t		
雨水槽	300 t		
中水槽	28 t		
中水処理装置	5t/h 1 台	1 台	
加圧給水ポンプユニット	540 ℓ /min	1 組 (上水用)	
加圧給水ポンプユニット	1,470 ℓ /min	1 組 (中水用)	
汚水ポンプ	300 ℓ /min	2 台	
雑排水ポンプ	300 ℓ /min	2 台	
雨水ポンプ	1,000 ℓ /min	6 台	
雨水ポンプ	200 ℓ /min	2 台	
湧水ポンプ	200 ℓ /min	2 台	
ガス設備			
地下 1 階に都市ガス (13A) を引き込み、ガス吸収冷温水機レストラン、ともしびショップ等に供給			

[昇降機設備]			
1 号機	乗用 (展望用車椅子仕様)	B1F, 1F, 2F, 3F 停止	
		13 人乗り 45 m/min (電動式)	
2 号機	乗用 (車椅子仕様)	B1F, 1F, 3F 停止	
		11 人乗り 60 m/min (油圧式)	
3 号機	乗用 (車椅子仕様)	1F, 3F 停止	
		11 人乗り 60 m/min (油圧式)	
4 号機	荷物用	1F, 2F, 3F 停止	
		3,000 kg 30 m/min (油圧式)	
連絡橋	乗用 (車椅子仕様)	1F, 2F 停止	
		11 人乗り 45 m/min (油圧式)	
エスカ レーター	(1200 型・車椅子兼用)	1F ~ 3F	
		30 m/min (電動式)	
[防災設備]			
自動火災報知設備			
	受信機 P 型 1 級	70 回線	
	防災連動制御盤	40 回線	
	熱感知器・煙感知器 1 式		
消火設備			
	屋内消火栓 40 箇所		
	屋内消火ポンプユニット	140ℓ/min 1 台	
	屋外消火栓 6 箇所		
	屋外消火ポンプユニット	700ℓ/min 1 台	
	泡消火設備 (地下 1 階駐車場)		
	薬剤量	600ℓ	
	泡ヘッド	696 個	
	泡消化ポンプユニット	1,120ℓ/min 1 台	
	移動式粉末消火器 (駐車場他) 9 台		
	連結散水設備 (地下 1 階部分) ヘッド数 12 個		
	誘導灯設備 (避難口・通路・階段) 166 台		
	ガス漏れ警報器 検知器	12 個 受信機 1 台	
非常用・業務用放送設備 (非常用電源内蔵)			
	電力増幅器	360W 2 台	
	電力増幅器	120W 2 台	
	スピーカー	232 個	
排煙設備			
	排煙機 (廊下系統)	15,800 m ³ /h 1 台	
	排煙機 (一般系統)	38,000 m ³ /h 1 台	
ITV 設備			
	本館監視用	固定カメラ	8 台
		可動カメラ	8 台
		モニターテレビ 17 型 4 台× 2 箇所	
	連絡橋 EV 監視用	固定カメラ	3 台
	モニターテレビ 17 型 3 台× 2 箇所		
[その他の設備]			
自動扉設備			
	エントランスホール等の出入口に設置 8 台		
自動散水設備 (人工地盤植栽部分の灌水用)			
	東側前庭 8 系統・3 階テラス 11 系統		
カスケード設備 (人工滝)			
	間口 24m 高さ 3m 水量 2.5 m ³ /min 照明付き		

5.2.2. 研究設備

[大型標本製作室]			[冷凍乾燥室]		
品名	型番(メーカー)	数量	品名	型番(メーカー)	数量
ロケットリマー(岩石粉碎機)	(IWAMOTO)	1台	大型冷蔵庫	ERA-Z30B	1台
ジョークラッシャー(岩石粉碎機)	2002-EX(吉田製作所)	1台	中型冷蔵庫	RS-5203(日立フリーザー)	1台
大型岩石カッター(自動送り)	SC-14(ニチカ)	2台	インキュベーター	PCI-301(AS ONE)	3台
中型岩石カッター	MC-442(マルトー)	1台	凍結乾燥機	RLE II (KYOWAC)	1台
小型岩石カッター	MC-100(マルトー)	1台	[試料分析室]		
旋盤	FS450A(TOYOAS)	1台	品名	型番(メーカー)	数量
超音波洗浄器	B-62(Brainson)	1台	蛍光X線分析装置	XRF-1500(島津製作所)	1式
ふるい震とう器	NVS-200(C.M.T)	1台	試料固結装置(Briquetting Machine)	MP-35(島津製作所)	1台
岩石研磨回転台	RP-5(マルトー)	2台	走査型電子顕微鏡	JSM-5410LV(日本電子)	1式
卓上帯のこ台	(PROXXON)	1台	金蒸着装置	JFC-1200(日本電子)	1台
遊星ボッド型ボールミル	LA-P04(伊藤製作所)	1台	臨界点乾燥装置	JCPD-5(日本電子)	1台
解剖台		1台	炭素蒸着装置	SC-701C(サンヨー)	1台
[標本製作室]			一眼レフデジタルカメラ(ボディー)	D70(ニコン)	1台
品名	型番(メーカー)	数量	デジタルプロジェクター	V-1100Z(プラス)	1台
マイクロカッター	MC-201(マルトー)	1台	[写真室]		
自動メノウ乳鉢	(日本地科学社)	1台	品名	型番(メーカー)	数量
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol(ニコン)	1式	撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol(ニコン)	1式
撮影装置付き双眼実体顕微鏡	SZH-10(オリンパス)	1台	軟X線非破壊検査装置	CMB-2(ソフテックス)	1台
プレパップ(岩石薄片作成装置)	MG-300(マルトー)	1台	中判カメラ	Mamiya RB67(マミヤ)	1式
プラノポール(精密研磨台)	Planopol-V(Struers)	1台	カラー撮影用照明	HMI-575(broncolor)	2台
ディスコプラン(岩石切断研磨装置)	Discoplan-TS(Struers)	1式	マクロ撮影装置	(オリンパス)	1式
エポバック(岩石試料作成用真空装置)	Epovac(Struers)	1式	一眼レフカメラ	F70, F90(ニコン)	2台
真空装置	G-50S(真空機工)	1式	レンズ用デシケーター		2台
自動染色装置	DRS-601(サクラ精機)	1台	紫外線撮影用レンズ	UV-Nikkor(ニコン)	1台
ミクロトーム	HM340(カルツァイス)	1台	デジタル一眼レフカメラ	DIX(ニコン)	1式
パラフィン伸展器	PS-52(サクラ精機)	1台	フィルム用冷蔵庫	MR-18-H(三菱電機)	1台
パラフィン溶融機	(アルプ)	1台	暗室用具		1式
荷重計測器	FGS-50V-L(日本電産シンボ)	1式	[化石ラボ]		
デジタルフォースゲージ	FGX-R20, FGC-10(日本電産シンボ)	2台	品名	型番(メーカー)	数量
デジタルマイクロスコープ	VHX-900(キーエンス)	1台	コンプレッサー	(日立製作所)	1台
透過型ノマルスキー式微分干渉顕微鏡	BX50-33-DIC、BX51(オリンパス)	2台	サンドブラスター	CH-4000(WULSUG)	1台
位相差顕微鏡	BX50-33-PHD(オリンパス)	1台	エアスクライバー(小型削岩機)	CP9361 他(Chicago Pneumatic 他)	4台
実体顕微鏡	SZX12(オリンパス)	1台	デンティストドリル	(Sverital)	2台
デジタル顕微鏡撮影装置	DP-12(オリンパス)	1台	実体顕微鏡(ユニバーサルスタンド付き)	SMZ-2B(ニコン)	2台
実体顕微鏡および描画装置セット	SMZ-10A(ニコン)	1式	集塵機	VF-5(AMANO)	2台
ツルグレン装置	B-1(伊原電子工業)	1台	[実習実験室]		
植物標本乾燥機	(入江製作所)	1台	品名	型番(メーカー)	数量
燐蒸器	(特許理化興業)	1台	実習・研究用生物顕微鏡	CHT(オリンパス)	15台
ドラフト	(ダルトン)	2台	偏光顕微鏡	LABOPHOTO 2-POL(ニコン)	7台
[化学分析室]			ビデオマイクロスコープ	VMS-70(SCALAR)	1台
品名	型番(メーカー)	数量	実習用実体顕微鏡	SZ40(オリンパス)	24台
精密天秤	RC210P(Sartorius)	1台	透過型落射光顕微鏡	BX60F(オリンパス)	2台
化学天秤	Laboratory LC4200S(Sartorius)	1台	ツルグレン装置		1台
免震台		2台	エアサンプラー	LV-100(横河電機)	1台
全自動蒸留水製造装置	GSR-200(Advantec)	1台	[収蔵庫]		
ビードサンプラー	NT-2100(東京科学)	1式	品名	型番(メーカー)	数量
ピストンシリンダー型高圧発生装置	A1型(トライエンジニアリング)	1式	電気炉	MAX1200℃(石塚電気製作所)	1台
マッフル炉	STR-11K(ISUZU 製作所)	1台	電気炉	MAX1500℃(石塚電気製作所)	1台
乾燥機(Dry Oven)	ANS-111S(ISUZU 製作所)	1台	ボルトスライダー(トランス)	S-260-20(200V)(Yamabishi Electric)	1台
超音波洗浄器	UT53N(SHARP)	1台	ボルトスライダー(トランス)	S-260-50(200V)(Yamabishi Electric)	1台
エアコンプレッサー	PA800S(日立製作所)	1台	パワーコントローラー	(石塚電気製作所)	1式
電気泳動装置	Bio-Rad 他	1式	パワーコントローラー	MODEL-SU(チノー)	1式
凍結乾燥機	VD-31 他(TAITEC 他)	1式	ロケットリマー(改)	A型(IWAMOTO)	1台
限外濾過器	XX80(MILLIPORE)	1台	実体顕微鏡	SZH10(オリンパス)	1台
HPLC 装置	PU-980 他(日本分光)	1式	測微計測装置		1台
吸光光度計	MPR・4Ai(TOSOH)	1台	[学芸部]		
アルミブロック恒温槽	DTU-1B(TAITEC)	1台	品名	型番(メーカー)	数量
冷蔵庫	SMR-120YAG(SANYO)	1台	夜間暗視スコープ	M-994(Litton Electric Devices)	1式
遠心分離機	CFS-300, CFA-12(IWAKI)	2台	テレメトリー受信機	RX900(TELEVILT)	1台
マルチポイントスターラー	F-6A(TAITEC)	1台	テレメトリー受信機	FI-290MkII(ヤエス)	2台
ディープフリーザー	BFH-110(ESPEC)	1台	実体顕微鏡	SZH10(オリンパス)	2台
オートクレーブ	SS240(トミー精工)	1台	実体顕微鏡	SMZ-10A(ニコン)	2台
ポータブルクリーンベンチ	APC4型(iuchi)	1台	[その他]		
乾熱滅菌器	DS-450(iuchi)	1台	品名	型番(メーカー)	数量
ドラフト	(ダルトン)	1台	水中撮影写真機材	(ニコン/アンティス)	1式
			骨格標本作成槽		1式
			大型脊椎動物骨格標本作成用砂場		1式
			携帯型GPS	FG-0210(エンベックス)	3台
			大型体重計	TRU・TEST SR2000(フジヤ商会)	1式

5.3. 面積表

[エントランススペース]			[収蔵スペース]		
室名		面積 (㎡)	室名		面積 (㎡)
エントランスホール		782	収蔵庫 1		1,260
	(救護室)	(15)	収蔵庫 2		77
	(幼児室)	(13)	液浸標本収蔵庫		96
	(ミュージアムショップ)	(26)	小計		1,433
	(ともしびショップ)	(35)			
	(ロッカー室)	(17)	[管理スペース]		
レストラン		202	室名		面積 (㎡)
小計		984	館長室		47
[展示スペース]			第1会議室		42
室名		面積 (㎡)	第2会議室		42
ミュージアムシアター		467	管理課事務室		91
1階総合展示室		2,348	企画情報部事務室		83
	(化石ラボラトリー)	(32)	ボランティア・友の会事務局室		34
3階総合展示室		1,245	学習指導員室		49
	(CPUルーム)	(93)	司書室		39
ジャンボブック展示室		581	電話交換室		13
	(ジャンボブック編集室)	(45)	更衣室		13
特別展示室		434	警備員室		29
	(準備室 1)	(74)	(簡易宿泊室)		(14)
	(準備室 2)	(44)	湯沸室		11
小計		5,075	総合案内員室		24
[学習スペース]			中央監視室		29
室名		面積 (㎡)	機械室・電気室等		1,824
講義室		306	倉庫		119
	(講師控室)	(16)	トイレ		332
実習実験室		139	搬入口スペース		70
ミュージアムライブラリー		302	その他(廊下・階段等)		2,166
書庫		120	小計		5,057
小計		867	[地下駐車場]		
[研究スペース]			室名		面積 (㎡)
室名		面積 (㎡)	地下駐車場		4,800.14
学芸員室		246		(清掃作業室)	(32)
共同研究室		39		(トイレ)	(59)
試料分析室		74		(機械室)	(34)
化学分析室		44	小計		4,800.14
	(化学天秤室)	(5)	カッコ内の数字は内数		
クリーンルーム (1)		12			
クリーンルーム (2)		8	本館延床面積		19,020.14 (㎡)
標本製作室		173			
燻蒸室		11	連絡橋 EV 棟		43.86 (㎡)
乾燥室		9			
昆虫標本製作室		17	総延床面積		19,064.00 (㎡)
冷凍乾燥室		39			
大型標本製作室		72			
液浸標本製作室		13			
液浸標本準備室		13			
写真室		18			
準備室		16			
小計		804			

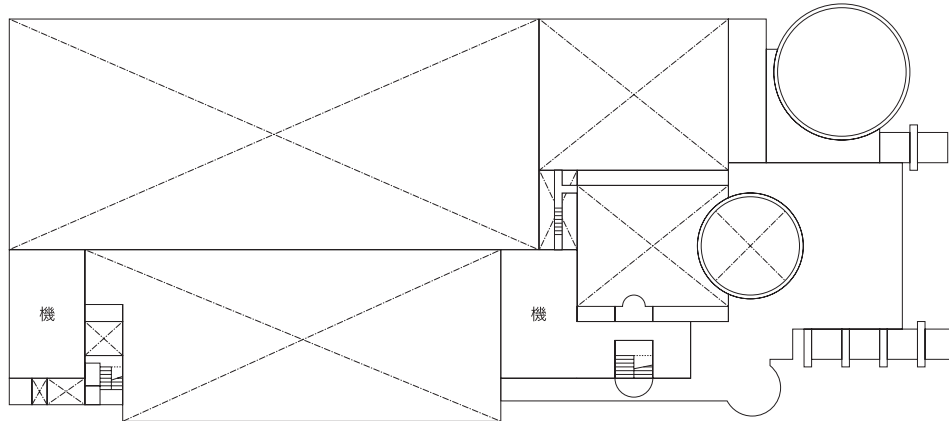
5.4. 平面図



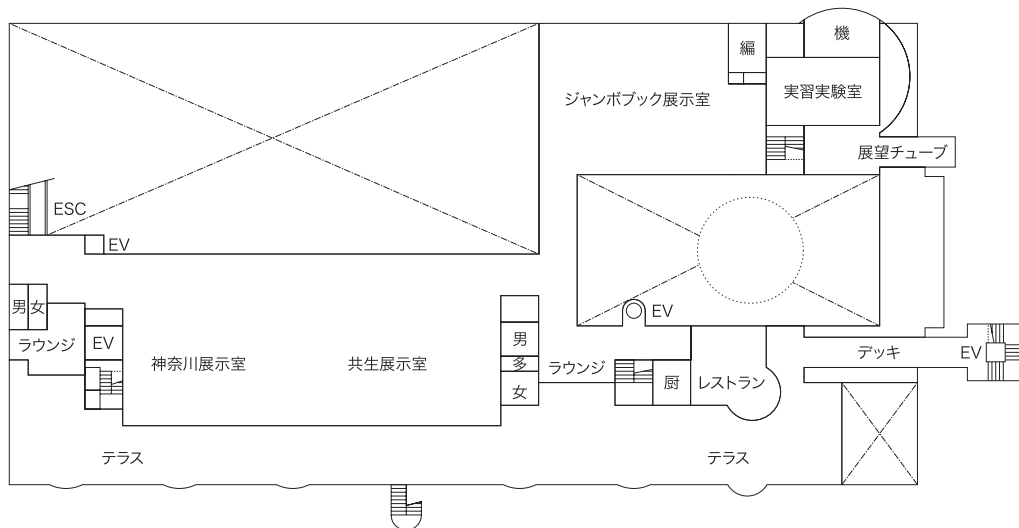
1 : 1,000 (図中の 1cm が 10m)



4F

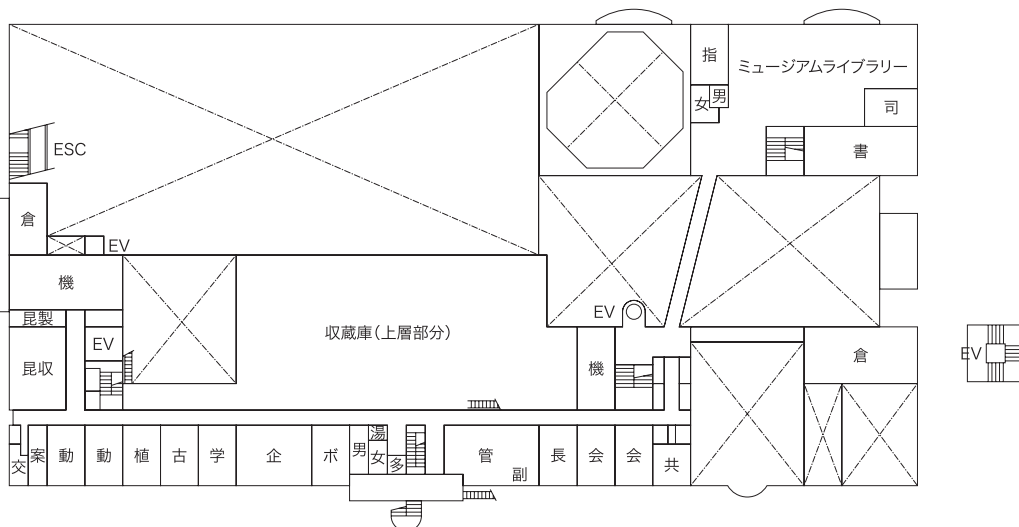


3F

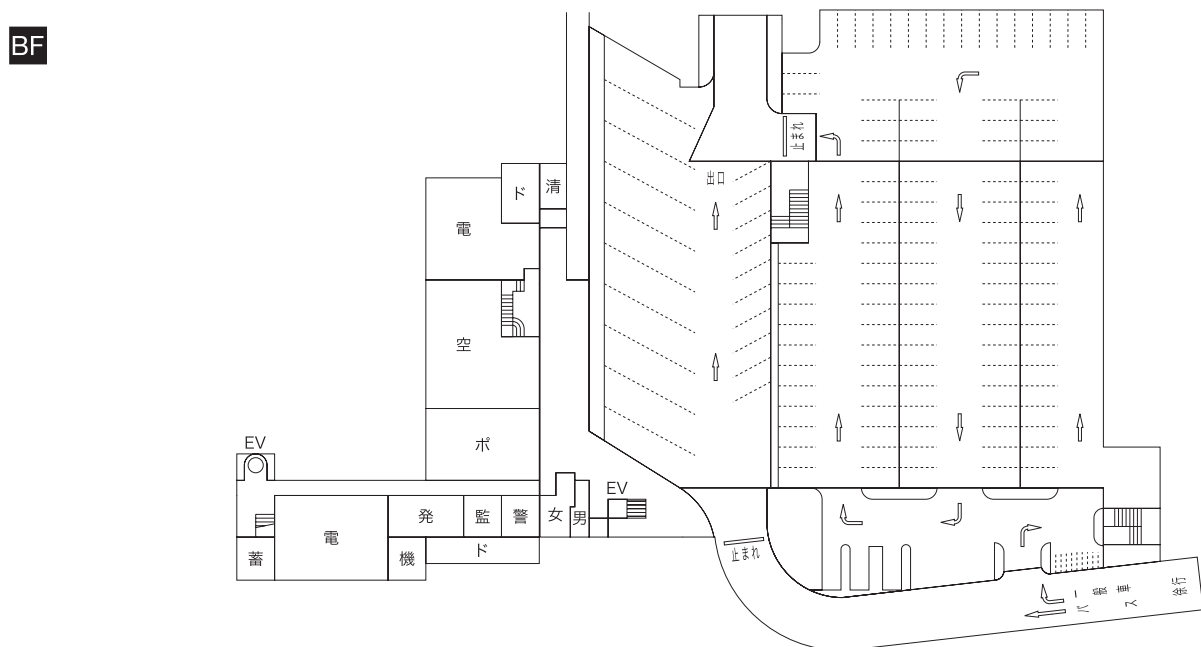
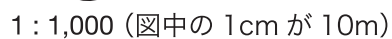


2F

61,000 (mm)



121,000 (mm)



略字	フロア	室名
冷	1	冷凍乾燥室
燻	1	燻蒸室
乾	1	乾燥室
化	1	化学分析室
秤	1	秤量室
ク	1	クリーンルーム
試	1	試料分析室
写	1	写真室
暗	1	暗室
用	1	調査用具倉庫
準	1	準備室
警	B	警備員室
監	B	中央監視室
清	B	清掃作業員室
電	B	電気室
発	B	自家発電機室
蓄	B	蓄電池室
空	B	空調機械室
ポ	B	ポンプ室

ご利用案内

開館時間

9:00～16:30（入館は16:00までです。）

休館日

月曜日（祝日・振替休日にあたる場合は翌平日休館。また、夏季（海の日～9月の第1日曜日まで）は毎日開館します。）

館内設備点検の日（奇数月の第2火曜日）

年末年始（12月29日～1月3日）

入館料

下記表のとおりです。

このほかに、別途料金が必要な特別展を開催することがあります。

区分	個人	団体（20人以上）
20歳以上（学生を除く）	510円	400円
20歳未満・学生	300円	200円
高校生・65歳以上	100円	
中学生以下	無料	

高校生・65歳以上は平成21年7月1日より料金改正

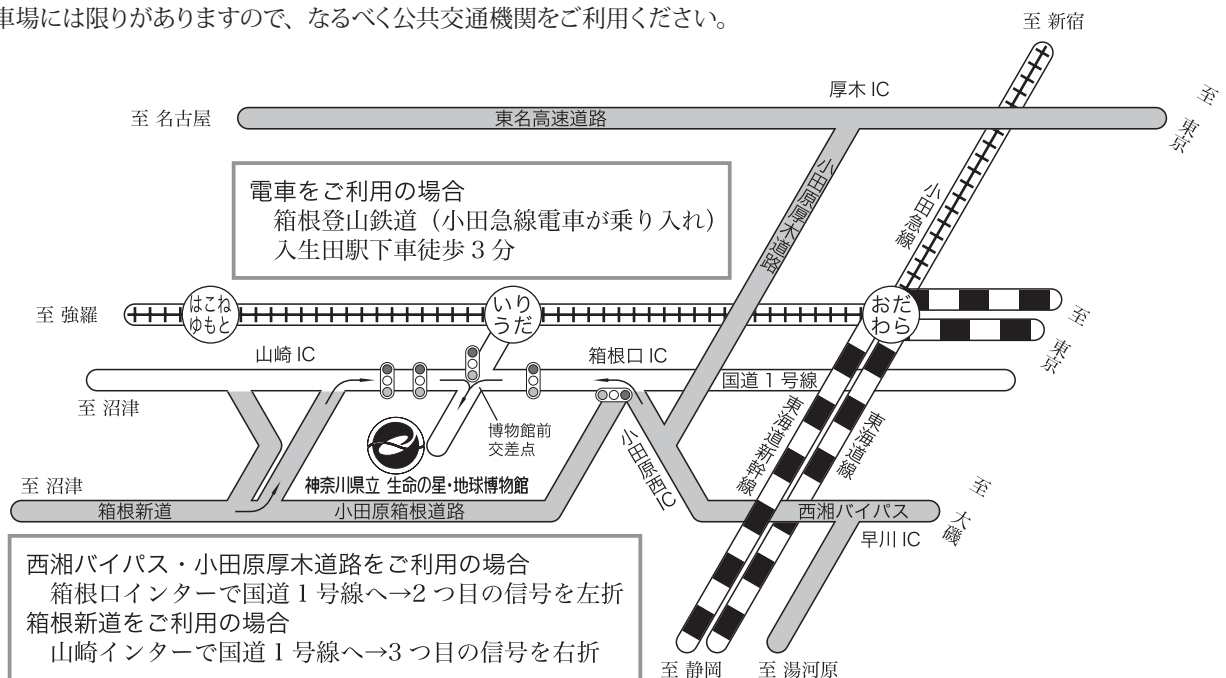
ミュージアムシアター

定時間帯に、博物館の基本テーマ「生命の星・地球」のガイダンス映像や、観客参加型のインタラクティブクイズ映像を、上映しています。

タイトル	通常期		春休み・夏休み・ゴールデンウィーク期間		
	第1回	第2回	第1回	第2回	第3回
生命の星・地球 奇跡の旅立ち	9:30～9:45	14:00～14:15	9:30～9:45	14:30～14:45	
生命の星・地球 生命の輪舞	10:30～10:45	15:00～15:15	10:30～10:45	15:30～15:45	
インタラクティブクイズ 怪人ネイチャーランドの挑戦	11:30～11:50	13:00～13:20	11:30～11:50	12:30～12:50	13:30～13:50

交通

駐車場には限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



神奈川県立生命の星・地球博物館年報 第15号（2009年度）

発行日 2011年2月25日
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 斎藤靖二
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
電話 (0465)21-1515 FAX (0465)23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/>
印刷所 (株)あしがら印刷

編集担当 小野由紀子（管理課）・樽 創（企画情報部）・大島光春（学芸部）

Web版では8ページの「職員名簿」・36～43ページの「寄贈資料」について
氏名を一部省略しています

